

エジプト・アラブ共和国
小規模農家の市場志向型農業改善
プロジェクト (ISMAP)
中間レビュー調査報告書

平成 29 年 2 月
(2017 年)

独立行政法人国際協力機構
農村開発部

農村
JR
16-079

エジプト・アラブ共和国
小規模農家の市場志向型農業改善
プロジェクト (ISMAP)
中間レビュー調査報告書

平成 29 年 2 月
(2017 年)

独立行政法人国際協力機構
農村開発部

序 文

独立行政法人国際協力機構は、エジプト・アラブ共和国（以下、「エジプト」と記す）政府との討議事録（R/D）に基づき、技術協力プロジェクト「小規模農家の市場志向型農業改善プロジェクト」を2014年5月から5年間の計画で実施しています。

プロジェクトの中間時点である2017年1月6日から1月28日までの間、日本・エジプト国側双方での合同評価を通じて、協力期間前半における活動の実績の確認と評価及び後半に向けての課題の抽出と提言を行うことを目的として、中間レビュー調査団を現地に派遣しました。

本報告書は、これらの中間レビュー調査団による現地調査や協議の内容・結果をまとめたものであり、今後のプロジェクト運営に広く活用されることを願うものです。

最後に、これまでプロジェクトの実施にご尽力いただいた関係者の皆様や、中間レビュー調査の実施にあたりご協力をいただいた日本・エジプト両国の方々に深い感謝の意を表するとともに、引き続き一層のご支援をお願いする次第です。

平成29年2月

独立行政法人国際協力機構

農村開発部長 三次 啓都

目 次

序 文

目 次

プロジェクト位置図

写 真

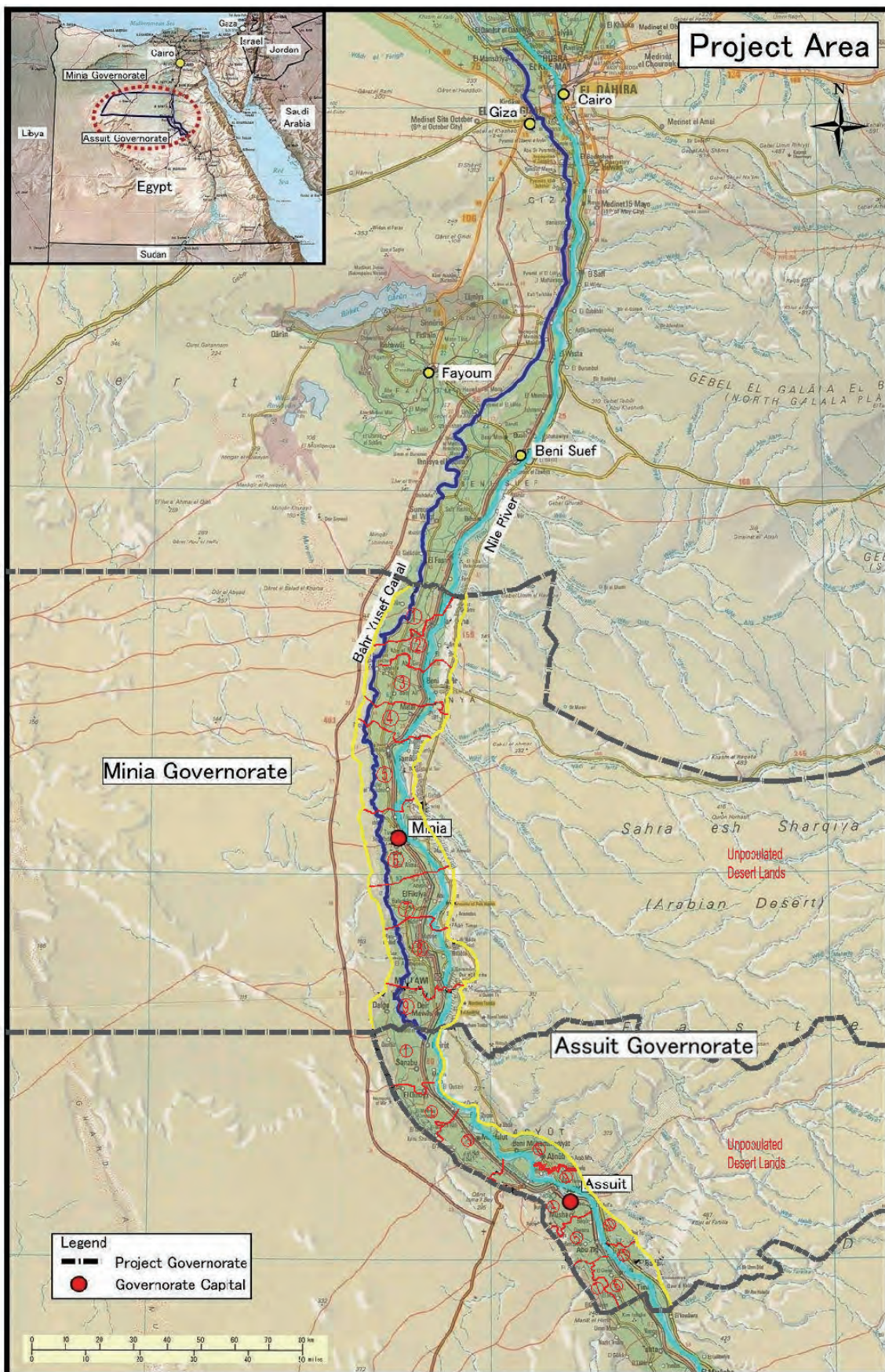
略語表

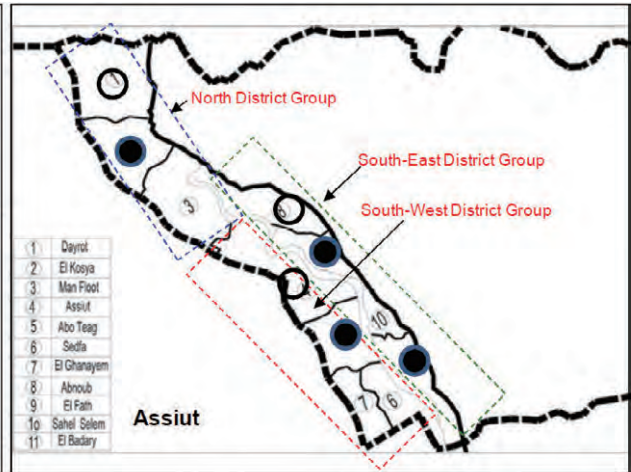
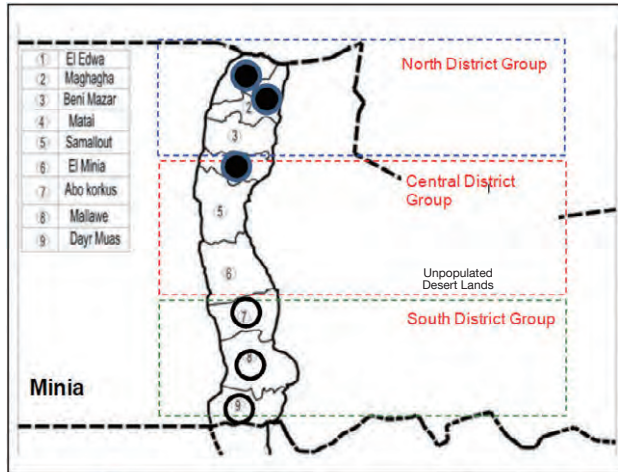
中間レビュー調査結果要約表（和・英）

第1章 中間レビュー調査の概要	1
1-1 レビュー調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 合同レビュー調査団の構成	2
1-3 調査日程	2
1-4 主要面談者	2
1-5 プロジェクト概要	3
1-6 調査手法	5
第2章 プロジェクトの実績と実施プロセス	6
2-1 投入実績	6
2-1-1 日本側投入	6
2-1-2 エジプト側投入	7
2-2 活動の進捗状況	7
2-3 成果の達成状況	8
2-4 プロジェクト目標の達成状況	10
2-5 プロジェクトの実施プロセス	11
2-5-1 実施体制	11
2-5-2 PDMの改訂	11
2-5-3 モニタリングシステム	12
2-5-4 広報活動	13
2-5-5 研修・セミナー・ワークショップ等	13
2-5-6 促進要因・阻害要因	14
第3章 評価5項目による評価	17
3-1 妥当性	17
3-2 有効性	18
3-3 効率性	20
3-4 インパクト	20
3-5 持続性（見込み）	21
3-6 結論	22

第4章 提言	24
4-1 プロジェクトチーム（エジプト側 C/P・日本人専門家）への提言	24
4-2 エジプト側への提言	25
4-3 日本側への提言	25
第5章 団員・団長所感	26
5-1 市場志向型農業団員所感	26
5-2 ジェンダー団員所感	32
5-3 団長所感	38
付属資料	
1. 中間レビュー調査日程	43
2. PDM（version 1）（英文）	44
3. 活動計画表（Plan of Operations）（英文）	49
4. 評価グリッド	51
5. 日本人専門家配置	57
6. エジプト C/P 本邦研修実績	58
7. 供与機材リスト	59
8. ローカルコスト支援	61
9. エジプト C/P リスト	62
10. 研修教材リスト	63
11. PDM1（version 1）から PDM2（version 2）への主な変更点	65
12. PDM 改訂案（version 2）	66
13. 面談録	67
14. 質問票	79

プロジェクト位置図





● 第2サイクル選定郡

○ 第1サイクル選定郡

選定郡の位置図

写



アシュート県農業事務所

真



アシュート県農業事務所 C/P との協議



農家への聞き取り調査
(Abnoub 郡 Abnoub 村)



農家への聞き取り調査
(Man Floom 郡 Man Floom 村)



ジャガイモ展示圃場
(Man Floom 郡 Man Floom 村)



ジャガイモ展示圃場
(Man Floom 郡 Man Floom 村)



農家への聞き取り調査
(Sanabo 郡 Sanabo 村)



コムギとグリーンピースの混作
(Sanabo 郡 Sanabo 村)



農家と普及員への聞き取り調査
(El Kosya 郡 Tetalia 村)



女性による経済活動（食用ハト飼育）
(El Kosya 郡 Tetalia 村)



ミニア県農業事務所 C/P との協議



農家への聞き取り調査
(Abo Korkus 郡 EL Balad 村)



農家への聞き取り調査
(Mallawe 郡 Monshet El Maghalka 村)



農業土地開拓省 C/P との協議（カイロ）



農家への聞き取り調査
(El Edwa 郡 Barmasha 村)



女性活動参加者への聞き取り調査
(Beni Mazar 郡 Gendaya 村)



タマネギ展示園場
(Beni Mazar 郡 Gendaya 村)



ミニア県農業事務所 C/P との協議



農家への聞き取り調査
(Dyre Muas 郡 Manshet Semehan 村)



農家への聞き取り調査
(Mallawe 郡 Manshet Maghalka 村)



アシュート県農業事務所 C/P との協議



農家への聞き取り調査
(Assuit 郡 Moshia 村)



園芸作物の収益で除草機を購入した農家
(Assuit 郡 Moshia 村)



農家への聞き取り調査
(El Sadfa 郡 Awlad Elias 村)



農家への聞き取り調査
(El Sadfa 郡 Awlad Elias 村)



タマネギ展示圃場
(El Sadfa 郡 Awlad Elias 村)



農業サービスフォローアップ局長との協議



第 5 回 JSC (レビュー結果報告)

略 語 表

略 語	正 式 名 称	日 本 語
AES	Agriculture Extension Sector	(農業土地開拓省) 農業普及局
AfDB	African Development Bank	アフリカ開発銀行
ARC	Agricultural Research Center	(農業土地開拓省) 農業研究センター
ARS	Agricultural Research Station	(農業土地開拓省) 農業試験場
ASFS	Agriculture Services and Follow-Up Sector	(農業土地開拓省) 農業サービスフォローアップ局
CAAC	Central Administration for Agriculture Cooperation	(農業土地開拓省・農業サービスフォローアップ局) 農業協同組合中央部
CAAE	Central Administration for Agriculture Extension and Environment	(農業土地開拓省・農業普及局) 農業普及・環境中央部
C/P	Egyptian Counterpart(s)	エジプト側カウンターパート
GDP	Gross Domestic Product	国内総生産
EGP	Egyptian Pound	エジプトポンド
IFAD	International Fund for Agricultural Development	国際農業開発基金
IMAP	Project for The Master Plan Study for Rural Development Through Improving Marketing of Agricultural Produce for Small Scale Farmers in Upper Egypt	農産物流通改善を通じた上エジプト農村振興プロジェクト
ISMAP	Improving Small-scale Farmers' Market-oriented Agriculture Project (The Project)	小規模農家の市場志向型農業改善プロジェクト
JICA	Japan International Cooperation Agency	独立行政法人国際協力機構
JPY	Japanese Yen	日本円
JSC	Joint Steering Committee	合同調整委員会
MALR	Ministry of Agriculture and Land Reclamation	農業土地開拓省
M/M	Minutes of Meeting	協議議事録
M/P	Master Plan	マスタープラン
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PMTC	Project Management and Technical Committee	プロジェクト管理・技術委員会
PO	Plan of Operations	活動計画
R/D	Record of Discussions	討議議事録
SFD	Social Fund for Development	社会開発基金
SHEP	Smallholder Horticultural Empowerment Project	小規模園芸農民組織強化プロジェクト
ToT	Training of Trainers	トレーナー研修
UNDP	United Nations Development Programme	国連開発計画
UNIDO	United Nations Industrial Development Organization	国際連合工業開発機関

略 語	正 式 名 称	日 本 語
USAID	United States Agency for International Development	米国国際開発庁

中間レビュー調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：エジプト・アラブ共和国	案件名：小規模農家の市場志向型農業改善プロジェクト (ISMAP)
分野：農業・農村開発	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：農村開発部 農業・農村開発第二グループ	協力金額（調査時点）：約 5 億円
協力 期 間	(R/D)： 2014年5月27日～ 2019年5月26日(5年間)
	先方関係機関：農業土地開拓省 (MALR) 農業サービスフォローアップ局 (ASFS)、農業普及局 (AES)
	日本側協力機関：特になし
	他の関連協力：特になし
1-1 協力の背景と概要	
<p>エジプト・アラブ共和国（以下、「エジプト」と記す）の農業は、2015年時点で、GDPの約11%、就業人口の約28%を占める重要産業の1つである（世銀2016）。特に、カイロ以南のナイル川流域（上エジプト地域）では農業セクター就業者は約55%に達し（USAID 2016）、地域の重要産業となっている。</p> <p>エジプトでは、貧困層が全人口のおよそ3割（UNDP 2015）を占めているが、上エジプト地域には貧困層の6割が居住し、同地域の農村部では住民の43.7%が貧困状態に置かれている。同地域の農業の中心地帯ともいえるミニア県、アシュート県では、農家の9割近くが小規模農家であり、小規模農家に対する支援は、同地域の貧困削減と発展に貢献する重要な課題である。</p> <p>農産物生産を通じた所得向上には、生産面の問題（優良種子生産、栽培技術、病虫害防など）に加えて、収穫・出荷までの営農資金の調達、販売の不確実性、仲買多重化による収益の圧迫などの販売・流通の問題への対応が求められるため、高い収益が期待できるものの換金作物栽培に参入する小規模農家は少ない。</p> <p>農家への指導を担う機関である農業土地開拓省（Ministry of Agriculture and Land Reclamation：MALR）は県、郡、村レベルまで普及員を配置しているものの、普及員の能力不足、予算不足により栽培に係る新技術や営農改善の指導、マーケティング支援を十分に行えていない。また、農協がすべての農村で組織されており、土地、建物などの財産や教育レベルの比較的高い常勤職員を有し、農民組織としてのポテンシャルをもつものの、農家の商業活動に関する能力・経験が不足しており、その機能を十分に担えていない。</p> <p>かかる状況の下、わが国はMALRと2013年12月にR/Dを締結し、これらの課題に対して、市場志向型アプローチに基づいた小規模農家の農業を改善し、これを支援するための、行政による普及システムの強化、普及員及び農協職員の能力向上を目的とした技術協力プロジェクト「小規模農家の市場志向型農業改善プロジェクト」（Improving Small-scale Farmers' Market-oriented Agriculture Project：ISMAP）（以下、「本プロジェクト」）の実施を合意した。本プロジェクトはMALR 農業サービスフォローアップ局（Agriculture Services and Follow-Up Sector：ASFS）及び農業普及局（Agriculture Extension Sector：AES）を実施機関として、2014年5月から5年間の予定で実施されている。</p> <p>今回の中間レビューでは、既存PDM及び活動計画に基づきプロジェクトの投入実績と達成度を調査・確認し、問題点を整理するとともに、プロジェクトチーム、エジプト側関係者ともに評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性）の観点から、分析・評価するとともに、プロジェクトの残り期間の課題及び今後の方向性について確認し、合同中間レビュー報告書に取りまとめ、合意することを目的とする。</p>	

1-2 協力内容

- (1) 上位目標：ミニア県及びアシュート県のプロジェクト対象作物を栽培する小規模農家の農業所得が向上する。
- (2) プロジェクト目標：ミニア県及びアシュート県のプロジェクト対象小規模農家並びに周辺小規模農家の農業所得が向上する。
- (3) 成果
- 成果1：市場志向型アプローチに基づいた普及フローが確立する。
- 成果2：付加価値の高い農産物を生産する技術が開発・検証される。
- 成果3：対象農業協同組合（農協）の活動計画策定・実施能力が強化される。
- 成果4：対象農協内及び対象郡内で市場志向型アプローチに基づいた営農手法が広まる。
- (4) 投入
- 1) 日本側
- 専門家：短期専門家 延べ6名（約61.6人/月）（2016年12月末時点）
- 本邦研修：22名（東海農政局/愛知県農林水産部/名古屋市北部卸売市場/沖縄県北部農林水産振興センター他）
- 機材購入：総額約192万円（2016年6月時点）OA機器（パソコン、プリンター、デジタルカメラなど）
- ローカルコスト負担：970万円（2016年6月時点）
- 2) エジプト側
- カウンターパート（C/P）配置：延べ33名（現在24名）（2016年12月末時点）
- 施設提供：専門家執務室〔カイロ（MALR）、ミニア/アシュート県（農業事務所）〕
- ローカルコスト負担：C/P給与、執務室光熱費等

2. 評価調査団の概要

	担当分野	氏名	所属
日本側	総括	仲田 俊一	JICA 国際協力専門員
	市場志向型農業	相川 次郎	JICA 国際協力専門員
	ジェンダー	久保田 真紀子	JICA 国際協力専門員
	協力企画	小河 智子	JICA 農村開発部 農業・農村開発第二グループ第三チーム
	評価分析	東野 英昭	株式会社レックス・インターナショナル シニアコンサルタント
エジプト側	メンバー	Mrs. Manal Zein El-Abdeen	モニタリング・評価コンサルタント〔Sustainable Agriculture Investments and Livelihoods (SAIL) プロジェクト〕
	メンバー	Eng. Ahmad Salah Ibrahim	モニタリング・評価コンサルタント (On-Farm Irrigation Development Projects in the Old Lands プロジェクト)
調査期間	2017年1月6日～2017年1月28日		評価種類：中間レビュー

3. 評価結果の概要

3-1 実績の確認

(1) プロジェクト目標の達成状況

プロジェクト目標：ミニア県及びアシュート県のプロジェクト対象小規模農家並びに周辺小規模農家の農業所得が向上する。

指標：プロジェクト対象小規模農家の平均農業所得（村落ごとの平均値）が、対象作物別で40%～100%、世帯別で6%～22%増加する。

【達成状況】 中間レビューの時点では、まだ指標は十分に達成されていない。

2016年の7月から9月にかけて実施した第1サイクルの対象村落に関する評価調査で収集されたデータに基づき、2014年夏作の収入をベースラインとし、2015年の夏作による収入との比較を行った結果は、対象6村中、4村で上記指標を達成したが、2村では未達であった。

指標の達成状況を判断するデータ自体も不足していた。少なくとも、第1サイクル、第2サイクルの対象村落について、2016年の夏作による収入に関するデータを収集し、比較検討する必要がある。

上エジプト社会の保守的な規範などを背景として、協力期間の前半では、対象農家の参加が十分に得られなかったことも勘案し、中間レビューの時点で指標の達成は、まだ限定的であると判断する。

(2) 成果の達成状況

成果1：市場志向型アプローチに基づいた普及フローが確立する。

指標 1a：市場志向型アプローチによる普及フロー案が考案される。
おおむね達成された。

- ・ 第1サイクルと第2サイクルの普及フロー案が、それぞれ、2015年7月、2016年6月の時点で策定されている。
- ・ 第1サイクルと第2サイクルにおいては、対象農家のプロジェクト活動への参加が不十分であり対応が求められた。プロジェクトチーム(日本人専門家と県C/P)は、対象農家の選抜方法の修正や、活動参加記録帳(通称パスポート)の採用などで農家の参加を促したが、参加の改善は限定的であった。
- ・ 第3サイクルでは、マーケティング協議会(参加意欲の高い10名程度の対象村の農家から成る)を市場志向型農業普及のメカニズムとして導入するなど、普及フローの変更を行った。
- ・ 第3サイクルでは、デモ圃場の効果を高めるために、トライアルファーマーミングも開始されている。

指標 1b：市場志向型アプローチによる普及フロー案の作成及び改善プロセスについての関係者による5段階評価の平均点が4以上である。
達成された。

- ・ 2017年1月に、関係者(エジプト側C/P)による、市場志向型アプローチによる普及フロー案の作成及び改善プロセスについての評価が行われた。
- ・ その結果、5段階評価の平均点が4.5となり、指標は達成された。
- ・ エジプト側C/Pは、普及フロー案の作成及び改善プロセスについて高く評価しており、普及フローを、対象農家、市場、村落の状況に応じて、常に改善していく必要性についても理解している。

	<p>指標 1c：プロジェクト活動の実施を通じ改善された市場志向型アプローチによる普及フローが合同調整委員会（Joint Steering Committee：JSC）で承認される。</p> <p><u>未達成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、普及フローは第3サイクルの活動の実施結果に基づく修正を想定している。 ・ マーケティング協議会による農家への普及が、これまでのところ、うまく機能しているとみられる。
<p>成果2：付加価値の高い農産物を生産する技術が開発・検証される。</p>	<p>指標 2a：検証・開発された技術に関するガイドライン・マニュアルが作成される。</p> <p><u>達成された。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間レビューの時点で、57の研修教材が活用可能となっている（付属資料10）。 ・ 第1サイクルで、AES、農業研究センター（Agricultural Research Center：ARC）、アシュート県農業事務所が作成した技術ガイドラインやマニュアルの内容を確認し、プロジェクトの研修に活用可能な教材の選択を行った。 ・ 同様に、第2、第3サイクルでは、ARC、アシュート県農業事務所に加えて、ミニア大学、El Azhar 大学が作成した技術ドキュメントから、プロジェクトの研修教材として利用できるものが選択された。 ・ 以上に加えて、プロジェクトチームも7種の教材を作成している。 <p>指標 2b：検証・開発された技術の70%以上が普及員向けトレーナー研修（Training of Trainers：ToT）に含まれる。</p> <p><u>おおむね達成された。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクトによって導入された主な栽培技術は以下のものである。 <ul style="list-style-type: none"> － 夏作の混作（トマトとヒマワリ、キュウリとヒマワリ） － 新品種の導入（ニンニク、トマト、キュウリ、ゴマ、ダイズ、ジャガイモ） － コンポストイング － 端境期栽培（ニンニク、キュウリ、トマト） ・ プロジェクトによって導入された新たな技術は、基本的にすべて ToT に含まれる予定である。
<p>成果3：対象農業協同組合（農協）の活動計画策定・実施能力が強化される。</p>	<p>指標 3a：対象農協の小規模農家の所得向上に向けた活動計画が作成される。</p> <p><u>おおむね達成された。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1、第2サイクルで対象となった農協は、既に活動計画を策定している（2015年5月及び2016年3月）。 ・ 第3サイクルの対象農協についても、SWOT分析による現状分析が行われた。

	<p>指標 3b：対象農協の活動計画に基づく活動が 70%以上達成される。</p> <p><u>未達成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対象農協の多くが、ビジネスダイアログに参加したアグリビジネスと関係を維持していることは評価できる。 ・ しかし、日本人専門家によれば、人員と予算の不足から農協の計画実施能力はまだ脆弱であり、活動計画の実施は不十分である。 ・ 実施能力に欠ける農協については、活動計画の見直しや、十分なモニタリング、フォローアップの必要性を検討する必要がある。
<p>成果 4：対象農協内及び対象郡内で市場志向型アプローチに基づいた営農手法が広まる。</p>	<p>指標 4a：対象農協によって営農手法の普及計画が作成される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成果 4 に関する活動は、2017 年 7 月からの実施が予定されている。
	<p>指標 4b：対象農協内において市場志向型アプローチによる新たな農業活動が行われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成果 4 に関する活動は、2017 年 7 月からの実施が予定されている。
	<p>指標 4c：郡農業事務所による営農手法の普及計画が作成される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成果 4 に関する活動は、2017 年 7 月からの実施が予定されている。
	<p>指標 4d：対象郡内で新たな農協の農業活動が行われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成果 4 に関する活動は、2017 年 7 月からの実施が予定されている。
<p>3-2 評価結果の要約（評価結果は、高い・やや高い・中程度・やや低い・低いの 5 段階）</p> <p>(1) 妥当性：高い</p> <p>本プロジェクトは、エジプト側の開発政策、上エジプト地域の社会ニーズ、日本の ODA 政策と整合していることから、中間レビューの時点でも妥当性は高い。</p> <p>(2) 有効性：中程度</p> <p>プロジェクト目標指標の達成が不十分である。第 1 サイクルの対象 6 村落中、4 村で上記指標を達成したものの、2 村では未達であった。協力期間の前半では、対象農家の参加が十分に得られなかった。</p> <p>(3) 効率性：中程度</p> <p>日本側の投入はおおむね適切であったが、エジプト側のプロジェクト活動経費は投入されなかった。エジプト側 C/P（プロジェクト・ダイレクター及びマネジャー）が頻繁に交代し、課題への対応がなされなかった。成果の発現も、農家の参加が十分に得られず限定的であった。</p> <p>(4) インパクト</p> <p><u>上位目標達成見込み（想定された正のインパクト）：</u></p> <p>上位目標：ミニア県及びアシュート県のプロジェクト対象作物を栽培する小規模農家の農業所得が向上する。</p> <p>指標：ミニア県及びアシュート県でプロジェクト対象作物を栽培する小規模農家において農業所得が 13%上昇する。</p>	

これまでのプロジェクトの進捗と、現在のエジプトの財政状況や、上エジプト地域の社会規範等の諸条件を勘案すると、この指標を、プロジェクト期間終了後の3年から5年の間に達成するのは困難とみられる。

他のインパクト

技術面（園芸作物栽培技術）、社会・経済面（市場志向型農業の導入、ジェンダー）のインパクトがプロジェクト期間の後半以降にはみられるものと期待される。

(5) 持続性（見込み）：やや低い

中間レビュー時点のプロジェクトの持続性（見込み）は、やや低いものとする。特に財政面、技術・管理面での持続性に懸念がある。

3-3 効果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること

特になし。

(2) 実施プロセスに関すること

1) 本邦及び第三国研修

本邦と第三国での研修は、エジプト側 C/P のプロジェクトへの理解促進と、参加意欲向上に効果があった。

2) デモ圃場の実施

上エジプト地域の農家の気質を考えると、対象村落におけるデモ圃場の実施は、プロジェクトへの関心を喚起するうえで効果があった。

3) 上エジプトの地域社会におけるジェンダー課題に配慮したプロジェクトアプローチ

プロジェクトが指向している「上エジプトの地域社会におけるジェンダー課題に配慮したアプローチ」は、女性の積極的で継続的なプロジェクト活動への参加を促すことに貢献した（例：女性のみを対象とした研修の実施、屋内で実施可能な活動へのフォーカス等）。

3-4 問題点及び問題を惹起した要因

(1) 計画内容に関すること

特になし。

(2) 実施プロセスに関すること

1) 対象農家のプロジェクト活動への参加不足

第1サイクル及び第2サイクルにおいて、対象農家の継続的なプロジェクト活動への参加が得られなかった。

2) エジプト政府の活動予算不足

協力期間の2年目からは、エジプト側の C/P ファンドによる活動経費（研修費用、交通手段等）負担がなされることとなっていたが、予算は確保されずに現在に至っている。

3) エジプト C/P（プロジェクト・ダイレクター及びマネジャー）の頻繁な交代

プロジェクト開始から2年半の間に、プロジェクトダイレクターの交代は4回、プロジェクト・マネジャーの交代は3回を数え、情報の引き継ぎ、プロジェクトの課題に対する対応が遅れてきた。

4) 上エジプト地域の保守的な社会規範

保守的な考えをもつ農家は、栽培作物の変更を受け入れない傾向がみられた。また、ジェンダー主流化活動についても、農村部では、女性は家庭にとどまり、男性のみが社会的な活動をするという社会規範の存在が根強く、女性に男性と同様の農作業の参加を促すことが困難であった。

5) 女性活動の対象選定とフォローアップに関する戦略の不足

女性たちがもつ、グループ活動に対する抵抗感なども要因となり、女性たちの積極的参加にもかかわらず、市場志向型アプローチの浸透、あるいは収入の向上という視点からみると、成功に至った活動はまだ少ない。女性たちの初歩的な技術知識の不足による失敗もみられた。女性活動の対象選定と活動のフォローアップに関する戦略の不足がその背景にあった。

6) プロジェクト活動に対するモニタリングの不足

日々のモニタリングを行う農協職員は、限られた時間のなかで、交通手段をもたず、また、能力向上のための研修の受講も十分でない状態で業務を行っており、農家に対しても、適切な助言を、適時に与えるという状況からは遠い。女性活動については、ビジネスプランの策定・実施能力が不足している。

7) 女性活動支援のモチベーション

女性活動の支援をする専門家と行政官の配置が不足しており、プロジェクト活動の負荷が大きくなっており、活動の実施に対するモチベーションが停滞する状況もみられる。女性活動がプロジェクトの重要コンポーネントでありながら、PDMに明記されておらず、女性活動に対する理解不足を生んだ側面も否定できない。

3-5 結論

プロジェクトの妥当性は、中間レビュー時にも高いことが確認されたが、その他の項目については総じてやや不本意な評価結果となった。

プロジェクト目標の達成状況が不十分であったことから、有効性は中程度と評価された。また、協力期間の前半では、対象農家の参加が十分に得られず、成果の発現が限定的であったこと、エジプト側の投入の状況に課題がみられたことから、効率性も中程度との評価となった。

インパクトについては、上位目標の指標が過大な設定となっており、プロジェクトの進捗と対象地域の社会環境などを勘案すると、協力期間終了後3～5年以内での上位目標の達成見込みは低いものとみられる。しかし、現時点では顕在化していない技術・社会・経済的なインパクトが、協力期間の後半で生じることが期待できる。

プロジェクトの持続性（見込み）は現時点では「やや低い」と判断される。財政面、技術面、管理面での持続性に懸念がある。これらの課題への対応を、以下の提言に取りまとめた。

3-6 提言

(1) プロジェクトチームに対する提言

1) 今後の活動の方向性

- ①プロジェクトチームは、より多くの成功事例を作り出すため、これまでの活動が比較的
成功してきた村落、行政官と普及員の活動が活発であった村を選択し、集中的なフォロー
アップを行うこと。
- ②デモ圃場の周辺小規模農家への効果を一層引き出すために、デモ圃場の設置数を増やし、
耐久性のある看板を設置する。また、成功事例について、周辺の小規模農家だけでなく、
MALR（本省）にも周知する。
- ③プロジェクトチームは、女性活動のこれまでの実施プロセスを再度検討すること。また、
市場志向型アプローチに基づく農業活動を実践し得る能力強化につなげていくうえでの
カギとなる要素を明らかにすること。
- ④プロジェクトチームは、これまでに選択された村落と対象地域のグループに対する支援
に集中することで、優良事例の創出に焦点を当てる。対象グループ（女性を含む）の選
定基準確立と運用に加え、女性の収入創出活動分野を決定する際に、フィージビリティ
の有無を検討する。

2) モニタリングの強化

- ①県の C/P と日本人専門家は、営農活動についてモニタリングを行うフォーマットを作成
し、ワークショップを通じてそれらの情報を収集する（各サイクルにおいて、栽培前と
収穫後に各 1 回、計 2 回の農家レベルのモニタリングを行う）。
- ②MALR にテクニカルコミッティー（TC）を設置しプロジェクト活動のモニタリングを
強化する。TC はプロジェクトマネジャー、カイロの C/P、県の C/P リーダー、日本人
専門家で構成される。TC は、プロジェクトの進捗状況、成果、プロジェクト目標の達
成状況の確認、課題への対応を行うために、四半期に 1 回程度現場視察とモニタリング
を行う。
- ③県の C/P と日本人専門家は、共通のモニタリングシートを用い、現場での活動について
毎月モニタリングを行い TC に報告する。

3) 通常の普及活動への ISMAP 成果の活用

- ①プロジェクト終了後も ISMAP の成果が既存の普及システムのなかで活用されることが
重要である。プロジェクトチームは、MALR の既存の普及活動に関する情報を収集し、
ISMAP の成果の活用方法について協議する。
- ②プロジェクトチームは既存の普及ガイドラインやマニュアルをどのように改善するかに
ついて協議し、今後プロジェクトに参加していなかった農家にも ISMAP アプローチが
活用できるようにする（識字率の低い農家のためのイラストや写真によるガイドライン
作成、1 枚のシートに栽培技術を要約して示す営農カレンダーなど）。
- ③受益者のオーナーシップを醸成するため、農家に対するフルスケールの支援を徐々に引
き下げていくこと。

4) 円滑なプロジェクト運営に向けて

- ①県の C/P はプロジェクト予算の確保のため、プロジェクトの活動に対する具体的な年間

計画を MALR に対し提示する。また、月々のモニタリングレポートの提出を行う。日本人専門家はそれを支援する。

②プロジェクトチームは PDM の指標について見直しを行う。具体的には、現実的な上位目標の設定、プロジェクト目標指標の平易な表現への修正、農家の行動変容を測るための指標並びに女性活動に関する指標の導入が必要である。プロジェクトチームは、レビュー調査団による修正 PDM 案（付属資料 11 及び 12）を参照して PDM を修正し、速やかに JSC で協議し、承認を得ること。

(2) エジプト側に対する提言

1) プロジェクト活動予算の確保

エジプト政府は R/D で合意されたローカルコストの負担のため、プロジェクト予算を確保する。

(3) 日本側に対する提言

1) 専門家人員追加の検討

JICA は今後の詳細な活動計画について関係者と協議し、必要に応じて追加的な人員の投入を検討する。

Summary of Mid-term Review Results

1. Outline of the Project	
Country: Arab Republic of Angola	Improving Small-scale Farmers' Market-oriented Agriculture Project
Sector: Agriculture and Rural Development	Cooperation Scheme: Technical Cooperation Project
Division in charge: Agricultural and Rural Development Group2, Rural Development Department	Total Cost: 500 million yen
Period of Cooperation(R/D): From May 27 2014 to May 26, 2019 (five years)	Partner Country's Implementation Organization: Ministry of Agriculture and Land Reclamation (MALR)
	Supporting Organization in Japan: none
1-1. Background of the Project	
<p>In the Arab Republic of Egypt (hereinafter referred to as Egypt), agriculture is one of the most important economic sectors contributing to about 11% of GDP in 2015 and employing about 28% of the working population in 2013. Agriculture is significantly important in Upper Egypt, located to the south of Cairo, where over 55% of employment is agriculture related. The proportion of poverty is estimated to be approximately 25% of the total population in Egypt while the rate is as high as about 52% in the rural area of Upper Egypt.</p> <p>In Minia and Assuit governorates, agriculture production center of Upper Egypt, small-scale farmers account nearly 90% of all the farmers. Hence, support to small-scale farmers is considered a crucial issue to be addressed for rural development through poverty mitigation.</p> <p>To increase income from agricultural production, it is necessary for small-scale farmers to properly respond to various challenges related not only to production (procurement of quality seeds, cultivation techniques, and prevention of insects and diseases), but also to securing budget for harvest and shipment. Farmers are also faced with uncertainty of marketing, changes of commodity prices, suppression on the profit by middlemen, etc. As a result, few small-scale famers try to enter into cash crop farming in Upper Egypt, while high profitability can be expected.</p> <p>The Ministry of Agriculture and Land Reclamation (MALR) deploys extension workers at governorate, district and village levels for the purpose of instruction and guidance to famers. However, due to shortage of operation budget and extension workers, guidance to famers in terms of cultivation methods, farm management, and marketing has not been done sufficiently.</p> <p>Meanwhile, in Egypt, agricultural cooperatives are established in every village, and have certain degree of potential to take a leading role to guiding famers for livelihood improvement, as they possess assets (land, buildings, facilities, etc.), as well as permanent staffs with relatively high educational background. Nevertheless, they are lacking in experiences and knowledge to assist farmers to execute commercial activities and cannot take the advantages of their assets and human resources.</p> <p>Under the circumstances, the Government of Egypt submitted a request to the Government of Japan for a technical cooperation project in order to address the issues in Minia and Assuit governorates, Upper Egypt, mentioned above. In December 2013, both the governments signed R/D and "Improving Small-scale Farmers' Market-oriented Agriculture Project (ISMAP)" was commenced in May 2014 with the cooperation period of five years.</p> <p>The Project aims at improving small-scale famers' farming based on the market-oriented approach, and strengthening the governmental extension system, and capacity development of extension workers of the government and agricultural cooperatives. Along with the market-oriented farming, gender mainstreaming is an important strategy in the Project implementation to enhance women's capacity in their farming, family welfare and the livelihood improvement.</p> <p>In Jnauary 2017, at the middle point of the cooperation period, JICA conducted Mid-term Review to ascertain the progress of the Project, and to provide recommendations for the future course of the Project jointly with the Egyptian stakeholders.</p>	
1-2. Project Overview (PDM (version 1.0))	
(1) Overall Goal: Agricultural incomes of the small-scale farmers in Minia and Assiut Governorates are increased.	
(2) Project Purpose: Agricultural incomes of the target small-scale farmers and surrounding small-scale farmers in the project are increased.	
(3) Output:	
1. Market-oriented extension approach is established.	
2. Agricultural techniques for value-added products are examined and developed.	
3. Capacities for making and implementing action plans of the agricultural cooperatives are strengthened.	
4. Farming methods based on the market-oriented approach are deployed within the target agriculture cooperatives and in districts.	
(4) Inputs	
Japanese Side	
<ul style="list-style-type: none"> • Dispatch of Experts: 6 Short-term Experts (61.6 M/M) (as of the end of December 2016) • Overseas Training: Three times :a total of 22 Egyptian C/P dispatched. • Procurement of Equipment (as of July 2016): Approximately 1.92 million yen (Personal computers, printers, digital camera, etc.). • Local Cost Assistance (as of July 2016): Approximately 9.7 million (transportation, cost for trainings, etc.). 	
Egyptian Side	
<ul style="list-style-type: none"> • Allocation of C/P: a total of 33 C/P has been assigned; 24 C/P are assigned as of the end of December 2016. 	

<ul style="list-style-type: none"> • Facility: Office space for the Japanese experts in Cairo (MALR), in the Agricultural Directorate in Mina and Assuit Governorates • Project Running Cost: Salary of C/P, utilities, etc. 	
2. Mid-term Review Team	
Japanese Side	Egyptian Side
<p>(1) Mr. Shunichi NAKADA (Leader) Senior Advisor on Agricultural Policy for JICA</p> <p>(2) Dr. Jiro AIKAWA (Market Oriented Agriculture), Senior Advisor on Agriculture and Rural Development for JICA</p> <p>(3) Ms. Makiko KUBOTA (Gender), Senior Advisor on Gender and Development for JICA</p> <p>(4) Ms. Tomoko OGAWA (Cooperation Planning), Associate Expert, Agricultural and Rural Development Group 2, Rural Development Department, JICA</p> <p>(5) Dr. Hideaki HIGASHINO (Evaluation Analysis), Senior Consultant, RECS International. Inc.</p>	<p>(1) Mrs. Manal Zein El-Abdeen (Member) Monitoring and evaluation consultant in the Sustainable Agriculture Investments and Livelihoods Project (SAIL)</p> <p>(2) Eng. Ahmad Salah Ibrahim (Member) Monitoring and evaluation consultant in the National Program “On-Farm Irrigation Development Projects in the Old Lands”</p>
Period of Review: January 6-January 28, 2017	Type of Evaluation: Mid-term Review
3. Results of Review	
3-1. Project Performances	
(1) Summary of Project Purpose Achievements	
<i>Project Purpose: Agricultural incomes of the target small-scale farmers and surrounding small-scale farmers in the project are increased.</i>	
<i>Indicator: The agricultural incomes of the target small-scale farmers in the Project are increased by 40% - 100% by target crop and village, and 6% - 22% by household and village</i>	
<p>At the time of Mid-term Review, the degree of achievement of Project Purpose is mediocre according to available income data in terms of farmers selected in the 1st cycle. The data collected through evaluation study conducted from July to September 2016 by the Project; data of income from summer cropping 2014 and 2015, showed that the income of farmers in four out of six target villages exceeded the respective target income increase, while remaining two villages fell short of the targets. In order to accurately judge the degree of achievements, more complete set of data including the data of summer cropping in 2016 in both the 1st and 2nd cycle villages, is required.</p>	
(2) Summary of Output Achievements	
Output 1: Market-oriented extension approach is established.	
Indicator 1a. The draft plan of extension flow based on the market-oriented approach is formulated.	<p><u>Almost Achieved</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • The draft plan of the extension flow for the 1st and the 2nd cycles were prepared in July 2015 and June 2016, respectively. • During the 1st and 2nd cycles, inconsistent or irregular participation of target farmers was one of the issues to be addressed. The Project Team tried to encourage farmers to participate by adjusting selection criteria of the target farmers and provision of attendance record book called “Passport”. However, no significant improvement of farmers’ attendance was made. • To address the issue, modification of the extension flow for the 3rd cycle was made including introduction of the Marketing Committee comprised of around 10 interested and active farmers in the target village as a core functional mechanism for disseminating the market-oriented approach. • The trial farm was also introduced in the extension activities in the 3rd cycle to enhance demonstration effects.
Indicator 1b: The average score of evaluation on formulation and revision process of the plan of extension flow is higher than 4 in the five-grade evaluation by the relevant stakeholders.	<p><u>Achieved</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • Evaluation by the relevant stakeholder (Egyptian C/P) on the formulation and revision process of extension flow was conducted in January 2017. • The average score of evaluation was 4.5 out five- grade evaluation, and the indicator b is satisfied. • Egyptian C/P think highly of the formulation and revision process of the extension plan, and understand the necessity to continuously revise the plan of the flow from now on according to the conditions of the target farmers, villages, market, etc.
Indicator 1c. The extension flow based on the market-oriented approach, which is revised through implementing project activities, is approved by the Joint Steering Committee (JSC).	<p><u>Not achieved yet</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • Currently, the extension flow is under revision based on the results of implementing the Project activities of the 3rd cycle. • Mid-term Review Team confirmed that the Committee has been functioning well so far, and expects that extension flow with the Committee incorporated as a core functional mechanism will be adopted and approved by JSC within 2017.
Output2: Agricultural techniques for value-added products are examined and developed.	

<p>Indicator 2a. Guidelines and manuals on the examined and developed agricultural techniques are made.</p>	<p><u>Achieved</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • At the time of Mid-term Review, a total of 57 training materials are available. Details are as in ANNEX 10. • In the 1st cycle, technical guidelines and manuals prepared by Agriculture Extension Sector, ARC and Assuit Agricultural Directorate were reviewed, selected and utilized for the Project training activities. • Similarly, in the 2nd and 3rd cycles, training materials prepared by ARC, Minia University, Assuit Agricultural Directorate, El Azhar University were reviewed, selected and utilized for the Project training activities. • Over the three cycles, the Project Team also prepared seven materials.
<p>Indicator 2b. More than 70% of the examined and developed agricultural techniques are included to the Training of Trainers for extension staff.</p>	<p><u>Almost Achieved</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • Significant agricultural techniques introduced by the Project are as follows: <ul style="list-style-type: none"> - Intercropping in summer cropping (tomato and sunflower, and cucumber and sun flower) - Introduction of new and appropriate varieties (garlic, tomato, cucumber, sesame, soybean, Irish potato) - Composting - Off-crop Season Cultivation (garlic, cucumber and tomato) • All the techniques introduced under the Project will be included to ToT for the extension staff by the Project Team.
<p>Output3: Capacities for making and implementing action plans of the agricultural cooperatives are strengthened.</p>	
<p>Indicator 3a. Action plans for improving agricultural incomes of small-scale farmers are made by the target agricultural cooperatives.</p>	<p><u>Almost Achieved</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • Agricultural cooperatives of the 1st and 2nd cycles already prepared the action plans: 1st cycle in May 2015, and 2nd cycle in March 2016. • As for the 3rd cycle agricultural cooperatives, current status of the cooperatives was analyzed and grasped through SWOT analysis.
<p>Indicator 3b. More than 70% of activities based on the action plans are implemented.</p>	<p><u>Not yet achieved</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • Many of the participating agricultural cooperatives are trying to maintain contact with the agribusiness bodies that participated in the business dialogue. • According to the Japanese experts, the degree of implementation of the action plans is not high enough as capacities of some agricultural cooperatives are still weak (shortage of staffs and budget) to implement their plans. • For the cooperatives without sufficient capacity to implement the plans, review of the plans, and more close monitoring and follow-up are necessary.
<p>Output4: Farming methods based on the market-oriented approach are deployed within the target agriculture cooperatives and in districts.</p>	
<p>Indicator 4a. Extension plans for deploying farming methods by the target agricultural cooperatives</p>	<ul style="list-style-type: none"> • The activities related to Output 4 will be implemented from July 2017 and completed by March 2019.
<p>Indicator 4b. Existence of new farming activities based on the market-oriented approach within the target agricultural cooperatives.</p>	<p>- Ditto -</p>
<p>Indicator 4c. Extension plans for deploying farming methods by district agricultural office</p>	<p>- Ditto -</p>
<p>Indicator 4d. Existence of new farming activities based on the market-oriented approach in districts.</p>	<p>- Ditto -</p>
<p>3-2 Summary of Evaluation based on Five Evaluation Criteria Evaluation results based on 5 evaluation criteria are as follows: (1) Relevance: High The Project was evaluated highly relevant with Egyptian development policy, Japan's aid policy and strategy, at the time of Mid-term Review. (2) Effectiveness: Moderate</p>	

Effectiveness of the Project was evaluated moderate. It is still difficult to judge the achievements of Project Purpose: due to lack of data associated with the indicators. In the first half of the Project, farmers' participation in the Project activities was not satisfactory.

(3) Efficiency: Moderate

Efficiency of the Project is also considered moderate.

Input by the Japanese side: provision of equipment, local cost assistance, and assignment of Japanese Experts is considered appropriate in general.

However, shortage of the budget for the Project operation caused by worsening of fiscal condition in the Egyptian side hindered smooth implementation of the Project activities. Timely countermeasures against the issue were not taken because of frequent change of the Egyptian C/P at the management level.

The achievements of Output were not quite satisfactory: There were issues such as discontinuous participation of selected farmers in the 1st and 2nd cycles, shortage of budget, etc., which hindered smooth operation of the Project.

(4) Impact: Positive Impacts are expected.

Prospect of Overall Goal of the Project: "The average agricultural income of the small-scale farmers, which cultivate the target agricultural products by the Project, is increased by 13%" is considered a little too ambitious to achieve within three to five years after the cooperation period, taking into consideration the tight fiscal conditions for extension activities of MALR.

(5) Sustainability: Relatively Low

Sustainability of the Project was evaluated relatively low. There is concern in financial, technical and management aspects of the Project.

3-3. Factors promoting the production of effects

3-3-1. Factors pertaining to planning

None

3-3-2. Factors pertaining to implementation process

(1) Training in Japan and the Third Countries

Training in Japan and the third countries conducted three times so far and contributed to motivate Egyptian C/P to participate in the Project activities.

(2) Demonstration Farms

Demonstration farms gave good impacts to the farmers in target area as the nature of farmers in Upper Egypt is to believe only what they see with their eyes in their fields.

(3) Gender Sensitive Approach of the Project within the Local Context

Gender sensitive approach of the Project within the local context of Upper Egypt contributed to active and continuous participation of women. (i.e. separate training for women, focus on activities that can be done inside household)

3-4 Factors inhibiting the production of effects

3-4-1. Factors pertaining to planning

None

3-4-2. Factors pertaining to the implementation process

(1) Irregular Participation of the Target Farmers in the 1st and 2nd Cycles

The Project aims at establishment of the extension flow based on market-oriented approach (Output1).

However, in the 1st and 2nd cycles, majority of the target farmers did not participate in the Project activities continuously despite various attempts and effort made by the Project Team and implementing agencies to ensure the participation.

(2) Shortage of Operation Budget by the Government of Egypt

According to R/D signed in December 2013, the Egyptian side was supposed to bear the local cost of the Project from the 2nd year of the cooperation period through securing the C/P fund. However, the budget has not been arranged since July 2015 (Egyptian Fiscal Year 2015), under the tight financial conditions of Egypt, and hindered smooth operation of the Project activities

(3) Frequent Turnover of the Egyptian C/P at the Project Management Level

During the past two and a half years, the Project Director changed three times and the Project manager changed two times. With such frequent changes at the management level of the Egyptian side, above mentioned issues that the Project has been faced, such as shortage of operation cost of the Project as well as extension activities, could not be addressed appropriately.

(4) Conservative Social Norms of Upper Egypt Region

Farmers in the Upper Egypt Region have conducted traditional farming for generations, and some farmers are so conservative as to change their way of cropping especially when they are aged. From the standpoint of gender mainstreaming, it is observed that strict social norms in rural Egypt that women's roles are closely tied to the domestic sphere and men's roles tied to the public sphere inhibits the participation of women in the same manner with men in the Project.

(5) Lack of Targeting Strategy and Follow-up for Women's Activities

One of the reasons for not having reached the expected outcomes of the women's activities was women's reluctance to work in groups. Reviewing the screening processes of the target group among women as well as examining potential areas for women's income generation through the feasibility study would be the key to make successful cases. Also, more intensive follow up for women's activity should have been conducted as some of the activity failed because of lacking experience and basic technical knowledge among women. Those include basic care of small livestock, access to veterinary service, support for networking among women.

(6) Monitoring of the Project Activities

Cooperative officers who are in charge of daily monitoring has limited time, transportation means, and trainings in the Project activities. Thus, they cannot give proper advice in a timely manner. In women's activities, creating and implementation of the business plan is the area to be significantly improved.

(7) Motivation for Supporting Women's Activities

Limited resource (assignment of human resources taking charge of women's activities both in the Egyptian and Japanese sides) in implementing activities for women increase the workload of the experts and C/P, which resulted in decreased motivation to these activities. The fact that women's activities were not described in PDM also exacerbated this tendency.

3-5 Conclusion

The Egyptian and Japanese sides jointly conducted Mid-term Review of the Project according to the five evaluation criteria, through reviewing the Project reports, interview to stakeholders (Egyptian C/P, Japanese Experts, farmers, etc.), as well as site visits Minia and Assuit Governorates.

Relevance of the Project was confirmed high at the time of Mid-term Review. However, Effectiveness and Efficiency of the Project are not quite satisfactory (Moderate). Inconsistent and discontinuous participation of target farmers, shortage of the budget for operation cost by the Egyptian side, as well as conservative social norm of the Upper Egypt region decelerated the progress of the Project. Signs of positive impacts observed in technical, social and economic aspects were observed. Sustainability of Project is considered relatively low, as there remain concerns with financial, technical and management aspects.

3-6 Recommendations

3-6-1 Recommendations to the Project Team

(1) Project Activity Plan in 2nd Half of the Cooperation Period

- 1) In order to create more success stories of market-oriented agriculture, the Project Team is recommended to select villages where the Project has been implemented relatively well and the officers were active. The Project team will conduct intensive follow-up activities in those selected villages.
- 2) To enhance the effects of demonstration farms to surrounding small-scale farmers, it is important to set more demonstration farms with durable signboards. In addition, the Project Team is required to make effort to promote success stories of the Project to surrounding small-scale farmers as well as MALR.
- 3) The Project Team should review the implementation processes of activities targeting women and identify key factors which lead to women's capacity building to implement market oriented approach in their farming activities.
- 4) The Project Team should focus on creating good models by enhancing its support to the selected target groups and areas. Screening processes of the target group among women as well as examining potential areas for women's income generation through the feasibility study should be introduced.

(2) Strengthening of the Project Monitoring

- 1) Counterpart team in each governorate and Japanese Experts will make the monitoring sheet to monitor farm management of farmers and collect necessary data for monitoring through workshops in each village. (farmer level monitoring twice in cultivation cycle, before planting and after harvesting)
- 2) In order to strengthen the monitoring system of the Project, the Project Team organizes Technical Committee, consisting of Project Manager, Counterpart Team in Cairo, Counterpart Team leaders in each governorate and Japanese Experts. This Committee will quarterly visit to target area and conduct monitoring to identify the Project achievements and outcomes produced and the issues to be addressed for the successful implementation of the Project. As the first activity, the Committee will conduct one or two-day workshop with the participation of the Central Administration for Extension and the Central Administration of Agricultural Cooperation to enhance the cooperation between them. (Performance measurement; outcome/project purpose level monitoring)
- 3) Counterpart Team in each governorate and Japanese Experts will use a common monitoring sheet to monitor the Project activities and report to Counterpart Team in Cairo every month. (Activity level monitoring; Progress report)

(3) Utilization of ISMAP Output in ordinary agricultural extension duties

- 1) It is important that ISMAP outcomes will be used in the current agricultural extension duties of MALR and agricultural cooperatives after termination of the Project. The Project Team is required to collect information about ordinary agricultural extension duties of extension officers and discuss about how to utilize ISMAP outcomes in ordinary agricultural extension duties.
- 2) For the purpose above, the Project Team will discuss about how to improve the existing agricultural guidelines and manuals so that extension officer, Cooperative staff, as well as farmer member who did not participate in the Project can make use of ISMAP approach. (i.e. prepare picture guideline for the farmer who are in low literacy level, summarize farming technology in one sheet like farming calendar).
- 3) Project team is recommended to consider to gradually withdraw full-scale intervention to farmers to instill ownership spirit of the beneficiaries and to enable to rely on themselves.

(4) Smooth Project Implementation

- 1) The Counterpart Team in each governorate will prepare and submit concrete annual budget plan required for each Project activity as well as monthly monitoring report to MALR headquarters, which are required for budget disbursement for the Project operation cost with the support of the Japanese experts.
- 2) The Project Team is recommended to review the indicators of PDM for revision. The revision will include consideration for realistic overall goal, readily measurable indicator for agricultural income, additional indicator for mindset change toward market-oriented agriculture and to assess women's activities. Proposal of revised PDM by the Mid-term Review Team is attached as Annex 11 and Annex 12. The Project team will revise PDM with reference to the proposal of the Review Team and submit it for approval of JSC without delay.

5.2. Recommendation to the Egyptian Side

(1) Securing Budget for the Project Operation

- 1) Egyptian government will secure budget for local cost of the Project which was agreed in the R/D.

5.3. Recommendation to the Japanese Side

(1) Additional Assignment of the Japanese Expert

- 1) JICA Egypt office and HQs are recommended to discuss about the concrete implementation plan of the Project with the Japanese Expert and examine the additional assignment of Japanese Expert as required.

第1章 中間レビュー調査の概要

1-1 レビュー調査団派遣の経緯と目的

エジプト・アラブ共和国（以下、「エジプト」と記す）の農業は、2015年時点で、GDPの約11%、就業人口の約28%を占める重要産業の1つである（世銀2016）。特に、カイロ以南のナイル川流域（上エジプト地域）では農業セクター就業者は約55%に達し（USAID 2016）、地域の重要産業となっている。

エジプトでは、貧困層が全人口のおよそ3割（UNDP 2015）を占めているが、その6割が上エジプト地域に居住しており、同地域の農村部では住民の43.7%が貧困状態に置かれている。同地域の農業の中心地帯ともいえるミニア県、アシュート県では、農家の9割近くが小規模農家によって占められ、小規模農家に対する支援は、同地域の貧困削減と発展に貢献する重要な課題である。

農産物生産を通じた所得向上には、生産面の問題（優良種子生産、栽培技術、病虫害防など）に加えて、収穫・出荷までの営農資金の調達、販売の不確実性、仲買多重化による収益の圧迫などの販売・流通の問題への対応が求められるため、高い収益が期待できるものの換金作物栽培に参入する小規模農家は少ない。

農家への指導を担う機関である農業土地開拓省（Ministry of Agriculture and Land Reclamation：MALR）は県、郡、村レベルまで普及員を配置しているものの、普及員の能力不足、予算不足により栽培に係る新技術や営農改善の指導、マーケティング支援を十分に行えていない。また、農協がすべての農村で組織されており、土地、建物などの財産や教育レベルの比較的高い常勤職員を有し、農民組織としてのポテンシャルをもつものの、農家の商業活動に関する能力・経験が不足しており、その機能を十分に担えていない。

かかる状況の下、わが国はMALRと2013年12月に討議議事録（Record of Discussions：R/D）を締結し、これらの課題に対して、市場志向型アプローチに基づいた小規模農家の農業を改善し、これを支援するための、行政による普及システムの強化、普及員及び農協職員の能力向上を目的とした技術協力プロジェクト「小規模農家の市場志向型農業改善プロジェクト」（Improving Small-scale Farmers' Market-oriented Agriculture Project：ISMAR）（以下、「本プロジェクト」）の実施を合意した。本プロジェクトはMALR農業サービスフォローアップ局（Agriculture Services and Follow-Up Sector：ASFS）及び農業普及局（Agriculture Extension Sector：AES）を実施機関として、2014年5月から5年間の予定で実施されている。

今回の中間レビューでは、既存プロジェクト・デザイン・マトリックス（Project Design Matrix：PDM）及び活動計画（Plan of Operations：PO）に基づきプロジェクトの投入実績と達成度を調査・確認し、問題点を整理するとともに、プロジェクトチーム、エジプト側関係者とともに評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性）の観点から、分析・評価するとともに、プロジェクトの残り期間の課題及び今後の方向性について確認し、合同中間レビュー報告書に取りまとめ、合意することを目的とする。

1-2 合同レビュー調査団の構成

(1) 日本側

担当分野	氏名	所属
総括	仲田 俊一	JICA 国際協力専門員
市場志向型農業	相川 次郎	JICA 国際協力専門員
ジェンダー	久保田 真紀子	JICA 国際協力専門員
協力企画	小河 智子	JICA 農村開発部 農業・農村開発第二グループ第三チーム
評価分析	東野 英昭	株式会社レックス・インターナショナル シニアコンサルタント

(2) エジプト側

メンバー	Mrs. Manal Zein El-Abdeen	モニタリング・評価コンサルタント〔Sustainable Agriculture Investments and Livelihoods (SAIL) プロジェクト〕
メンバー	Eng. Ahmad Salah Ibrahim	モニタリング・評価コンサルタント (On-Farm Irrigation Development Projects in the Old Lands プロジェクト)

1-3 調査日程

2017年1月6日～1月28日（本邦発着）（詳細は付属資料1を参照）

1-4 主要面談者

(1) エジプト側関係者

①農業土地開拓省（MALR）

Abbas El Shenawy

農業サービスフォローアップ局長
（プロジェクト・ダイレクター）

Wafek Mohamed Askaer

農業協働組合中央部長
（プロジェクト・マネジャー）

OSAMA Saad El Lithy Shaaban

農協協働組合中央部 研修部長

Dina EL-Khisin

国際農業関係局スーパーバイザー

②ミニア県農業事務所

MAHMOUD Maha Abdelazim Elsaadi

農協局組織指導部長（チームリーダー）

MOHAMED Hanan Elkhergawi Sayed

農協局組織指導部農産課長

BOULES Ramy Samir Fouad

農協局普及部マーケティング課技師

BADAWI Kamaleldin Ahmed Ibrahim

農協局普及部長

HANA Maged Nesim Labe

農協局組織指導部農協課

Azza Ramdan

農協局普及部マーケティング課長

③アシュート県農業事務所

ESSA Sherin Hussein Aly

園芸部椰子課長（チームリーダー）

MANSOUR Gamal Somael Habib

園芸部長（前チームリーダー）

MOHAMED Hamdy Mohamed Khalil

普及部長

Abd el Monem Mohamad

園芸部果実課長

HASSAN Zinab Hassan Abdalaziz

園芸部野菜・香草課長

Mahmoud Osman	普及部普及技師
ABDALHALEEM Marwa Mohammed Soliman	普及部普及技師
Partey helmy grace	園芸部果樹課長
HASSANEIN Mohamed Ahmed Mohamed Bakr	農事部次長
ABDELATAH Mostafa Kamal Abdelwahab	農協部プロジェクト課長
Ahmad Moneer	農協部長

④郡・村落

Taha Ali Fadlallah	アシュート県 Abnoub 郡普及部長
Mohmed Abd-elshafy Mohamed	アシュート県 Manflood 郡普及部長
Kamil Kediss Habashy	アシュート県 El Sadfa 郡 Awlad Elias 村農協理事
Saied Mohamed Saied	アシュート県 Assuit 郡 Mosha 村農協理事
Abd El Raheem Abd El Rahman	ミア県 Abo Korkus 郡普及事務所長
Ahmed Hamdy Mohammed	ミア県 Mallawe 郡 Manshet Maghalka 村農協理事
Ezz El Den	ミア県 Mallawe 郡 Gendaya 村農協理事
Shabaan Ahmed Mahmoud	ミア県 El Edwa 郡普及部長

(2) 日本側関係者

①在エジプト日本国大使館

川本 陽介 一等書記官

②プロジェクト専門家

畑 明彦 チーフアドバイザー / マーケティング (農産物)
 平山 康太 農民組織強化 / 業務調整 / 研修計画 (1)
 山本 麻起子 ジェンダー / 農村社会

③ JICA エジプト事務所

伊藤 晃之 所長
 岩崎 昭宏 次長
 山崎 一 所員

1-5 プロジェクト概要

- ・プロジェクト名：小規模農家の市場志向型農業改善プロジェクト (ISMALP)
- ・プロジェクト期間：2014年5月27日～2019年5月26日 (5年間)
- ・カウンターパート (Counterpart: C/P) 機関：農業土地開拓省 (MALR) 農業サービスフォローアップ局 (ASFS)
- ・プロジェクトの枠組み [PDM (version 1)]

(1) 上位目標：ミア県及びアシュート県のプロジェクト対象作物を栽培する小規模農家の農業所得が向上する。

(2) プロジェクト目標：ミニア県及びアシュート県のプロジェクト対象小規模農家並びに周辺小規模農家の農業所得が向上する。

(3) 成果

成果 1：市場志向型アプローチに基づいた普及フローが確立する。

成果 2：付加価値の高い農産物を生産する技術が開発・検証される。

成果 3：対象農業協同組合（農協）の活動計画策定・実施能力が強化される。

成果 4：対象農協内及び対象郡内で市場志向型アプローチに基づいた営農手法が広まる。

(4) 活動

活動 1-1：市場志向型アプローチによる普及フロー案を合意する。

活動 1-2：対象農協及び対象小規模農家の選定方法を合意し、それに基づき選定する。

活動 1-3：対象農協及び対象小規模農家に対するベースライン調査を行う。

活動 1-4：対象農協内の対象小規模農家と農業ビジネス関係者が対話する場を設ける。

活動 1-5：対象農協内の対象小規模農家へ市場調査、営農計画立案に係る研修を実施する。

活動 1-6：対象小規模農家の市場志向型アプローチに基づいた営農計画立案を支援する。

活動 1-7：普及員に対して 1-6 の計画実施に必要な農業技術のトレーナー研修（Training of Trainers：ToT）を行う。

活動 1-8：ToT を受けた普及員による対象小規模農家向けの技術研修実施の支援を行う。

活動 1-9：対象小規模農家の営農活動のモニタリングを行う。

活動 1-10：上記活動を検証し、市場志向型アプローチに基づいた普及フローに必要な改善を行う。

活動 2-1：IMAP の調査結果及び対象小規模農家の営農計画等に基づき、新たに開発・検証が必要な技術を把握する。

活動 2-2：2-1 で把握した技術の開発・検証を行う。

活動 2-3：開発・検証した技術を普及員の ToT（活動 1-7）に導入する。

活動 2-4：市場志向型アプローチの実施を通して必要と確認された既存技術の改善を図る。

活動 3-1：対象農協組織の活動計画立案にあたって農協の弱み・強みを把握する。

活動 3-2：対象農協を対象に小規模農家の所得向上に向けた活動計画の策定・実施に係る研修を実施する。

活動 3-3：村落レベルの普及員が、対象農協による 3-2 の活動計画の実施を支援するよう助言する。

活動 4-1：対象農協が農協内の対象小規模農家以外の農家に対して市場志向型アプローチによる営農手法の普及計画を策定することを支援する。

活動 4-2：対象農協による 4-1 の計画の実施をモニタリングする。

活動 4-3：郡普及員が郡内の対象農協以外の農協に対して市場志向型アプローチによる営農手法の普及計画を策定することを支援する。

活動 4-4：郡普及員による 4-3 の計画実施をモニタリングする。

活動 4-5：県農業局が市場志向型アプローチによる営農手法の普及計画を策定することを支援する。

1-6 調査手法

本中間レビューは、日本側及びエジプト側合同レビュー調査団により、以下のプロセスにて実施された。

- (1) プロジェクトチーム作成・提供資料、その他関連資料のレビュー
- (2) PDM [version 1 (付属資料2)] 及び PO (付属資料3) に基づき、プロジェクト実績、実施プロセス、評価5項目ごとに評価設問を設定した評価グリッド (和文、英文) の作成 (付属資料4)
- (3) 同グリッドに基づいた質問票の準備、プロジェクト関係者 [プロジェクト専門家、エジプト側カウンターパート (C/P)] への事前配付
- (4) 質問票に基づいた、プロジェクト関係者、農家へのインタビュー
- (5) プロジェクトサイト視察
- (6) 収集情報に基づいた、プロジェクト実績 (投入、活動) の確認、アウトプットの達成状況・見込みについての検証、プロジェクト実施プロセスについての確認
- (7) 以下の評価5項目の観点からの評価の実施
 - 妥当性：プロジェクト目標は、エジプト側の開発政策・ニーズ、日本の援助政策と整合性がとれているか。
 - 有効性：プロジェクト目標はどの程度達成されている (達成される見込み) か、アウトプットとの関係はどのようになっているか。
 - 効率性：投入はアウトプット達成のために効率的 (量、質、タイミング) に行われたか。
 - インパクト：プロジェクト実施による正・負の直接・間接の効果はあるか。
 - 持続性：プロジェクト終了後に、その効果がどの程度持続する見込みがあるか。
- (8) 上記評価結果を踏まえたうえ、今後のプロジェクト活動の運営方針に係る提言事項取りまとめ

第2章 プロジェクトの実績と実施プロセス

2-1 投入実績

2-1-1 日本側投入

(1) 専門家派遣

2014年5月から2017年12月末までの間、短期専門家延べ6名(61.6人/月)が派遣されている。詳細については、付属資料5に示すとおりである。

(2) 本邦及び第三国研修

プロジェクト活動の円滑な遂行のために、本邦(及び第三国)研修が以下のとおり実施され、これまでに、合計22名のエジプト側C/Pが参加した(詳細は付属資料6)。

研修タイトル	研修員数	研修期間	補 足
課題別研修：アフリカ地域市場志向型農業振興(行政官)Bコース	1	2014年11月16日 ～11月29日	・日本及びケニア
国別研修：日本における市場志向型農業の発展から学ぶ(Learning lessons from the development of market-oriented agriculture in Japan)	11	2015年5月11日 ～5月26日	・東海農政局、愛知県農林水産部、愛知県知多農林水産部、名古屋市北部卸売市場視察等 ・沖縄県北部農林水産振興センター、国営事業・羽地大川地区視察、やんばる朝市視察等
国別研修：日本における市場志向型農業の発展から学ぶ	10	2016年5月14日 ～5月27日	・東海農政局、愛知県農林水産部、田原市、田原農業改良普及課、JA愛知南等

(3) 供与資機材

プロジェクト活動の実施のために、円貨換算約192万円分のOA機器(パーソナルコンピューター、プリンター、デジタルカメラ)が購入された〔交換比率：EGP1.0=JPY6.0(2017年1月時点)〕。詳細は付属資料7に示すとおり。

(4) 現地業務費

2016年6月までの実績で、日本側の現地業務費として円貨換算約970万円が投入された〔交換比率：EGP1.0=JPY6.0(2017年1月時点)〕。

費 目	エジプト予算年度			合 計
	2014年度 (2014.5～2014.6)	2015年度 (2014.7～2015.6)	2016年度 (2015.7～2016.6)	
土地及び会場借り上げ	128,818	1,967,605	1,647,165	3,743,588
材料費(デモ圃場、女性活動)	74,541	1,416,037	888,453	2,379,031
交通費	294,454	845,357	336,612	1,476,423
雑費	184,291	377,403	1,579,269	2,140,963
合 計	682,104	4,606,402	4,451,499	9,740,005

詳細は付属資料8に示すとおり。

2-1-2 エジプト側投入

(1) C/P の配置

2016年12月末時点で、24名のC/Pが配置されている。これまでに、配置されたC/Pの合計は33名である。

所属先	地域	人数
農業サービスフォローアップ局	カイロ	1
農協中央部	カイロ	8
ミニア県農業事務所	ミニア県	6
アシュート県農業事務所	アシュート県	9
合計		24

なお、2016年12月末時点までに、プロジェクト・ダイレクターとプロジェクト・マネジャーについては、それぞれ、3回、2回の交代があった。詳細は付属資料9に示すとおりである¹。

(2) ローカルコスト負担

2012年12月に締結されたR/Dによれば、2年次以降（2015年7月～）の活動経費は、C/Pファンドによって、エジプト側が負担することとなっていた。しかし、現時点に至るまで、予算の執行は行われていない。

(3) 施設

カイロ、ミニア、アシュートに専門家の執務室が提供されている。

No.	提供されている施設	所在
1	専門家執務室	農業土地開拓省 農業協同組合協中央部内
2	専門家執務室	ミニア県農業事務所内
3	専門家執務室	アシュート県農業事務所内

2-2 活動の進捗状況

プロジェクトの活動は、現在第3サイクルに到り、予定どおり20村（20郡）で実施されている。各サイクルで選択された村落での活動の状況はおおむね以下のとおりである。

対象県と村落 サイクル	ミニア県	アシュート県	活動の現況
第1サイクル (2014年8月～ 2015年4月)	<ul style="list-style-type: none"> El Balad 村 Manshet El Mahalka 村 Manshet Semhan 村 	<ul style="list-style-type: none"> Mosha 村 Abnoub 村 Sanabo 村 	<ul style="list-style-type: none"> PDM に記述された活動（ベースライン調査 / ビジネスダイアログ / 市場調査 / 市場志向型営農計画策定 / ToT / デモ圃場設置と栽培研修等）がほぼ予定どおり実施された。 第2年次（第2サイクル期間）には、左記6村を対象に栽培状況と普及活動のモニタリングが開始され、継続中である。 2016年7～9月には、左記6村での活動の評価調査が実施され、対象農家の収入状況などのデータが収集された。

¹ 2017年1月24日付けで、プロジェクト・ダイレクターとマネジャーの交代が行われたため、プロジェクト・ダイレクターの交代は4回、プロジェクト・マネジャーの交代は3回となった。

第2サイクル (2015年7月～ 2016年2月)	<ul style="list-style-type: none"> ・Kom Matai 村 ・Aba El Balad 村 ・Barmasha 村 	<ul style="list-style-type: none"> ・El Tetaleia 村 ・Bany Mor 村 ・El Nekhelia 村 ・El Nawawra 村 	<ul style="list-style-type: none"> ・PDM に記述された活動（ベースライン調査/ビジネスダイアログ/市場調査/市場志向型営農計画策定/ToT/デモ圃場設置と栽培研修等）がほぼ予定どおり実施された。 ・第3年次（第3サイクル期間）には、左記7村を対象に栽培状況と普及活動のモニタリングが開始され、継続中である。
第3サイクル (2016年6月～)	<ul style="list-style-type: none"> ・Tala 村 ・Hataha 村 El ・Gendaya 村 	<ul style="list-style-type: none"> ・Man Floot 村 ・Awalad Elias 村 ・Mashaya 村 ・Sahel Selem 村 	<ul style="list-style-type: none"> ・2016年6月よりPDMに記述された活動が実施されている。 ・新たな試みとして、左記対象村では10名程度の農家で構成されたマーケティング協議会が導入されている。

プロジェクト活動については、ほぼPOに示すスケジュールに基づき実施されてきている。

2-3 成果の達成状況

前節で述べたように、プロジェクト活動はおおむね想定されたスケジュールで実施されてきているものの、中間レビューの時点では、それが、効率的、効果的な成果の発現に結びつかず、限定的なものにとどまっている。

第1サイクルと第2サイクル期間において、対象農家のプロジェクト活動への参加が十分に得られなかったため、対象農家の選抜方法の改善を含め、活動への参加を促すための試行錯誤がなされてきた。第3サイクルで、対応策の効果を検証している段階であり、市場志向型農業の普及フロー案が考案されてはいるものの、その骨格が十分に固まったとはいえない。

エジプト政府(MALR)からの活動経費の不足、プロジェクト管理に責任をもつべきプロジェクト・ダイレクターとプロジェクト・マネジャーの頻繁な交代も、成果の発現を妨げた要因であると考えられる²。

以下に、指標に基づく成果1から成果3までの達成状況を取りまとめて示す（成果4に関連する活動はまだ開始されていない）。

成果1：市場志向型アプローチに基づいた普及フローが確立する。	
指標 a. 市場志向型アプローチによる普及フロー案が考案される。	<p>おおむね達成された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1サイクルと第2サイクルの普及フロー案が、それぞれ、2015年7月、2016年6月の時点で策定されている。 ・第1サイクルと第2サイクルにおいては、対象農家のプロジェクト活動への参加が不十分であり対応が求められた。プロジェクトチーム（日本人専門家と県C/P）は、対象農家の選抜方法の修正や、活動参加記録帳（通称パスポート）の採用などで農家の参加を促したが、参加の改善は限定的であった。 ・第3サイクルでは、マーケティング協議会（参加意欲の高い対象村の10名程度の農家から成る）を市場志向型農業普及のメカニズムとして導入するなど、普及フローの変更を行った。 ・第3サイクルでは、デモ圃場の効果を高めるために、トライアルファーマーミングも開始されている。

² 詳細は「2-5-6 (2) 阻害要因」を参照。

<p>指標 b. 市場志向型アプローチによる普及フロー案の作成及び改善プロセスについての関係者による5段階評価の平均点が4以上である。</p>	<p>達成された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2017年1月に、関係者（エジプト側 C/P）による、市場志向型アプローチによる普及フロー案の作成及び改善プロセスについての評価が行われた。 ・ その結果、5段階評価の平均点が4.5となり、指標は達成された。 ・ エジプト側 C/P は、普及フロー案の作成及び改善プロセスについて高く評価しており、普及フローを、対象農家、市場、村落の状況に応じて、常に改善していく必要性についても理解している。
<p>指標 c. プロジェクト活動の実施を通じ改善された市場志向型アプローチによる普及フローが合同調整委員会（Joint Steering Committee：JSC）で承認される。</p>	<p>未達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、普及フローは第3サイクルの活動の実施結果に基づく修正を想定している。 ・ 中間レビュー調査団は、マーケティング協議会による農家への普及が、これまでのところ、うまく機能しているとみており、2017年中に、JSCで普及フローが承認されることを期待する。
<p>成果2：付加価値の高い農産物を生産する技術が開発・検証される。</p>	
<p>指標 a. 検証・開発された技術に関するガイドライン・マニュアルが作成される。</p>	<p>達成された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間レビューの時点で、57の研修教材が活用可能となっている（付属資料10）。 ・ 第1サイクルで、普及局、農業研究センター（Agricultural Research Center：ARC）、アシュート県農業事務所が作成した技術ガイドラインやマニュアルの内容を確認し、プロジェクトの研修に活用可能な教材の選択を行った。 ・ 同様に、第2、第3サイクルでは、ARC、アシュート農業事務所に加えて、ミニア大学、El Azhar 大学が作成した技術ドキュメントから、プロジェクトの研修教材として利用できるものが選択された。 ・ 以上に加えて、プロジェクトチームも7種の教材を作成している。
<p>指標 b. 検証・開発された技術の70%以上が普及員向け ToT に含まれる。</p>	<p>おおむね達成された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクトによって導入された主な栽培技術は以下のものである。 <ul style="list-style-type: none"> － 夏作の混作（トマトとヒマワリ、キュウリとヒマワリ） － 新品種の導入（ニンニク、トマト、キュウリ、ゴマ、ダイズ、ジャガイモ） － コンポストイング － 端境期栽培（ニンニク、キュウリ、トマト） ・ プロジェクトによって導入された新たな技術は、基本的にすべて ToT に含まれる予定である。
<p>成果3：対象農業協同組合（農協）の活動計画（PO）策定・実施能力が強化される。</p>	
<p>指標 a. 対象農協の小規模農家の所得向上に向けた活動計画（PO）が作成される。</p>	<p>おおむね達成された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1、第2サイクルで対象となった農協は、既に PO を策定している（2015年5月及び2016年3月）。 ・ 第3サイクルの対象農協についても、SWOT分析による現状分析が行われた。
<p>指標 b. 対象農協の PO に基づく活動が70%以上達成される。</p>	<p>未達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対象農協の多くが、ビジネスダイアログに参加したアグリビジネスと関係を維持していることは評価できる。 ・ しかし、日本人専門家によれば、人員と予算の不足から農協の計画実施能力はまだ脆弱であり、POの実施は不十分である。 ・ 実施能力に欠ける農協については、POの見直しや、十分なモニタリング、フォローアップの必要性を検討する必要がある。
<p>成果4：対象農協内及び対象郡内で市場志向型アプローチに基づいた営農手法が広まる。</p>	
<p>指標 a. 対象農協によって営農手法の普及計画が作成される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成果4に関する活動は、2017年7月からの実施が予定されている。

指標 b. 対象農協内において市場志向型アプローチによる新たな農業活動が行われる。	同上
指標 c. 郡農業事務所による営農手法の普及計画が作成される。	同上
指標 d. 対象郡内で新たな農協の農業活動が行われる。	同上

2-4 プロジェクト目標の達成状況

プロジェクト目標：ミニア県及びアシュート県のプロジェクト対象小規模農家並びに周辺小規模農家の農業所得が向上する。

指標：プロジェクト対象小規模農家の平均農業所得（村落ごとの平均値）が、対象作物別で 40%～100%、世帯別で 6%～22% 上昇する。

プロジェクト開始後、2年半が経過した中間レビューの時点では、プロジェクト目標の達成度を判定するためのデータの取得が、まだ不十分である。ミニア県、アシュート県の第1サイクルの対象村落と対象農家について、2015年の夏作による世帯別の収入データが取得されているため、これに基づく指標の達成状況を以下のように取りまとめた。

(1) ミニア県

2014年のベースライン調査のデータと、2015年の夏作の収入の比較によって算出した村落平均の世帯別の収入向上率は以下のとおりである。

郡	村落	夏作による収入の向上割合 (%) (2015/2014年夏作の比較)	世帯別達成目標 (%)	サンプル数
Abo Korkas	El Balad	74.7	22 増加	38 世帯
Mallawe	Manshet El Maghalka	-10.1	12 増加	56 世帯
Dyre Muas	Manshet Semhan	19.6	12 増加	67 世帯

出所：ISMAP 第1年次対象組合モニタリング調査結果報告

夏作栽培については El Balad 及び Manshet Semhan の2村で、目標が達成されているが、Manshet El Maghalka 村では収入が減少している。村人への聞き取りでは、夏期の高温でメロンの収穫が被害を受けたことがこの結果をもたらしたということであった³。

これらの村では、冬作（コムギ等の伝統的な作物は自家消費が主）による収入はわずかであり、夏作の収入が年間収入を支配するため、El Balad 及び Manshet Semhan 村では、2015年の夏作によって、年間の収入が増加し、指標を達成したとみてよい一方、Manshet El Maghalka 村では、収入が減少し、指標は達成されていないと推測する。

(2) アシュート県

アシュート県では、Abnoub 村と Mosha 村では、それぞれ、33.8%、51.5%の収入増加を記録し、

³ 日本人専門家は、同地域でのメロンの連作障害の可能性もあると指摘している。

夏作について（そして年間収入についても）指標を達成したとみてよい。しかし、Sanabo 村については、収入の増加は3%にとどまり、指標は達成されていない。

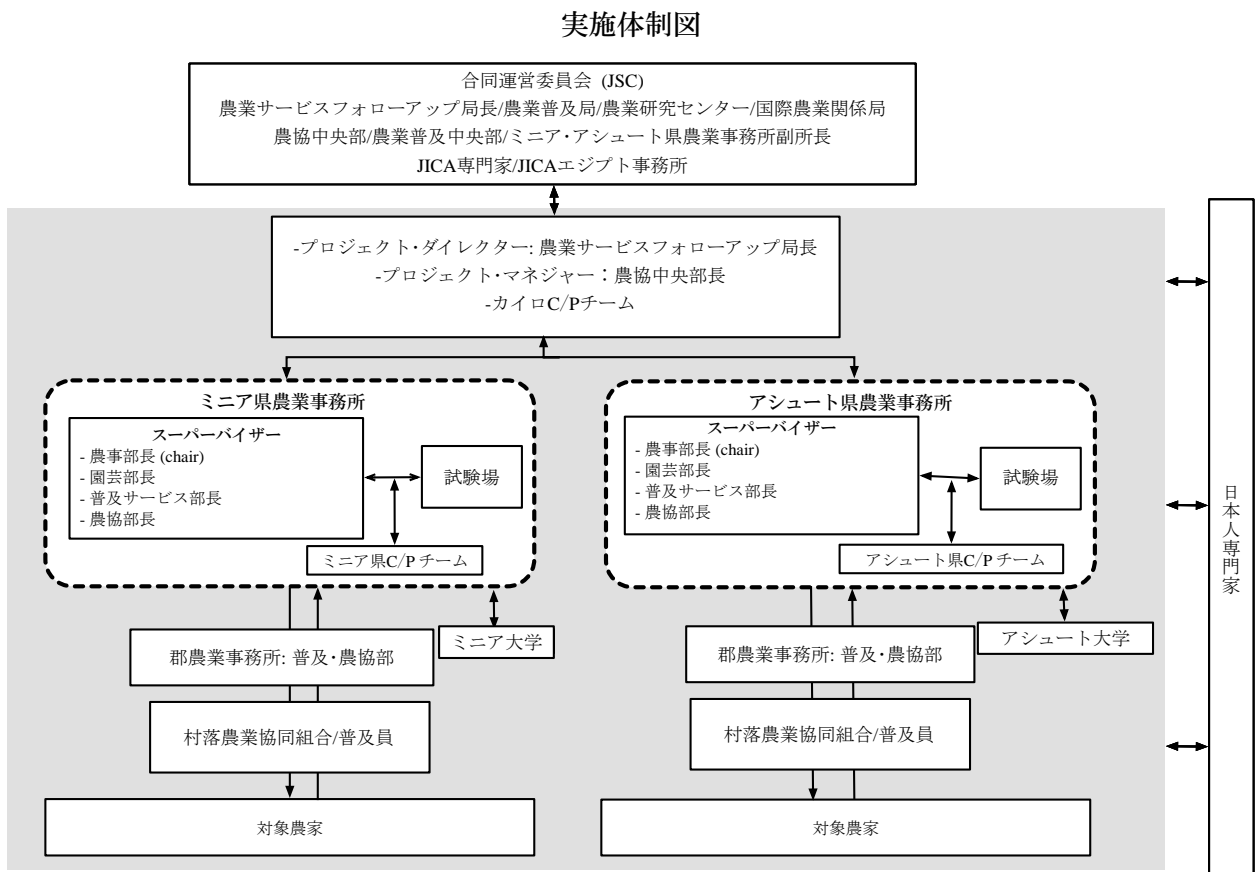
郡	村落	夏作による収入の向上割合（%） （2015/2014年夏作の比較）	世帯別達成目標（%）	サンプル数
Abnoub	Abnoub	33.8	9 増加	43 世帯
Assuit	Mosha	51.5	6 増加	53 世帯
Dyroul	Sanabo	3.0	18 増加	58 世帯

出所：ISMAP 第1年次対象組合モニタリング調査結果報告

2-5 プロジェクトの実施プロセス

2-5-1 実施体制

プロジェクトの実施体制は下図に示すとおりである。



2-5-2 PDM の改訂

現行の PDM (version 1) は、2015 年 7 月の第 2 回 JSC で協議され、その後、JSC メンバーへの同書類回覧を通じて同年 8 月 20 日に承認された。R/D に添付されたオリジナルの PDM (version 0) からの変更点は、以下に示すように、上位目標とプロジェクト目標の指標の定量化であった。

PDM (version 0) R/D 添付 (2013 年 12 月)	PDM (version 1) (2015 年 8 月承認)
<u>上位目標指標</u> The average agricultural income of the small-scale farmers, which cultivate the target agricultural products by the Project, is increased by XX % (% will be determined within 3months after baseline surveys of the Project are conducted.)	<u>修正上位目標指標</u> The average agricultural income of the small-scale farmers, which cultivate the target agricultural products by the Project, is increased by <u>13%</u> (Detail is attached as PDM1-(2) and (3))
<u>プロジェクト目標指標</u> The average agricultural incomes of the target small-scale farmers in the Project are increased by XX% (% will be determined within 3months after baseline surveys of the Project are conducted.)	<u>修正プロジェクト目標指標</u> The agricultural incomes of the target small-scale farmers in the Project are increased by <u>40% - 100% by target crop and village, and 6 % - 22 % by household and village (detail is attached herewith)</u> (Detail is attached as PDM1-(1), (2) and (3))

しかし、現行の PDM (version 1) の指標 (上位目標とプロジェクト目標) について、さらなる修正の必要があると考えられる。レビュー調査団は付属資料 12 に PDM の改訂案を示している。

2-5-3 モニタリングシステム

モニタリングシステムとしての各種会議の開催状況は、概略以下のとおりである。

(1) JSC (合同調整委員会) 会議

会議名	開催日	場 所	参加者	内 容
第 1 回 JSC Meeting	2014 年 8 月 26 日	MALR カイロ	23	プロジェクト概要とワークプランのプレゼンテーション
第 2 回 JSC Meeting	2015 年 6 月 11 日	MALR カイロ	21	プロジェクトの進捗、課題、スケジュールに関する協議 / 普及フロー実施マニュアルのプレゼンテーション
第 3 回 JSC Meeting	2016 年 1 月 28 日	MALR カイロ	19	主な課題 (第 1 サイクルにおける対象農家の参加状況) と改善案についての協議
第 4 回 JSC Meeting	2016 年 6 月 26 日	MALR カイロ	22	普及フロー改善案 (マーケティング協議会導入) についての協議
第 5 回 JSC Meeting	2017 年 1 月 26 日	MALR カイロ	n.a.	中間レビュー結果報告

(2) 合同 C/P 会議

会議名	開催日	場 所	参加者	内 容
第 1 回合同 C/P 会議	2014 年 6 月 16 ~ 18 日	カイロ	25	R/D と PDM 内容確認
第 2 回合同 C/P 会議	2014 年 6 月 24 ~ 26 日	ミニア	21	ワークプラン作成
第 3 回合同 C/P 会議	2015 年 3 月 3 日	アシュート	29	合同ワークショップ
第 4 回合同 C/P 会議	2016 年 1 月 24 日	ミニア	20	合同進捗会議

(3) 定例会議

カイロでは月例会議が、ミア、アシュート県では週会議が行われている。

2-5-4 広報活動

広報活動媒体	内 容
ニュースレター	・ 2014年7月から、これまでに27回発行
リーフレット	・ 2014年10月作成
ウェブサイト	・ JICA ナレッジサイト及びODA 見える化サイト
Youtube	・ ミニア県とアシュート県での活動をアップロード (https://www.youtube.com/user/JICAchannel1/videos)
ラジオ	・ 2016年6月8日、NHK取材班による ISMAP の活動の取材に協力 (El Tetaleia 村におけるキュウリとマッシュルーム栽培) ・ 2016年7月17日、「NHK 深夜ラジオ便」にて放送
講 義	・ 2016年5月上智大学にて「開発とジェンダー主流化」と題して実施
講 義	・ 2015年7月/12月 JICA 能力強化研修にて「ISMAP 活動」のプレゼンを実施
寄 稿	・ カイロ日本人会誌「ぱびるす」(2016年3月～4月号)

2-5-5 研修・セミナー・ワークショップ等

現在までに合計25回の研修とワークショップ等が実施された。参加者数の合計は886名である。

研修/ワークショップ等	開催時期	内 容
(1) ミニア県 ToT (第1サイクル)	2015年3～4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ ダイズ ・ キャベツ ・ メロン ・ ナス ・ サツマイモ ・ ジェンダー主流化 <ul style="list-style-type: none"> ・ トマト ・ ゴマ ・ 農業廃棄物リサイクル ・ キノコ ・ 営農管理
(2) アシュート県 ToT (第1サイクル)	2015年3～4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業廃棄物リサイクル ・ ダイズ ・ バジル ・ キュウリ <ul style="list-style-type: none"> ・ 混作 ・ トマト ・ キノコ ・ ジェンダー主流化 ・ 営農管理
(3) ミニア県 ToT (第2サイクル)	2016年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ ダイズ ・ ゴマ ・ 農産物市場 ・ 農業廃棄物リサイクル ・ 畜産廃棄物リサイクル <ul style="list-style-type: none"> ・ 営農管理 ・ トマト ・ キュウリ ・ ジャガイモ ・ 農協の役割
(4) アシュート県 ToT (第2サイクル)	2015年12月～ 2016年1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ タマネギ ・ テンサイ ・ ジャガイモ ・ トマト ・ キュウリ ・ 営農管理 <ul style="list-style-type: none"> ・ オクラ ・ ゴマ ・ ダイズ ・ キノコ ・ ウサギ ・ ハト

(5) ミニア県 ToT (第3 サイクル)	2016年10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ タマネギ ・ トマト ・ コロハ (Fenugreek) ・ セイヨウクロタネソウ (black cumin) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 営農管理 ・ キュウリ ・ 有機農業 ・ GAP/ 土壌分析
(6) アシュート県 ToT (第3 サイクル)	2016年10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ ジャガイモ ・ ズッキーニ ・ タマネギ ・ コショウ ・ 営農管理 ・ トマト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ニンジン ・ 有機農業 ・ GAP ・ キュウリ ・ ナス

2-5-6 促進要因・阻害要因

(1) 促進要因

中間レビュー時点では、成果の発現状況が限定的であり、協力期間の後半に挽回が期待される状況である。よって、厳密な意味での促進要因の抽出は困難であるが、以下の点については、促進要因に準ずるものとして一定の評価ができる。

1) 本邦及び第三国研修

本邦と第三国での研修の実施は、これまでに3回実施されているが、エジプト側 C/P のプロジェクト活動への理解の促進と、参加意欲を高めるうえで効果があった。

2) デモ圃場の実施

「自分の目で見たものしか信用しない」といわれる上エジプト地域の農家の気質を考えると、対象村落におけるデモ圃場の実施は、プロジェクトへの関心を喚起するうえで効果があったと思われる。

3) 上エジプトの地域社会におけるジェンダー課題に配慮したプロジェクトアプローチ

プロジェクトが志向している「上エジプトの地域社会におけるジェンダー課題に配慮したアプローチ」は、女性の積極的で継続的なプロジェクト活動への参加を促すことに貢献した（例：女性のみを対象とした研修の実施、屋内で実施可能な活動へのフォーカス等）。

(2) 阻害要因

1) 対象農家のプロジェクト活動への参加不足

プロジェクト協力期間の前半、プロジェクトチームは、市場志向型アプローチに基づく普及フローの確立（成果1）を実現すべく活動を行ってきたが、第1サイクル（2014年8月～2015年6月）及び第2サイクル（2015年7月～2016年2月）においては、対象農家の大半がプロジェクト活動に継続的に参加せず、プロジェクトチームと実施組織（県、郡、農協職員（普及員）の努力にもかかわらず、改善がみられなかった⁴。

2) エジプト政府の活動予算不足

2013年12月に締結された R/D の内容によれば、協力期間の2年目からは、エジプト側が C/P ファンドを確保することとなっていた。しかし、エジプトの経済状態の悪化や、予

⁴ 第3サイクルの開始にあたり、プロジェクトチームは、市場志向型農業に関心をもち、活動的な10名ほどの農民をメンバーとするマーケティングコミッティを設立、これを、他の農民の関心を高め、市場志向型農業普及のための機能として活用する戦略を打ち出した。現在のところ、マーケティングコミッティは、周辺の農民に関心をもたせるうえで機能しているとみられる。

算申請手続きの不備、計画省の方針などから、2年目のエジプト予算年度（2015年7月～2016年6月）以降も、予算は確保されずに現在に至り、プロジェクト活動の円滑な遂行を阻害してきた。

3) エジプト側 C/P（プロジェクト・ダイレクター及びマネジャー）の頻繁な交代

プロジェクト開始から2年半の間に、プロジェクト・ダイレクターの交代は4回、プロジェクト・マネジャーの交代は3回を数える⁵。頻繁な交代により、情報の引き継ぎに時間を要し、プロジェクトの課題（研修経費や普及活動の予算不足など）に対する理解が十分になされず、対応が遅れてきた。

4) 上エジプト地域の保守的な社会規範

上エジプト地域の農家は、先祖代々、伝統作物栽培〔夏作：メイズ、冬作：コムギとベルシウム（エジプシャンクローバー）〕を中心とした農業を営んできており、特に高齢の農家には、保守的な考えをもち栽培作物の変更を受け入れない傾向がみられた。また、ジェンダー主流化活動についても、農村部では、女性は家庭にとどまり、男性のみが屋外で活動をするという社会規範の存在が根強く、女性に男性と同様の農作業の参加を促すことが困難であった（ただし同じ県内でも地域差があり、女性も屋外で農作業を行っているケースもある）。

5) 女性活動の対象選定とフォローアップに関する戦略不足

プロジェクトはジェンダー分析を通じて、対象地域の女性の直面する課題とニーズを明らかにした。その後、グループとして実施する活動に強い興味を示した女性たちをプロジェクトに参加させ、女性に適した農作業の実践を通じて、市場志向型農業のアプローチに向けた能力強化を図ろうと試みた。しかし、レビュー調査団が視察した結果では、女性たちは積極的に参加をしているものの、女性活動のほとんどは、市場志向型アプローチの導入という点からも、また、収入の向上という意味でも成功しているケースは限定的である。その要因の1つは、女性たちのグループ活動に対する抵抗感が根強いことである。

女性のターゲットグループの選択過程の見直しと、フィージビリティ調査に基づく収入創出分野の再検討が、女性活動成功事例を作り出すうえでの重要なカギとなると考えられる。

また、女性たちの初歩的な技術知識が欠けていたために失敗した活動もあることから、活動に対するより集中的なフォローアップが求められる。これらには、小動物飼養、獣医師サービスへのアクセス、女性間のネットワークづくりへの支援などが含まれる。

6) プロジェクト活動に対するモニタリング機能の弱さ

モニタリングシステムは既に導入されているものの、日々のモニタリングを行う農協職員は、限られた時間のなかで、交通手段をもたず、また、能力向上のための研修の受講も十分でない状態で業務を行っているのが現状である。したがって、農家に対しても、適切な助言を、適時に与えるという状況からは遠い。女性活動については、ビジネスプランを策定し、実施に移す能力の向上が強く求められている。

7) 女性活動支援のモチベーション

エジプト側、日本側とも、女性活動の支援をする専門家と行政官の配置が不足しており、

⁵ 2017年1月24日の交代を含めてカウントした。付属資料9の回数とは異なる。

プロジェクト活動の実施による負荷が大きくなっている。その結果、モチベーションが低下する傾向もみられる。また、女性活動がプロジェクトの重要なコンポーネントでありながら、PDMに明記されていないことも、プロジェクト関係者の女性活動に対する理解不足を生み、状況の悪化をもたらしている。

第3章 評価5項目による評価⁶

3-1 妥当性

プロジェクトの妥当性は以下の理由から、中間レビューの時点でも高いものと判断する。

(1) エジプト政府の開発政策との整合性

エジプトの主要産業である農業は、鉱業、製造業と並んで、GDPの15%前後を占める重要なセクターである。農業セクターは、歩みは遅いものの着実な成長を記録し続けており、就業人口における農業従事者は30%に達する。また、貧困層の多くが居住する農村部においては、人口の50%が従事している。

MALRは2030年に向けた持続的農業開発戦略〔Sustainable Agricultural Development Strategy (SADS) Towards 2030〕のなかで、恵まれない人々への支援と貧困削減に特に配慮しつつ、持続的で迅速な成長力を有する活力にあふれた農業セクターを基盤として、包括的な社会・経済開発を実現するために、以下の戦略目的を設定している。

- ・ 農業資源の持続的な活用
- ・ 土地及び水利用の単位当たりの生産性の向上
- ・ 戦略的な食料についての高い食料安全保障の達成
- ・ 国内・国際市場における農産物の競争力向上
- ・ 農業分野の投資の促進
- ・ 農村社会の生活水準の向上と貧困の削減

本プロジェクトは、上エジプトの2県の小規模農家を対象として、市場志向型アプローチに基づく普及活動を展開し、農産物に付加価値を与え、競争力の向上を通じて、農家の収入の向上を図るものである。この目的は、SADSの戦略目標の4番目（国内・国際市場での農産物の競争力向上）と6番目（農村社会の生活水準の向上と貧困の削減）に合致している。

(2) 上エジプト地域の社会のニーズとの整合性

上エジプト地域の小規模農家の多くは、伝統的作物（コムギ、ベルシウム、メイズ等）と比較して高い園芸作物栽培の収益性を承知しつつも、農地規模の制限、あるいは栽培技術の不足から、栽培に踏み切れないでいる。例外的に、園芸作物の栽培を試みる農家もみられるが、市場の情報と分析に基づいて、需要の高い作物を栽培し、高値で売るために、出荷の時期を調整するなどの戦略的な農家経営を行うまでには至っていないケースがほとんどである。

このような状況下で、本プロジェクトは小規模農家が、旧来の「栽培してから売る」という考えを改め、「売るために栽培する」という心構えを身につけ、市場情報に基づく、市場志向型の園芸作物栽培に転換する支援を行うものである。プロジェクトでは、市場の要求に応え得るように、小規模農家の園芸作物栽培技術の向上も支援する。これらのアプローチを通じて、プロジェクトが最終的にめざすものは、小規模農家の生活水準の向上である。

(3) わが国政府の支援方針との整合性

2008年6月に示された対エジプト国別援助計画において、わが国政府は、エジプトが「競争

⁶ 本報告書の評価結果は、高い・やや高い・中程度・やや低い・低いの5段階で示した。

力のある安定した経済社会」に移行することを支援するとして、以下に示す3本の柱から成る援助の方向性を示しているが、本プロジェクトは第2の柱と整合性が高い。

- ・ 持続的成長と雇用創出の実現（投資・ビジネス環境の改善、輸出の振興及び産業の育成、環境対策への改善の取り組み）
- ・ 貧困削減と生活水準向上（公共サービス拡充・改善、農業・農村開発、社会福祉向上）
- ・ 地域安定化の促進（中東の平和と開発のための支援、サブ・サハラ諸国の開発支援）

また、JICAが2016年3月に公開したエジプトを対象としたJICA国別分析ペーパー（JICA Country Analysis Paper：JCAP）では、以下の3本の柱が、開発の重点分野として示され、本プロジェクトは、2番目の柱の下に実施されている。

- ・ 包括的で時速的な成長（電力、運輸・交通、民間セクター、観光）
- ・ 貧困削減/生活水準の向上（保健と農業）
- ・ 人材開発/パブリックセクター改革（教育、パブリックセクター、地域連携）

3-2 有効性

プロジェクトの有効性は、以下の理由から、中程度であると評価する。

(1) 市場志向型農業に向けた農家の変化の状況

現在のところ、少数ではあるが、市場志向型農業に向けた農家へのインパクトが、ミニア、アシュート両県の現場視察でみられた。レビュー調査団は、プロジェクト活動に参加し、市場の需要に基づいて適切な栽培作物を選択し、研修で習得した栽培技術を適用することができるようになり、収入の向上を果たした農家がいることを確認した。成功した農家の事例は、周辺の農家にも影響を与えている。

アシュート県の例であるが、キュウリの作付けを3カ月程度遅らせて、市場で高値となる時期に出荷した農家は、通常kg当たり1EGP（エジプトポンド）程度の売値が、2～3EGPになり、大きな収益を得たということであった。この成功事例をみた周辺農家の多く（農家によれば500名程度）が、成功した農家の手法に追従したとのことであった。ただし、このような成功事例は、まだ少なく、研修に積極的かつ継続的に参加した農家に限られている。

(2) 第1及び第2サイクルでの農家の参加不足とその理由

第1及び第2サイクルにおいて、対象農家のプロジェクト活動への参加が不十分であり、課題の1つであった。プロジェクトチームは、農家が継続的にプロジェクト活動に参加するように、対象農家の選択方法に工夫を凝らすなどの対応を行ったが、農家の参加率には改善がみられず、一部の農家だけが、研修に継続して参加した⁷。

このような状況のなかでは、プロジェクトチームから農家への技術移転は限定的なものにならざるを得ず、農家の考え方を、旧来の栽培方法から、市場志向型の農業への転換に導いていくことは困難であった。

なぜ、農家の継続的な参加が得られなかったのかについて、レビュー調査団が行った行政官

⁷ 行われた活動は全8回中、5回以上参加した農民はミニア県で12.4%、アシュート県で16.9%であった。女性活動の参加率は若干良好で、研修活動に6割以上参加したものはミニア県：16.9%、アシュート県：53%。

(県、郡、村落)⁸、小規模農家への聞き取り、また、第2サイクル、第3サイクルの村落でのデモ圃場の視察等を行った結果、以下のような要因があったのではないかと推察される。

- ・園芸作物栽培に興味をもつ小規模農家は多い。しかし、保有農地面積が小さいことから、園芸作物栽培で利益が見込めるにしても、それが確実に保障されない限り、自家消費用の冬コムギや夏のメイズの栽培面積を減らして負う損失のリスクは回避したい。
- ・第1、第2サイクルにおいて、対象農家の選抜を対象村落の農協に委託したところ、結果として高齢な農家が対象農家の大勢を占めた。聞き取り調査では、高齢な農家は伝統的な作物栽培を継続したい旨を表明するケースが多かった。当初は興味が優先してプロジェクト活動に参加したとしても、新たな知識の習得や活動を求められる園芸作物への転換に導くことは難しかったと推測される。
- ・多くの小規模農家が、グループ活動を敬遠し、個人単位での活動を好む傾向にある。このため、一定の品質を確保し、かつ、まとまった量の農産物を供給することが求められる企業との契約栽培の実現には、困難が伴う。
- ・プロジェクト活動への参加に興味を示す農家は多いが、行政官の勤務時間の制限（県の農業事務所は朝9時に業務を開始し、午後2時には業務を終了する）からプロジェクト活動を行う時間帯も制限されるため（平日の正午を中心とした前後の数時間）、農家の活動スケジュールと合致しない場合がある。
- ・エジプトの農村部では、女性は家庭にとどまり、男性のみが屋外で活動をするという社会規範の存在が根強く、女性に男性と同様の農作業に関する活動への参加を促すことが困難であった。

第3サイクルの開始にあたり、プロジェクトチームは、市場志向型農業に関心をもち、活動的な対象村内の10名ほどの農家をメンバーとするマーケティング協議会を設立し、これを、周辺の農家の関心を高め、市場志向型農業普及のためのメカニズムとして活用する戦略を打ち出して実行に移している。

第3サイクルが開始されてまだ半年であることから、予断は許されないが、レビュー調査団が視察した第3サイクルの対象村落は、マーケティング協議会を中心に、周辺農家の市場志向型農業への関心が高い様子であり、マーケティング協議会が機能していると考えられる。

(3) 技術移転の効果

プロジェクトが農家を対象に実施したプロジェクトの有用性調査によれば、技術移転の各項目（市場調査、ビジネスダイアログ、園芸作物栽培、デモ圃場設置）は高い評価を得た。

また、市場調査やビジネスダイアログは、女性を含めた農家達の起業家マインドを育むのに役だったと考えられる。

デモ圃場も、対象村落の農家に、伝統的な作物に比べて収益性が高い園芸作物栽培の優良事例を提示するうえで有効であった。

(4) プロジェクト目標の達成状況

指標によるプロジェクト目標の達成状況（「2-4 プロジェクト目標の達成状況」参照）は、

⁸ 中央の行政官からは質問票による情報収集を行った。

中間レビューの時点で利用可能な第1サイクルの村落のデータに関する限り、「ある程度」は達成されているともいえるが、満足すべき水準には到達していないと判断する。

利用可能なデータは、プロジェクトが2016年の7月から9月にかけて実施した第1サイクルの対象村落についての評価調査で収集されたものであるが、2014年夏作の収入をベースラインとし、2015年の夏作による収入との比較を行っている。結果は、対象6村中、4村では目標を達成したが、2村では目標が未達であった。

より正確に収入の向上をみるためには、少なくとも、第1サイクル、第2サイクルの対象村落について、2016年の夏作による収入に関するデータを収集し、検討する必要がある。

3-3 効率性

プロジェクトの効率性は、以下の理由から中程度と評価する。

(1) 投入

日本側投入（専門家配置、本邦研修、機材供与、現地業務費負担）は適切なものであり、プロジェクト活動の実施に活用された。

一方、エジプト側の投入については、マネジメントに責任もつプロジェクト・ダイレクター及びプロジェクト・マネジャーの頻繁な交代、活動経費の不足、中央の普及局からのC/Pの不在などの課題がみられた。

C/Pが、対象村間の長距離を移動するに際しても、交通手段の不足、手当の未払いなどが常態化しており、プロジェクト活動の円滑な遂行の妨げとなった。

(2) 成果の達成状況

「2-3 成果の達成状況」で述べたように、中間時点での成果の発現状況は、限定的であった。関係者の努力は認めつつも、第1及び第2サイクルでは対象農家の参加が不十分であったことは否めない。

第3サイクルの開始にあたり、プロジェクトチームは、市場志向型農業に関心をもち、対象村内の活動的な10名ほどの農家をメンバーとするマーケティング協議会を設立し、これを、他の農家の関心を高め、市場志向型農業普及のための機能として活用する戦略を打ち出している。

第3サイクルが開始されてまだ半年であるため、予断は許されないが、レビュー調査団はマーケティング協議会が機能していることを確認した。このため、レビュー調査団は、マーケティング協議会を組み込んだ普及フローが実質的な普及フローの最終形として2017年中に採用され、関係者の承認を得られることを期待する。

3-4 インパクト

(1) 上位目標の達成見込み

上位目標：ミニア県及びアシュート県のプロジェクト対象作物を栽培する小規模農家の農業所得が向上する。

指標：ミニア県及びアシュート県でプロジェクト対象作物を栽培する小規模農家において農業所得が13%上昇する。

上位目標の達成見込みについては、上記指標を基に、プロジェクト協力期間3年から5年を目処に検証がなされることとなるが、レビュー調査団は、いままでのプロジェクトの進捗、現

在のエジプトの財政状況や、上エジプト地域の社会規範等の諸条件を勘案すると、現行の指標の達成（2 県全体への普及による小規模農家の所得の向上）は難しいと考える。

(2) その他のインパクト

中間レビュー時点では、インパクトの検証は困難であるが、いくつかの正のインパクトの兆候がみられた。

1) 技術的インパクト

プロジェクトは、対象地域であるミニア県、アシュート県の小規模農家に、市場志向型農業という新たなコンセプトをもたらした。また、市場調査やビジネスダイアログなど、未経験の活動に加えて、以下に示す、新たな栽培技術を紹介してきた。自らの耕作地で、これらの栽培技術を取り入れる農家の例もみられた。

- ・ 夏作における混作（トマトとヒマワリ、キュウリとヒマワリ）
- ・ 新品種・適正品種の導入（ニンニク、トマト、キュウリ、ゴマ、ダイズ、ジャガイモ）
- ・ 端境期栽培による市場での高価格販売
- ・ 堆肥作り

2) 社会的インパクト

現在のところ、まだ、インパクトの発現は兆候の段階であるが、プロジェクトは、市場志向型農業の導入を通じて、上エジプト地域の小規模農家の農業や、女性の社会活動への参加に対する旧来の発想を変え、収入の向上につなげる試みを継続してきている。

レビュー調査団は、プロジェクト活動への取り組みを契機として、市場志向型農業に取り組み、成果を上げている農家が現れていることを確認した。一方、上エジプトの保守的な土地柄から、農家の考え方をを変えるには、相応の時間がかかるであろうことも認識した。

しかし、一方で、市場動向の分析のスキルを基礎とした園芸作物栽培が高い収益をもたらすことを理解すれば、多くの小規模農家が、比較的短期間に園芸作物への転換を試みる素地も感じられた。協力期間の後半の早い段階で、プロジェクト活動が、多くの成功事例を生み出せば、周辺の農家が追随し、状況が一気に変わる可能性も期待できる。

女性活動（小動物飼養、食品加工など）の実施は、上エジプト地域の厳格な社会規範のなかでも、女性の社会・経済的な立場を、徐々に、しかし着実に強化していくであろう。ジェンダー主流化の ToT を通じたエジプト側 C/P の能力向上、マニュアルや研修教材の作成は、C/P たちの対象村落の女性支援に対する意欲の高さと相まって、変化を生み出す一助となることが期待される。

なお、現在のところ、プロジェクト実施による負のインパクトはみられない。

3-5 持続性（見込み）

中間レビュー時におけるプロジェクトの持続性（見込み）は、以下の理由からやや低いものと判断する。

(1) 政策面

プロジェクトはエジプト側の開発政策と高い整合性をもっていることから、エジプト政府（MALR など）からの政策的な支援を継続して受けることが期待できる。社会の安定のために、農村社会の貧困削減を重視する政策が大きく変わることはないと考えられる。

(2) 財政面

プロジェクトの財政面での持続性には懸念が払拭できない。中間レビューに至る過去2年半の間、エジプト側からの活動費負担のための予算は確保されなかった。プロジェクト活動経費の不足が、円滑なプロジェクトの遂行を妨げてきた。

(3) 技術・管理面

日本人専門家と緊密な連携の下に活動を続けてきた県農業事務所のC/Pたちの能力は向上している。

一方、カイロのMALRに所属するC/Pたちの多くは、本邦研修で、市場志向型農業について、さまざまな知識を習得して帰国したにもかかわらず、交通費・宿泊費などの予算が不足していることから、現場への訪問ができずにおり、過去2年半の間に、2回程度の出張を行っただけである。

加えて、的確なモニタリングシステムが構築されていないこともあり、中央レベルでの適切なプロジェクトの管理ができていない。

また、エジプト政府は、構造改革プログラムを開始し、今後、行政官の数は削減される方向で進んでいる。郡や村落の農業普及員についても、高齢化、少数化が深刻となっている。村落レベルのプロジェクト活動を担うのは、これらの人々であり、現在の状況が継続すれば、普及員を通じた将来のプロジェクト活動の面的な拡大は困難となる。

5 項目による評価結果

評価項目	評価結果	理由
妥当性	高い	(+) エジプト政府の政策との整合性 (+) 地域社会のニーズとの整合性 (+) 日本の支援方針との整合性
有効性	中程度	(±) 農家の収入に関するデータが不足 (±) 利用可能なデータに基づく達成度は不十分（ある程度は達成）
効率性	中程度	(+) 日本側の投入は妥当 (-) エジプト側の活動経費負担がなされていない。 (-) 現場のC/Pに対する支援（交通手段など）が不十分 (-) エジプト側C/P（管理層）の頻繁な交代 (-) 対象農家のプロジェクト活動への参加が不十分で成果達成が限定的
インパクト (見込み)	正のインパクト が期待される	* 現行の上位目標の達成は困難 * 正のインパクトの兆候がみられる。 * 負のインパクトはみられない。
持続性 (見込み)	やや低い	(+) 貧困削減重視の政策維持見込み (-) 財政面の持続性についての懸念 (-) 予算・人的な不足による普及活動の脆弱な実施能力

3-6 結論

エジプトと日本合同の中間レビュー調査が実施され、文献調査、関係者（MALR 行政官、日本人専門家、小規模農家等）に対する聞き取り、ミニア県、アシュート県の現場視察などを通じて情報を収集し、その分析結果を基に、評価5項目による評価を行った。

(1) 妥当性

プロジェクトは、エジプトの開発政策、対象地域の社会ニーズ、日本の援助方針と整合しており、中間レビュー時においても、高い妥当性を有している。

(2) 有効性

プロジェクトの有効性は中程度である。プロジェクト目標である「ミニア県及びアシュート県の対象小規模農家並びに周辺小規模農家の農業所得が向上する。」の達成状況を判断するためのデータが不足しているが、利用可能なデータに基づけば、不十分ながら、ある程度は達成されていると判断する。第1及び第2サイクルでは、対象農家のプロジェクト活動への参加が不足しており、成果の発現状況も限定的であった。

(3) 効率性

プロジェクトの効率性は、中程度である。日本側の投入は、機材供与、ローカルコスト負担、専門家の派遣について、全体として適切なものであった。

エジプト側の活動予算の不足により、円滑なプロジェクトの進捗が妨げられたなかで、プロジェクト・ディレクターやマネージャーが頻繁に交代し、適時・適切な対応がなされなかった。

成果については、第1及び第2サイクルでは、対象農家のプロジェクト活動への参加が不足しており、プロジェクトチームが対応策を求めて試行錯誤したなかで、成果の発現状況も限定的であった。これらの要素が、プロジェクトの効率性を下げた。

(4) インパクト

上位目標の指標である「ミニア県及びアシュート県でプロジェクト対象作物を栽培する小規模農家において農業所得が13%上昇する。」の達成は、いままでのプロジェクトの進捗と、現在のエジプトの財政状況や、上エジプト地域の社会規範等の諸条件を勘案すると、プロジェクト期間終業後の3年から5年の間に達成するのは、困難とみられる。

技術面、社会・経済面のインパクトがプロジェクト期間の後半以降にはみられるものと期待される。

(5) 持続性

中間レビュー時点のプロジェクトの持続性は、やや低い。特に財政面、技術・管理面での持続性に懸念がある。

これらのレビュー結果に基づき、中間レビュー調査団は、協力期間の後半に、プロジェクトの軌道を修正し、進捗を加速するための提言を以下の章（提言）で示した。

第4章 提言

4-1 プロジェクトチーム（エジプト側 C/P・日本人専門家）への提言

(1) 今後の活動の方向性

- 1) プロジェクトチームは、より多くの成功事例を作り出すために、これまでの活動が比較的
成功してきた村落、行政官と普及員の活動が活発であった村を選択し、これらの村落で集中
的なフォローアップを行うこと。
- 2) デモ圃場の周辺小規模農家への効果を一層引き出すために、デモ圃場の設置数を増やし、
耐久性をもつ看板の設置を行う。また、プロジェクトチームは、成功事例について、周辺の
小規模農家だけでなく、MALR（本省）に対しても周知すること。
- 3) プロジェクトチームは、女性活動のこれまでの実施プロセスを再度検討すること。また、
女性たちの、市場志向型アプローチに基づく農業活動の実践能力強化につなげていくうえ
での、カギとなる要素を明らかにすること。
- 4) プロジェクトチームは、これまでに選択された村落と対象地域のグループに対する支援に集
中することで、優良事例の創出に焦点を当てること。対象グループ（女性を含む）の選定基
準の確立と適用に加え、女性の収入創出活動分野を検討する際には、フィービリティを
検討すること。

(2) プロジェクトモニタリングの強化

- 1) 県のC/Pと日本人専門家は、営農活動についてモニタリングを行うフォーマットを作成し、
ワークショップを通じてそれらの情報を収集する（各サイクルにおいて、栽培前と収穫後に
各1回、計2回の農家レベルのモニタリングを行う）。
- 2) MALRにテクニカルコミッティー（以下、「TC」）を設置しプロジェクト活動のモニタリン
グを強化する。TCはプロジェクト・マネジャー、カイロのC/P、県のC/Pリーダー、日本人
専門家で構成される。TCは、プロジェクトの進捗状況、成果、プロジェクト目標の達成状況
の確認、課題への対応を行うために、四半期に1回程度現場視察とモニタリングを行う。
- 3) 県のC/Pと日本人専門家は、共通のモニタリングシートを用い、現場での活動について毎
月モニタリングを行いTCに報告する。

(3) 現行の普及活動の枠組みへの ISMAP 成果の組み込み

- 1) プロジェクト終了後も ISMAP の成果が既存の普及システムのなかで活用されることが重要
であることから、プロジェクトチームは、MALR の既存の普及活動に関する情報を収集し、
いかに ISMAP の成果を活用するかについて協議する。
- 2) 前項に関連し、プロジェクトチームは既存の普及ガイドラインやマニュアルをどのように
改善するかについて協議し、今後プロジェクトに参加していなかった農家にも ISMAP アプ
ローチが活用できるようにする（すなわち、識字率の低い農家を配慮して、イラストや写真
によるガイドラインの作成、1枚のシートに栽培技術を要約して示す営農カレンダーのよ
うな教材作成など）。
- 3) プロジェクトチームは、受益者のオーナーシップを醸成するため、農家に対するフルスケ
ールの支援を徐々に引き下げていくことを考慮する。

(4) プロジェクト運営の円滑化

- 1) 県の C/P はプロジェクト予算の確保のため、プロジェクトの活動に対する具体的な年間計画を MALR に対し提示する。また、月々のモニタリングレポートの提出を行う。日本人専門家はそれを支援する。
- 2) プロジェクトチームは PDM の指標について見直しを行う。具体的には、現実的な上位目標の設定、プロジェクト目標指標の平易な表現への修正、農家の行動変容を測るための指標並びに女性活動に関する指標の導入が必要である。レビュー調査団による修正 PDM 案を付属資料 11 及び 12 に示すので、プロジェクトチームは、これを参照して PDM を修正し、速やかに JSC で協議し、承認を得ること。

4-2 エジプト側への提言

- (1) エジプト政府は R/D で合意されたローカルコストの負担のため、プロジェクト予算を確保する。

4-3 日本側への提言

- (1) JICA は今後の詳細な PO について関係者と協議し、必要に応じて追加的な人員の投入を検討する。

第5章 団員・団長所感

5-1 市場志向型農業団員所感

(1) 小規模園芸農民組織強化プロジェクト (Smallholder Horticultural Empowerment Project : SHEP) の視点

1) SHEP とは? <見るべき視点1>

SHEP とは、ビジネスとしての農業をめざす取り組みを、対象者のモチベーションを考慮した仕掛けを通じて行い、農業による所得向上をめざしたアプローチである。また、いわゆる「SHEP 活用型案件」とは、日本側あるいは先方 C/P のいずれかがビジネスとしての農業とモチベーションを考慮した仕掛けの双方に意図的に取り組んでいる案件のことを指す。

図-1 の2つの丸が重複した部分の活動がまさに SHEP のオリジナリティーであり、カギとなる。SHEP アプローチでは、ビジネスとしての農業の具体的な活動として、市場関係者と農家の市場情報に関する情報の非対称性（ギャップ）を埋めていくこととしている。

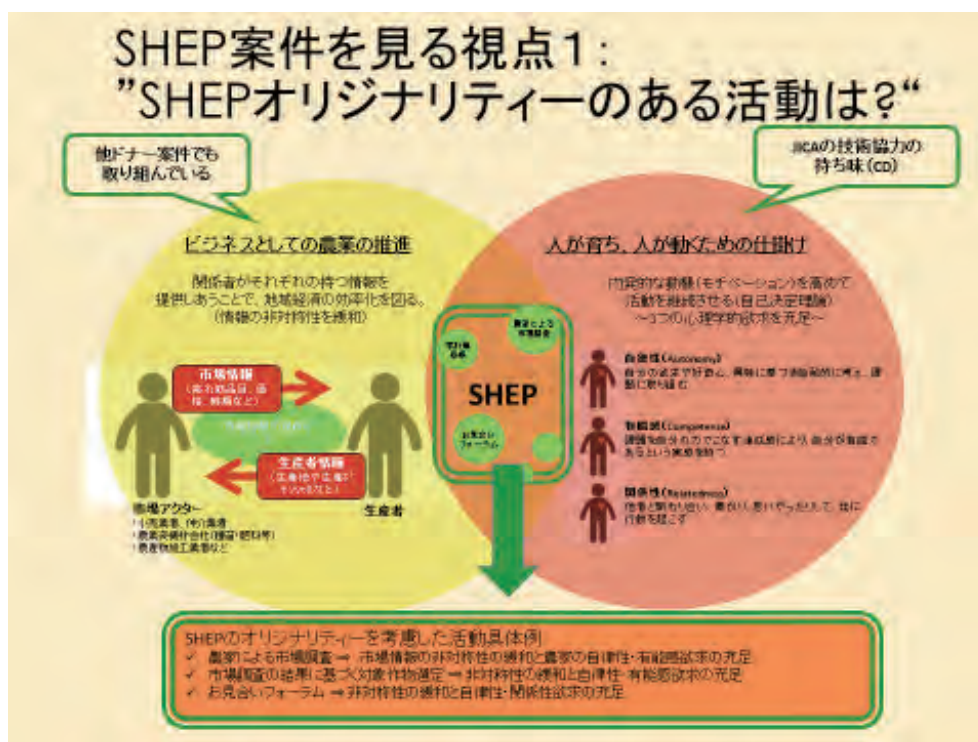


図-1 SHEP のオリジナリティー

ISMARP では、一連の活動のなかで、農家による市場調査や市場関係者、主に契約栽培に関連するトレーダーや企業調達担当者を交えたビジネスダイアログが実施された。その結果、ミニア、アシュート両県の対象農家は、市場調査の結果を踏まえた作物選定を行い、選定された作物に対するデモ圃場を通じた技術指導を受けた。市場においてこれまで知らなかった事柄が判明したことによって（情報の非対称性の緩和）、高価格で取引されている新規作物や品種を導入、高価格時をねらった作付時期への変更、新技術の採用等が進められた。モチベーションの質の向上については、レビュー時のグループディスカッションのみの印象に頼らざ

るを得ないが、勢い込んで成功したことを語りかけている様子からすると、収穫物販売による収入増がなされたことによるコンピテンス欲求、自身で作物や作付時期を決めたことによる自立性欲求それぞれがポジティブに変化したと思われる。こうしたことから、ISMAPは「SHEP活用案件」として、十分に成果を出しているといえる。

2) 活動の順番く見るべき視点2 >

SHEPアプローチでは、いくつかの活動群があり、それら活動を4つのステップで分類している。SHEP広域化において、各国活動そのものは実情に合わせて変化がある一方、この4つのステップは必須であり、基本的にステップの順番も同様である。図-2は、ケニアSHEPとISMAPの活動の比較である。

活動ステップ	ケニアSHEP	エジプトISMAP
1. 対象農家選定と目的共有	プロジェクト活動説明会 プロポーザル方式による 実施県の選定 県による対象グループの 選定	県及び郡による選定 プロジェクト説明会
2. 農家の気づきの機会創出	参加型ベースライン調査 お見合いフォーラム 男女農家普及員集合研修 農家による市場調査	参加型ベースライン調査 市場調査(第3サイクルでは、この活動まで第1ステップを兼ねる) ビジネスダイアログ
3. 農家による決定	対象作物選定 アクションプラン策定	対象作物選定 営農計画策定
4. 技術<解決策>の提供	担当普及員技術強化研修 普及員による現地研修	デモ圃場の設置 デモ圃場における研修

図-2 ケニアSHEPとISMAPの4つのステップによる活動分類

ISMAPでは、プロジェクト初期の段階で活動フローが提案され、中身の修正を行いながら、フローに従って活動が実施された。しかし、ミニア、アシュート両県ともに、主要な7つの活動のうち4つ以上に参加した農家は、わずか10%超であった。第2サイクル以降は、連続した参加を促すために、前回の振り返りや次回の活動予告、出席するたびにスタンプを押すパスポートの導入などを行ったが、さしたる効果はみられなかった。よって、第3サイクルでは、活動説明会から市場調査まで連続で出席した農家を核として、以降の活動を進める工夫を行った。

今回のレビュー調査で訪問したグループをみる限り、核となった農家の理解度ややる気の高さがうかがえた。すなわち、第2ステップである市場調査は、同時に農家のセレクションも行っているため、目的からみると第1ステップの活動を兼ねているといえる。つづいて、第2のステップとしての市場調査は、市場関係者との面談によって気づきの促進がなされる。第3のステップである「農家による決定」では、デモ圃場の内容(品目や時期、技術)が特定された。第4のステップでは、デモ圃場における現地研修が実施された。エジプトの特徴は、第1ステップにある。連続して参加した農家は、おおむねサブサハラの農家同様の意識変化

がみられたが、第1ステップで核となる農家を絞れないと、その後の活動の効率は著しく低下し、かつ成果も期待できない。4つのうち第1のステップ「参加者の選定と目的の共有」の段階において、こうした取り組みが必要な国は、今のところサブサハラのアフリカではみられず、エジプト特有のものと思われる。

3) スキルとモチベーションの関係く見るべき視点3>

SHEP 案件では、活動の進捗に合わせて、対象者のモチベーションとスキルが相関しあいながら向上することを1つのモデルとしている。今回の聞き取りのみの印象で考察してみると、おおむねケニアや他のサブサハラアフリカの農家と似た傾向にあったと思われる。しかし、エジプトの特徴は、他国の農家と比べると、目に見える結果が出るまでは、疑心暗鬼の状況が続くように感じられた。

一方、ひとたび収穫量増加に伴う収入増が達成されると、成功体験によるモチベーションの高揚が極端にみられるのではないかと。図-3と図-4で、ケニアと ISMAP のモチベーションとスキルの相関図を示した。さらに、この図に当てはまらないのだが、プロジェクト活動に参加していない周囲の農家は、核となる農家の成功を見たときに、植え付け前の初期の段階からかなり高いやる気を出すと思われる。聞き取りから、うまくいくまで様子を見る、と発言した農家が非常に多かった一方、アシュートの Moshia 村のように、ある農家の成功から一気に500名ほどの農家がキュウリの作付時期を3カ月ずらした。こうした変化は、国民性とともに、栽培環境や人口密度、交通網の発達などが大きく作用しているものと思われる。

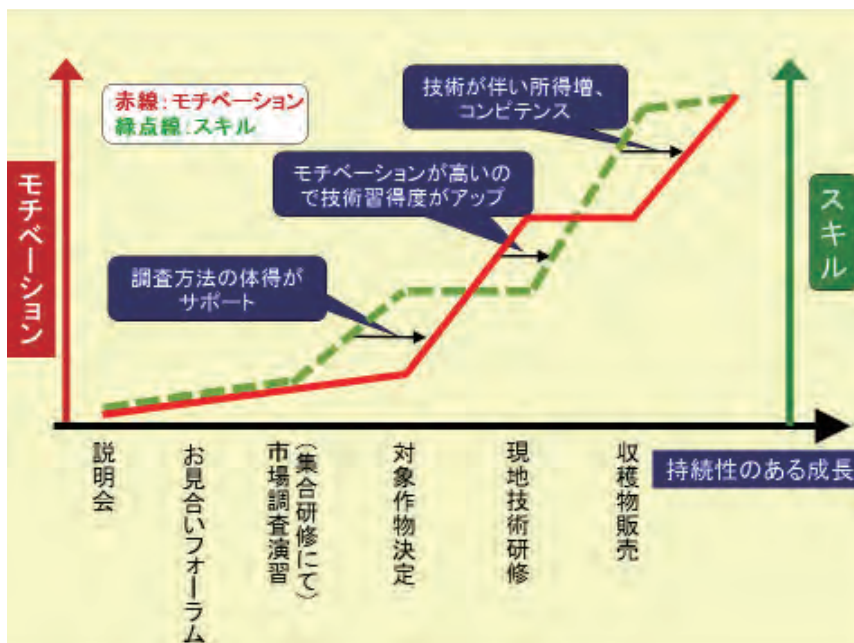
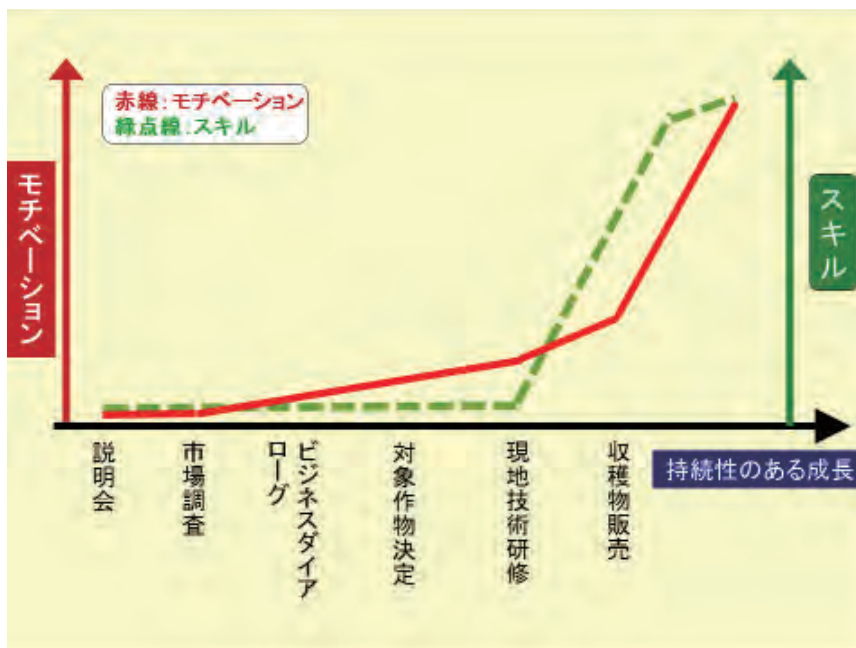


図-3 ケニア SHEP におけるモチベーションとスキルの相関図



図－４ エジプト ISMAP におけるモチベーションとスキルの相関図

以上のように、ISMAP は他の SHEP 活用案件のなかでもエジプト特有の事情によって成否が多きく影響を受けている。プロジェクトでは、こうした事情を活動の実施を通じて感じ取り、第3サイクルの核となる農家の絞り込みなど工夫を凝らしてきたことがわかる。他の SHEP 活用案件に、貴重な情報となると思われる。

(2) 今後の活動に関するアイデア

1) 契約栽培

MALR 本省、県の C/P、さらには農家に至るまで契約栽培による安定した価格による所得増加を大きな希望として思い描いていることがよく理解できた。しかし、現実には、両県の小規模農家との取り引きをプライオリティーとして考えている企業はまれで、ビジネスダイアログに声かけをしても、わずか数社のみが参加してくれるというのが現状である。さらに、ビジネスダイアログで知り合ったとしても、必ずしも契約には至らず、あるいは契約をしたとしても（これまでは紙ベースの契約はなく、口頭のみで1件）、買い取り条件やインプットのサービス、技術支援などにおいて両者（農家と企業）の思惑が合わず、結果として、成功には至っていない。おそらく両者の間、特に農家のなかに企業に対する不信感が募っただけではないかと思われる。それでも、農家は企業の事情など考慮せず、自己の主張のみを声高に叫んでいるように感じられた。MALR、県の C/P もこうした企業側の論理や契約栽培に至るまでの煩雑な調整、農家のキャパビルのなどの質の高い支援が継続的に必要であることをあまり理解していないように見受けられる。

日本の農業においても、契約栽培に依存している農家はほとんどおらず、多様な販売チャネルのなかから、身の丈に合った売り先を選択している。しかし、こうしたエジプトにおける契約栽培成就に至る困難さや、たとえ達成できたとしても面的な広がり限界などについて、口頭で説明しても、彼ら・彼女らの理解を得ることは難しいように思われる。

また、市場志向型農業を掲げている ISMAP に対する行政側の期待の 1 つは、契約栽培であることは事実である。こうしたことから、今後残りの期間で契約栽培を強く希望する農家を絞り込み（おそらく 1 件 / 1 県）、C/P にカイロでの企業との折衝も含め、各種の調整を体験させつつ、契約栽培成就に向けた取り組みを行うことは妥当であろうと思われる。この活動を通じて、特に県の C/P が契約栽培にかかるコスト（調整、時間、実際の予算等）について算出し、それを行政が行っていくことの妥当性、効率性について検討していくことが重要である。願わくは、プロジェクトが支援している近隣の市場との取引による成功（Moshā 村の事例など）が、よりエジプトの小規模農家に有効であることを C/P が理解し、それを MALR に向かって発信できるようになってもらいたい。

2) 活動の絞り込み

ISMAP の大きな課題の 1 つは、研修への連続した参加促進であった。各種工夫を凝らしても、この課題をクリアすることは容易ではない。一方、市場調査やデモ圃場など限られた回数に参加でも大きな成果が期待できる活動があることも判明した。第 3 サイクルで実施している初回から 3 回程度の活動に参加した農家を核とする絞り込みの手法を使いつつ、それ以降は、有効な活動である市場調査を複数回オープンな参加で実施するなどの工夫があってもよいかもしれない。また、上記のとおり、契約栽培をねらう農家は絞り込む。必然的に契約栽培を念頭に置いたビジネスダイアログの開催については、必要性が限りなく薄いと思われる。今後、プロジェクトチームと効率的かつ効果的な研修の実施方法について検討したい。

3) デモ圃場の活用

聞き取りの際に、ほとんどプロジェクト活動に参加していないと思われる農家においても、デモ圃場に関する評価は高かったように感じた。セオリティカルな座学より、プラクティカルなトレーニングを、という声を何度も聞いた。とにかく「目で見ること、体験してみること」が新しいことに取り組むときにより重視される。一方、デモ圃場での研修は、作付するときの一度きりとのこと。今後は、例えば、4 カ月ほどの作付け期間の作物の場合、播種、除草及び施肥、防除、収穫など 4 回程度の現地トレーニングを実施してはどうだろうか。もちろん、全体のプロジェクト活動とのバランスをみる必要はあるが、研修場所の数を絞るなど工夫をして（一方、デモ圃場の数は面積を小さくしてでも展示効果を考え多く作りたい）、より目に見える形の情報発信に努めたい。

(3) 今後の SHEP 活用案件について

ケニア SHEP では、プロジェクトの指標に農業所得の増加だけではなく、グループの成熟度を測る「グループ・エンパワーメント・インディケーター (GEI)」や各農家の技術適用度を示す「園芸栽培技術必須 20」などを採用している。今後、プロジェクトの成果をより広く拾うことを考え、こうした指標の採用をもっと進めたい。その際は、国の事情に合わせて改良することが重要である。

(4) それぞれの階層における持続性と業務改善

本プロジェクトでは、中央、地方（県・郡）、農協、農家それぞれのアクターにおける終了後の持続性に関して、異なった状況になっているため、ここで整理したい。周知のように、中央政府における当プロジェクト活動に関する予算は、詳細計画策定調査の段階から大きな課題で

あった。協議でもめたものの、最後は調査団が、当時の大臣に必要額を提示し、承認してもらった。R/D 署名前に、大臣が交代し、予算承認がとん挫した。以降、中央における予算問題は、根本的な解決がみられない（中間レビュー時点）。よって、たとえ2県においてすばらしい成果が出たとしても、中央のC/Pの巻き込みも限定的であったことから、能力及び予算の面からみても、その他の県に普及する見込みは、ほばないだろう。

一方、県のC/Pは、日常的に専門家と業務を実施している。活動に対する意欲や理解は両県において、多少のばらつきはあるが、プロジェクトが実施してきた活動を自身で実践する能力は、一定程度身につけているものと思われる。予算は、中央からの支給がないため、これまでのところ準備ができていない。しかし、プロジェクト活動にかかる予算は、主に農協・農家訪問時の移動費である。農業研究所などが予算を出している農家向け研修やデモ圃場作成などの質を、本プロジェクトでの経験を基に、改善することは十分可能である。

また、農協には普及員が配属されている。彼らの通常業務は、土地の登記やローンの申請支援、肥料の配付等であるが、もちろん通常の技術提供もTORの1つである。今回、訪問したすべての農協において、普及員が農家へのインタビューに参加しており、農家との関係性が破たんしているとは思われなかった。ある普及員への聞き取りから、「プロジェクトで実施した市場調査を対象農家以外にも勧めている」「デモ圃場での成果を広めている」といった彼らの通常業務の範囲における業務改善の一端をみることもできた。本文で報告があったとおり、市場ニーズに合わせてキュウリの作付時期を3カ月ずらした農家を、近隣の500農家がまねた事例があった。プロジェクトでは、デモ圃場農家に対し、展示効果を見込み、種代などのインプットを提供している。とはいえ、これらのインプット代は、通常農家が用意する費用からかけ離れた額ではなく、すぐにまねできる範囲である。もちろん、その500農家にプロジェクトは一切金銭的な支援を行っていない。よって、プロジェクト終了後、市場調査を継続し、そのニーズに合わせて、作付時期や品種、品目を変更する農家が増加することは十分に見込める。

以上のように、県及び農協、農家レベルにおいては、プロジェクト終了後も活動は一定程度継続されることが予想できる。一方、県の下郡に関しては、活動の実施能力の面からいって、これまでの関与が薄いこともあり、郡が自主的にプロジェクト活動を広めることは厳しいであろう。今後、こうしたそれぞれの階層における実施能力とその持続性をさらに見極め、より効果的、効率的な支援のあり方を検討されたい。

(5) 最後に

ケニアでのSHEPフェーズ1で、名目値とはいえ、対象農家の所得が倍増した。このことから、一躍SHEPが注目され、広域展開になったことは事実である。しかし、そもそもさまざまな環境要因によって左右される農業の所得を、しかも脆弱な小規模農家のそれを増加させることは、非常に難しい。SHEP系案件が期待されていることは、C/Pの研修実施能力が上がる、あるいは単一作物の収量が増加する、といったことをめざすプロジェクトとは、一段困難なレベルにあることをまずは理解いただきたい。ISMMapでは、これまでのところ、核となる農家の絞り込みのところでは試行錯誤を繰り返したため、成果が発現している組合は、マジョリティーではない。しかし、参加した農家は、成果が出ており、活動群が有効であることは判明した。さらに、プロジェクト対象外の農家への広がりも、特筆すべきものがある。

ISMMapは中東の大国であるエジプトの貧困層を支援している。そうした貧困層をキャパビル

のみで効率的かつ効果的に大きく成長させることができる術が見つかりつつある。全体からみると小さな貢献かもしれないが、ISMAPは中東における日本のプレゼンス高揚に寄与する大きな可能性を秘めている。引き続き関係者ととともに、同プロジェクトを支援していきたい。

5-2 ジェンダー団員所感

(1) 本プロジェクトにおけるジェンダー主流化アプローチ

本プロジェクトは、上エジプト農村の小規模農家の所得向上に向けて、農家の「作ってから売る」から「売るために作る」という市場志向への意識の転換による営農改善を推進するものである。具体的には、①「何がいつどのような値段で売れるのか」を知るための、農家による市場調査や、②農家と業者とのビジネスマッチング、③さらに市場のニーズに基づく農家の作物の選定のプロセスを支援するとともに、④選定された作物の生産に向けた農業普及員による技術支援が進められてきている。プロジェクトでは、これらの一連の取り組みを通じて、対象農家の所得を向上させるとともに、上エジプト地域の農村において市場志向型アプローチに基づく普及フローを確立していくことをめざしてきている。

上エジプト農村においては、ジェンダーに基づく保守的な社会規範が根強く残る地域も多く、女性が男性とともに屋外の畑で農作業に従事することが少ない場合も多い。他方、それは「女性たちが営農に携わっていない」ということを意味するものではない。プロジェクト対象地域の女性たちも、地域や世帯によって異なるものの、家事労働に加え、コムギやメイズなどの収穫及び収穫後処理、農薬散布の補助、家畜の世話、搾乳、チーズなどの乳製品製造、養鶏などに携わり、営農及び世帯の収入への貢献をしてきている。家禽や乳製品の余剰分をローカル市場で売買した経験をもつ女性たちも多く存在しており、自らの営農領域（屋内での作物栽培、養鶏やウサギ、ハト等の飼育や乳製品づくりの領域など）における新技術の習得や収入向上の機会の獲得に向けて高い意欲をもつ女性たちが多い。

こうしたなか、本プロジェクトにおいては、「女性も男性とともに能力を発揮する世帯や社会においては持続的で収益性の高い農家経営や農村開発が推進される」との考えに基づき、女性たちも営農の「主体」として認識したうえで、意欲ある女性たちに対しても市場志向型で栽培・生産する技術や、考える力を伝える取り組みを進めようとしてきている。具体的には、女性がアクセスできる家畜や屋内で栽培可能な作物などもプロジェクト活動に導入したうえで、市場志向型アプローチに基づく営農に向けた女性たちの能力強化をめざしてきている。さらに、女性たちの営農における重要な役割や貢献、社会・経済参加の重要性に関する男性側の認識や行動の変容を促すことを意識した取り組みも模索されてきている。

(2) これまでの活動実績

プロジェクトにおいては、これまでにMALRのC/Pやナショナル・スタッフにも女性が一定の割合で含まれるよう配慮しつつ、対象県（アシュート県・ミア県）において、女性たちの営農活動の現状と課題やニーズを把握する取り組みを行ってきている。そのうえで、プロジェクト活動をジェンダー視点に立って実施していくための「ジェンダー主流化マニュアル」を作成し、C/Pに対する研修（ToT）を行ってきた。C/Pたちは、本マニュアルを活用しつつ、市場志向型農業の推進に向けた普及活動の一環として、対象農家に対して、世帯における男女の役割や責任分担の現状を可視化させるとともに、女性も営農や世帯の収益向上に貢献する「積極的な

主体」であるというメッセージを発信する取り組み（ジェンダー・ワークショップの実施）を実施してきている。

さらに、対象農家に対するプロジェクト活動の実施においては、女性も参加しやすいように、女性専用のオリエンテーションや協議の場も設けてきた。第2サイクル以降は、女性が主体的に携わることができる作目（マッシュルーム、養鶏、ウサギやハトの飼育等）をとりあげるとともに、各村における対象農家の選定に際して「女性枠（10名）」を確保し、女性たちにもビジネスダイアログの実施や技術研修を行ってきている。こうしたなか、これまでに約80名の農村女性たちが研修に参加をするとともに、マッシュルーム栽培や養鶏、ウサギやハトの飼育などの取り組みをはじめてきている。



1) 成果の芽

プロジェクトで女性たちの取り組みへの支援が本格的に開始されて、1サイクルを過ぎたばかりのところであるが、これまでの一連のプロジェクト活動によって、女性たちの市場志向型に基づく営農活動や所得向上への意欲と意識が大きく高まってきている様子がうかがえる。また、地域における男性たちの女性たちの社会参加や経済参加に関する理解や意識にも変容の兆しが見受けられる。

① シハム（36歳）の事例



アシュート県のNawawra村で17歳を筆頭に5人の子どもを抱える「寡婦」のシハム（36歳）は、プロジェクトが開始されるとのうわさを親戚から聞いて、自ら農協まで出向き、プロジェクトへの参加を願い出た女性である。サウジアラビアに出稼ぎに出ていた夫が病気で突然死した後、自宅の隣で細々と雑貨店を経営しつつ、政府からの年金と兄からの支援に頼りつつ生活をしてきたが、プロジェクトが女性の活動も支援するとの話を耳にし、自身の所得を向上させ、5人の子どもたち（17歳、15歳、13歳、10歳、7歳）全員に高等教育を受けさせたいと、村から離れたアシュート県の都市部で開催されたビジネスダイアログや技術研修を含め、プロジェクトが実施する活動のすべてに出席してきた⁹。研修を受講した後は、村の他の5名の女性たちとチームを組んで、ウサギの飼育事業を開始。これまでにプロジェクトから供与された4匹のウサギを17匹まで増やし、それらをメンバーに分配してきている。さらに手元に残った4匹を9匹までに増やすとともに、現在までに新たに自費で1匹

⁹ プロジェクトが発行した研修参加用の『パスポート』を確認済み。

を追加し、数の増産に取り組んできている。途中、飼料代を捻出するために市場では安値でしか取引されない子ウサギの状態でも4匹を売らなければならなかったこともあり、収益はまだ出ていないが、今後子どもたち全員の教育費を捻出するためにさらに飼育事業を拡大していきたいとの高い意欲を示している。

② メディハ (35 歳) の事例



ミニア県の **Barmasha** 村で、小規模に農業を営む夫と5人の子どものとともに暮らす女性 (メディハ 35 歳) は、夫の農作業を手伝う毎日である (コムギやメイズ、ゴマ、キュウリ、飼料用作物などへの肥料やりや除草、収穫など)。高校を卒業し、読み書きができることから、自宅を開放して、無償で近所の女性や子どもたちに対して識字教育も行ってきたが、もっと世帯の収入に自分も貢献したい

と、夫と相談のうえでプロジェクトへの参加を決めた¹⁰。プロジェクトによる一連の研修をすべて受講した後は、他の2名の女性たち¹¹と一緒にウサギの飼育を開始。チームの女性たちと一緒に毎日ウサギの世話をを行い、順調にその数を増やしてきたが、残念ながら、病気に罹らせて飼育したウサギのすべてを死なせてしまう。しかしながら、「プロジェクトによる一連の研修は村の女性たちの意識を大きく高め、活性化するものだった」とプロジェクト参加の意義を語った。一緒にウサギ飼育を行った2名の女性たちも、「毎日一緒に世話をするのが楽しかった。4匹のウサギを一度は10匹までに殖やし、私たちは4匹ずつを分け合った」「夫も私の事業を応援してくれて、私が出かけなくてはならないときは、代わって世話をしてくれた」「家族みんなで事業として成功させようと話をしていた」とプロジェクト活動が女性自身と家族の生活に大きな希望を与えるものであった旨を語った。

③ アシュート県の Bany More 村 (第2サイクル) の女性たちの声

Bany More 村で一連のプロジェクト活動に参加した10名の女性たちからは、「これまでこうした研修は受けたことがなかった」「市場のニーズを知って生産するというのは新しいコンセプトであり、私たちの意識を大きく変えた」といった声が次々と寄せられた。また、**Tetalia** 村でインタビューした15名の女性たちからも、「ビジネスダイアログに参加して、私はとても興奮した。この村の女性たちはこれまで“考える”ということを十分してこなかったが、プロジェクトに参加して、考えることが大事であることを学んだ。考えるようになった自分に興奮 (Excite) している」「プロジェクトは私たち女性の意識を変えた。この村では女性たちは家にいることが求められるし、私たちもそういうものだと思っていた。でも私たちにもいろいろな可能性があることがわかった」「ビジネスダイアログは本当に楽しいものだった。恥ずかしくて最初はあまり話ができなかったけれども、いろいろな情報が提供されていくなか、どんどん夢が膨らんだ。これまで女性にはビジネスはできないと思っていたけれど、女性にもできるんだと思った」「私たちがプロジェクトに参加して、男性たちの態度も変わった。私の夫も、以前は、女性は家にいるものだという考えをもっていたけれど、プロジェクトで活動する女性たちの姿を見て、今は何も言わない。私の活動にも大賛成してくれていて、研修でどこに出かけても反対しない」といった声が寄せられた。

¹⁰ 夫は自身の土地を所有していないため、プロジェクトには参加していない。

¹¹ ファイザ (35 歳、夫と3人の子持ち、非識字) とマブルカ (40 歳、夫と6人の子持ち、非識字)



2) 成果の要因

① 男女隔離規範に配慮した活動の推進（女性専用の説明会の実施や男女別研修の実施）

農村部の男女隔離の社会規範が根強い地域での支援に際して、プロジェクトでは、女性専用の説明会や研修を実施してきているが、こうした取り組みが、女性たちの参加に大きく貢献してきている。男女隔離規範に基づく社会的・文化的規範が根強く、女性と男性が混合で活動を行うことに対する躊躇や懸念が男性家族や女性たち自身のなかに存在する。こうした意識が意欲ある女性たちの社会・経済参加を実質的に阻んできたという社会背景のなか、本プロジェクトが、女性たちが安心して参加できる空間を提供しながら、注意深く支援を進めてきたことが、地域において女性活動に対する理解を高め、女性たちのプロジェクト活動への継続的な参加を大きく後押しするものであったと思われる。

② C/P の能力強化に向けた取り組み

プロジェクトでは、県レベルにおける C/P に対するジェンダー研修（ToT）を行うとともに、プロジェクトを実施する際に取り組みべき活動を整理した「ジェンダー主流化マニュアル」を作成している。ここでは、イラストなども多用しつつ、本プロジェクトにおいてジェンダー主流化を推進する意味や意義、市場志向型普及アプローチの推進のなかで実施していく必要のある具体的な取り組みを短くわかりやすい言葉で示してきている。C/P たちは、このマニュアルを活用しながら、ジェンダー・ワークショップを実施したり、女性専用のオリエンテーションや会合を開催してきているが、「プロジェクトによって女性たちも考えることの重要性を学びはじめている」（アシュート県 C/P 長）と、特に県の女性 C/P たちは女性支援活動に向けた意欲を高め、農村の女性たちを支援する取り組みに熱心に取り組んできた様子がうかがえた。こうした C/P たちの意識や行動が農村女性たちのプロジェクト参加や取り組みを大きく後押しするものであったと思われる。

③ 農村女性たちの高い支援ニーズ

プロジェクトの支援対象地域では、農村女性たちの経済活動の機会が大きく限られている。これまで外部からの支援がほぼ皆無であるとともに、女性の役割を家庭内に限定する社会規範によって、小規模農家や土地なし農家、日雇い労働者の妻たちの多くが、自らも世帯の収入に貢献したいという強い意欲をもちつつも、その社会・経済参加は大きく限られてきた。こうしたなか、社会的・文化的規範に配慮しつつ、女性たちの営農・活動領域において所得向上を支援しようとする本プロジェクトに対する女性たちの期待は非常に大きい様子がうかがえた。実際に、研修への参加率も男性と比べると高い¹²。

¹² 男性の研修参加継続率が 12～13%であるのに対し、女性の参加継続率は平均で 40%程度となっている。（山本専門家調査結果）



(3) 課題

これまでのプロジェクトにおける取り組みによって、女性たちの市場志向型に基づく営農活動や所得向上への意欲や意識が大きく高まってきている一方で、中間評価時点において、女性たちの「能力強化」や「所得の向上」という観点からの成果の発現までには至っていない。女性たちに対する支援活動は1サイクルを経験したばかりのところであり、時間的な制約もその要因となっている側面はあるものの、プロジェクトにおける女性たちの取り組みに対する活動の進め方にも一部課題がみられる。

1) ターゲティング

第2サイクルの対象農家の選定に際し、女性のための「10名枠」を設けた目的は、男性優位な社会の中で市場志向型アプローチを女性たちにも普及していくための戦略であり、まずは地域で女性たちによる優良事例（モデル）をつくっていくことにあったと思われる。しかしながら、現在は①「やる気があること」、②「家族の理解を得ていること」といった緩い基準に基づき、来る者を拒まない姿勢で広く「貧困女性支援活動」が進められてきている。対象女性の「やる気」を測る基準もあいまいであり、実質的には、ただ農協にアクセスがあり、声の大きい女性たちが選別されている様子も見受けられる¹³。こうしたなか、現在プロジェクトに参加する女性たちの多くは自家消費分の確保に向けた営農改善には積極的であるものの、特に市場志向型の営農を通じて世帯の収入向上を進めようという意識は低い者も多い。本プロジェクトにおける女性支援活動の目的や支援アプローチにかんがみて、ターゲット層をより絞り込む必要があったと思われる。

2) モニタリングとフォローアップ活動

プロジェクトでは、女性たちに対して、ビジネスダイアログや一連の技術研修を行った後は、女性たちにグループを組ませ、グループの希望と選択に基づいて選択されたマッシュルームの栽培や、ウサギやハトの飼育などの活動を行うための基本機材や獣医支援を提供するにとどまっている。プロジェクトは、モニタリングシートを作成のうえ、農協の女性職員（村のC/P）や獣医を通じたモニタリング活動を行ってきかっている¹⁴。しかしながら、農協の女性職員たちは、これまでに特にモニタリングや女性支援活動の実施に必要な研修を受けてきてはおらず、女性たちの活動を推進するための適切なファシリテーションを含め、実質的なモニタリング活動を行うまでには至っていない。

¹³ 実質的には、農協職員の声かけによって参集した、農家以外の女性たちも含まれている。

¹⁴ モニタリングシートには、①現在の栽培や飼育の状況（健康状態）、②農協職員が行った指導内容、③活動参加による女性たちの生活の変化、④プロジェクトへの提言、などを記述させる項目が設定されており、農協の女性職員がそれぞれの女性活動の参加者たちを訪問のうえ、記入したモニタリングシートを県のC/Pに送付することになっている。（山本専門家からの聞き取り）

また、現在支援を受けている女性たちには、プロジェクトとして、特にビジネスプランをつくる取り組みなどは求めてはきておらず、市場志向型で営農を行っているかどうかという観点からのモニタリングや、グループに対する生産やマーケティングに関する専門的な観点からのフォローアップ活動は十分に実施されてきていない¹⁵。例えば、男性支援活動の実施に際しては、男性グループによる圃場を活用して、プロジェクトによる技術研修やフォローアップ活動が実施されてきているものの、女性支援活動に際しては、そのような取り組みは実施されてきていない。

こうしたなか、女性たちのグループ活動や営農に向けた試みの多くが失敗してきている。女性たちからは、「グループで私の家にウサギ小屋を設置することを決めたが、その後だれも手伝ってはくれなかった。餌代を払わない人もいた。私一人でウサギを飼育した。それなのに、ウサギが増えた途端、もらいに来る人が多く現れた」「真夏にウサギを飼育し始めたが、暑さでウサギは死んでしまった」「間違っで葉の量を多く与えてしまっで死なせた」「マッシュルーム栽培は非常に手間がかかる仕事だった。私たちの家にはそもそも栽培する場所がなかった」といった声が聞かれた。

現在女性活動において実施されているマッシュルーム栽培やハトやウサギの飼育は、現場の女性たちのニーズや普及員の個人的な経験に基づいて選定されてきているものである。プロジェクトの実施に際して、現場の女性たちの声やニーズに丁寧に耳を傾けることは重要であるが、プロジェクトの実施においては、その目的にかんがみつつ、より厳しい選定基準や参加条件を課して対象女性を選定するとともに、技術的な観点からのリスク分析を含む事前調査や、女性たちの営農領域における作物や家禽を通じたビジネスプランづくりへの支援なども行うことが必要であったと思われる。そのうえで、支援対象数を絞って、より丁寧に女性たちの取り組みを支援・モニタリングし、市場志向型アプローチに基づく農村女性たちの取り組みのモデル（好事例）をまずはつくることに注力できればよかっただろう。

(4) 所感と提言

プロジェクトの運営と活動の実施全体を通じてジェンダー主流化に向けた努力を進めてきている本プロジェクトは、JICAにおけるジェンダー主流化に向けた優良事業の1つとして位置づけられるものである。女性への「情報提供」や「会合への参加の有無」をもって「ジェンダー主流化」をうたう案件が多いなか、本プロジェクトにおいては、試行錯誤を重ねながらも女性たちの真のエンパワーメントをめざす取り組みが進められている。

他方、男女隔離規範が根強い地域もあるなか、実質的には「男性用活動」と「女性用活動」を別個に実施しなくてはならない場合が多いこと、また、本プロジェクトでは設計時においてジェンダー視点からの分析が行われておらず、PDMにはジェンダー視点からの表現が明記されていないことを背景に、専門家や一部のC/Pの間にジェンダー主流化に向けた活動を行うことへの負担感や疲労感が増加している様子もうかがえる。

しかしながら、女性に対しても男性と同様に情報や技術を伝えていくこと、営農への参画力を強化していくことは、得られた収入のコントロール（統制・決定）はもちろん、女性は営農や生計にかかる意思決定にも参画する力を得るようになり、その結果として、世帯内の効率的

¹⁵ 例えばウサギを何匹育て、いつくらいまでにどれくらい繁殖できて、どのタイミングで売ればこれだけ高く売れる、というビジネスとしての家禽生産計画があり、それに基づいたモニタリングもなされる必要があった。（相川専門員）

な農家経営が促進され、世帯内の生産性・収益が向上する割合が高い¹⁶。またエジプトにおいても農業案件におけるジェンダー主流化が推進されてきている¹⁷。さらに、これまでの取り組みによって、プロジェクト対象地域における女性たちの営農改善に向けた意識は大きく高まるとともに、普及員を含め、男性側の意識にも変容がもたらされつつあるなど、その成果の芽は出つつある。プロジェクトとしては、長期的な展望を見失うことなく、プロジェクトの枠組みのなかで達成すべきジェンダー主流化の目標を再確認するとともに、活動の進め方を再検証して、支援規模や人数にとらわれず、たとえ規模は小さくとも、市場志向型に基づく営農に向けた女性の能力強化と所得の向上という結果の創出により注視した取り組みを進めていくことが望まれる。

具体的には、PDMを見直し、その指標をジェンダー視点に立って改定するとともに、まずはモデルづくりに向けて対象女性・対象地域を絞り込み、①女性の営農領域（ビジネスプランづくりの支援等を含む）における取り組みを支援する技術的な短期専門家の派遣や、②農業とジェンダーの専門的な知見をもつローカル・リソースの備上なども検討しながら、農協における女性人材の育成や能力強化、女性たちの組織化や営農における能力強化を進めていくことが重要であると思われる。意識ある男性と女性たちを対象に、家計管理研修を実施するなどの取り組みも男性の意識変革や女性の世帯における意思決定への参画強化に向けた取り組みとして有益だろう。また、ジェンダーの専門性をもつ専門家が「モデルづくり」に注力し、それらの好事例の発信や知見・教訓の取りまとめと共有、普及フローへの反映に向けた支援を行っていくことが望まれる。

男女隔離規範が残る地域における事業においてジェンダー主流化を進めていくためには、それなりの資源と労力が必要となる。プロジェクト対象地域における女性たちは、男性たちと比べて組織化の経験もなく、さらにこれまでに行政やドナーからの支援を受けた経験がない者も多い。こうしたなかで、ジェンダー主流化を通じた結果を出していくためには、一定度のリソースと労力をかけ、現場で女性たちに寄り添いながら支援を進めることが不可欠となる。JICAとしても、本プロジェクトでのジェンダー主流化の推進にあたっては、プロジェクト支援地域における現状や社会的背景にかんがみ、それなりのリソースをつけることを検討することが必要だろう。

5-3 団長所感

(1) SHEPアプローチの有効性とエジプト固有の状況への対応

今回の評価の結果としてまず共有したい点は、現場で極めて有効かつ波及性の高い事例が現時点で確認できたという点である。エジプトでも市場志向型のアプローチは有効に機能すると理解してよいと考える。そのうえでプロジェクトの課題としては、こうした変化がもたらされているのは積極的・継続的な参加をしている一部農民に限られているという点にあるだろう（第1サイクルで一連のトレーニングに継続的に参加した農家は2割未満）。

現地調査を通じて関係者から聞き取ったコメントを踏まえると、エジプトでの小農の意識と

¹⁶ The International Bank for Reconstruction and Development/The World Bank. 2009. "Gender in Agriculture Source Book", Agriculture and Rural Development

¹⁷ 農業における女性の役割に注視し、事業においては女性の参画を推進していくことを目的として、MALR内にジェンダー主流化推進ユニットが設置されている。

して、保守的で伝統的な農業を変えようとしないう点と、いざ近隣で目に見える有効な事例があれば、即座に取り入れるという点が同居しているということが特徴と思われる。

アシュートで確認した成功事例（Moshia 村）では、プロジェクトで導入したキュウリの出荷時期調整の収入増が確認された結果（1P/kg → 2～3P/kg）、導入2年後の現時点で同村内のプロジェクト外の農家の8割がこの技術を採用している（500名：数字は要検証）との報告があった。これは他国でのJICAプロジェクトと比較してもあまり例のない波及速度と思われる。

また、プロジェクトとは関係ない近隣農家における類似した例だが、モロヘイヤを伝統的に栽培する地域において、ある農家がトンネル栽培により出荷時期を調整する取り組みを始めると、成功を確認した近隣農家がこれを一斉に取り入れ、わずか数年で技術が広範に拡大したという事例も確認できた。このような特徴の背景として、地域の農業条件の均質性（平坦で起伏の少ない地形、灌漑整備率・農地整備率100%）と農村内及び農村・都市間の良好なアクセス（道路網整備、市場アクセスの容易さ）があるのではないかと感じている。

プロジェクト後半に向けた取り組みの大きな方向性としては、なかなか行動を変えないが、いったん成功事例を近隣で確認すると急速に広がるというこの地域の特徴をとらえたアプローチが必要だろうと感じている。具体的にはまず小さくても目に見える成功事例を1つでも増やし、その展示効果を通じた域内での拡大を図る。これを実現するためには先行グループとなる農家の選定プロセスの工夫とこれらグループへの集中的な支援がカギになると考える。この点プロジェクトが継続的に改良を加えてきた第3サイクルにおけるアプローチ（研修への参加状況を基準に積極的な農家を選定し、活動の核となる小グループをつくる）は妥当な方向性であると考えられる。また、同じく第3サイクルで取り組んでいる Trial farm（関心をもつ農家に種子を提供して小面積の展示圃を作ってもらおう）も展示効果を広げるうえで有効と考える。

(2) 持続性に関する検討

プロジェクトではこれまで、エジプト政府から約束どおりの予算が拠出されないことが、カイロのC/Pの現場への移動、普及員の現場での移動や研修講師の確保などを困難にし、プロジェクト実施における大きな阻害要因となってきた。

SHEPアプローチではインフラ整備やその他の投入を最小限に抑えていることから、他のプロジェクトと比べて予算が技術普及の制約要因になるリスクは低い。実際に今回訪問したなかでの成功した事例においては、プロジェクトに加わっていない近隣の農家がプロジェクトや政府からの技術的・財政的支援を受けずに広く技術を導入しているというケースが確認されている。

それでもなお、普及員が現場で活動するための移動費や研修講師招へいのためのコストなど、技術移転に必要な最低限のコストに対応できない限り、SHEPアプローチの継続的な実施、対象地域の拡大は見込めない。

今回の調査では対象となっているミア・アシュートのC/P、及び8件の対象農協での聞き取りを行った。その際の印象では、いったん現場まで下ろされた技術が対象村内の農家間で広がっていく可能性は比較的高いと思われる。一方でSHEPアプローチが県のC/Pから、全く経験のない他の郡・村に広がっていく可能性は、政府予算の限られた状況では難しいと判断せざるを得ない。

評価チームはMALRを訪問し、予算確保に向けた状況と今後プロジェクトが予算確保のため

に対応すべき内容を確認することができた。このことは一定の前進ではあるもの、今後とも必ずしも楽観できる状況ではない。

また、今回の協議を通じて MALR 本省が本プロジェクトのコンセプトや活動状況をほとんど理解していないことがうかがえた。中央政府が SHEP アプローチの有効性を評価し、予算の割り当てや既存の普及システムへの組み込みを検討するためにも、まずは現場で目に見える成果を出し、これをわかりやすい形で中央に伝えていくことが重要と考える。

(3) 女性活動

女性活動については今回多くを確認することはできなかったものの、強い隔離規範がある状況の下、専門家・C/P が工夫を重ねながら取り組み、変化の兆しがみえる地域も出ている状況と認識している。同時に日本・エジプト国側双方とも投入が少ないなかで活動が負担となり、疲れが出ている様子もみられた。

これまでの女性活動のなかで「商業的な生産と自給的な生産」「組織的な活動の有無」という点で SHEP のめざす市場志向型のアプローチとの整合性をどう取るのかという課題があったと思うが、女性活動の報告を確認した結果、上エジプトの状況に合わせた漸進的なアプローチを取ることによって SHEP の枠組みのなかで意味のある女性活動に取り組むことは可能だろうと感じている。ただ難しい環境であることは間違いないので設定する目標や必要とする時間など現実的な設定が必要と考える。

自給的な生産支援が SHEP と整合するのかという点については、基本的に他の作物生産においても、農家の市場志向型の生産への切り替えは、まず自給が確保され、余剰生産が発生するようになってから始まるという点を認識する必要があるのではないかと考える。本プロジェクトにおける取り組みでも「自給」と「商業的な生産」を別のアプローチととらえるのではなく、まず自給が確保され、その先に商業的な生産があるという位置づけで段階的なビジネスプランを検討してみよう。

女性の組織的な活動についてはおそらくプロジェクトのなかで最も困難な課題の 1 つであると思われる。短期間での解決は難しいと思われることから、まず活動は各家庭で取り組みつつ「経験・情報の共有」を当面の目標として取り組むことが現実的ではないかと考える。

また、プロジェクトの成果が他の農家や地域に波及し得る、という点は技術協力プロジェクトにおいては不可欠の要素であることから、対象地域・対象農家を選定する際には「情報共有の可能性」「政府からの技術サービスの提供の可能性」を精査し、この点が弱い対象については活動を広げない判断も必要と思われる。

付 属 資 料

1. 中間レビュー調査日程
2. PDM (version 1) (英文)
3. 活動計画表 (Plan of Operations) (英文)
4. 評価グリッド
5. 日本人専門家配置
6. エジプト C/P 本邦研修実績
7. 供与機材リスト
8. ローカルコスト支援
9. エジプト C/P リスト
10. 研修教材リスト
11. PDM1 (version 1) から PDM (version 2) への主な変更点
12. PDM 改訂案 (version 2)
13. 面談録
14. 質問票

1. 中間レビュー調査日程

付属資料 1 : ISMAP中間レビュー調査日程

No.	日付	曜日	場所	東野 (評価分析)	仲田(総括) 小河(協力企画) 久保田(ジェンダー)	相川 (市場志向型農業)	エジプト側 レビューチーム (1)Ms. Manal Zein El-Abdeen (2)Mr. Ahmad Salah Ibrahim	移動手段	宿泊地	
1	1月6日	金		日本発						
2	1月7日	土	カイロ	11:45 カイロ着				車両	カイロ	
3	1月8日	日	カイロ	【JICA エジプト事務所】 09:30 JICAエジプト事務所にて協議 10:00 安全管理ブリーフィング 10:30 日本人専門家と協議				車両	カイロ	
4	1月9日	月	カイロ	【MALR (農業土地開拓省)】 09:00 国際農業関係局 スーパーバイザーと面談 午後:アシュートへ移動				列車	アシュート	
5	1月10日	火	アシュート	現場視察 (1) アシュート県農業事務所 (2) Abnoub 郡事務所 / Abnoub 村 (3) Manflood 郡事務所 / Manflood村				車両	アシュート	
6	1月11日	水	ミア	午前:現場視察 (1) Dyrout 郡普及センター/ Sanabo 村 (2) El Kosya郡事務所/ Tetalia 村 午後:ミアへ移動				車両	ミア	
7	1月12日	木	ミア	現場視察: (1) ミニア県農業事務所 (2) Abo Korkus 郡事務所 / El Balad 村 (3) Mallawe郡普及センター / Manshet El Maghalka村				車両	ミア	
8	1月13日	金	カイロ	午前:カイロへ移動 午後:資料整理	日本発			列車	カイロ	
9	1月14日	土	カイロ	資料整理	10:25 カイロ着	南アフリカ発		車両	カイロ	
10	1月15日	日	カイロ	【JICAエジプト事務所表敬】 09:30 エジプト事務所 【MALR】 11:00 合同レビューミーティング (1st) *中間レビューについて説明(プロジェクトマネジャー、カイロC/Pチーム、国際農業関係 局、エジプトレビューチーム他)		05:35 カイロ着	(1) & (2)	車両	カイロ	
11	1月16日	月	ミア	午前:ミアへ移動 (El Edwa郡) 午後:現場視察 (1) El Edwa郡事務所 / Barmasha村 (2) Beni Mazar 郡Gendaya村			Only (1)	車両	ミア	
12	1月17日	火	ミア	現場視察 (1) ミニア県農業事務所 (2) Dayr Muas郡事務所 / Manshet Semhan村 アシュートへ移動			Only (1)	車両	アシュート	
13	1月18日	水	アシュート	現場視察: (1) アシュート県農業事務所 (2) El Sadfa 郡/Awlad Elial村/ (2) El Baldary郡El Nawawra村(女性活動)			Only (1)	車両	アシュート	
14	1月19日	木	アシュート	現場視察: (1) El Fath郡事務所/ Bany More 村 (2) El Koosya郡Tetalia 村			Only (1)	車両	アシュート	
15	1月20日	金	カイロ	午前:カイロへ移動 午後:報告書作成 (合同中間レビュー報告書英文ドラフト) / 団内会議		18:55 久保田 カイロ発	23:00 カイロ発	Only (1)	車両	カイロ
16	1月21日	土	カイロ	報告書作成 (合同中間レビュー報告書英文ドラフト) / 団内会議		日本着	南アフリカ着	-	カイロ	
17	1月22日	日	カイロ	日本人専門家と協議				車両	カイロ	
18	1月23日	月	カイロ	10:00 合同レビューミーティング (2nd) * 合同中間レビュー報告書についてのコメント				(1) & (2)	車両	カイロ
19	1月24日	火	カイロ	10:30 * MALRにて新プロジェクト・ダイレクターに表敬、中間レビュー結果の 説明 合同中間レビュー報告書作成(団内会議)				(1) & (2)	車両	カイロ
20	1月25日	水	カイロ	合同中間レビュー報告書作成(団内会議)				-	カイロ	
21	1月26日	木	カイロ	1.JSC開催 * 中間レビュー結果プレゼン/合同レビュー報告書調印 2.JICAエジプト事務所報告		18:55 仲田 カイロ発		(1) & (2)	車両	カイロ
22	1月27日	金		19:00 カイロ発	18:55 小河 カイロ 発	日本着		車両		
23	1月28日	土		日本着(東野、小河)						

付属資料 2 プロジェクト・デザイン・マトリックス Project Design Matrix (PDM1)

Project Title: Improving Small-Scale Farmers' Market-Oriented Agriculture Project

Project Duration: 2014-2019 (5 years)

Project Sites: Minia, Assuit Governorate

Target Group: Small-scale farmers in the target agricultural cooperatives and surrounding small-scale farmers

as of June 20, 2015

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption
[Overall Goal] Agricultural incomes of the small-scale farmers in Minia and Assiut Governorates are increased	a. The average agricultural income of the small-scale farmers, which cultivate the target agricultural products by the Project, is increased by 13% (Detail is attached as PDM1-(2) and (3))	a. Statistics materials b. Sample survey (included by the baseline surveys)	
[Project Purpose] Agricultural incomes of the target small-scale farmers and surrounding small-scale farmers in the project are increased.	a. The agricultural incomes of the target small-scale farmers in the Project are increased by 40% - 100% by target crop and village, and 6% - 22% by household and village (detail is attached herewith) (Detail is attached as PDM1-(1), (2) and (3))	a. Baseline surveys* ¹ b. End-line survey	- Necessary budget of MALR for implementing extension activities based on the market-oriented approach is secured.
[Outputs] 1. Market-oriented extension approach is established.	a. The draft plan of extension flow based on the market-oriented approach is formulated. b. The average score of evaluation on formulation and revision process of the plan of extension flow is higher than 4 in the five-grade evaluation by the relevant stakeholders. c. The extension flow based on the market-oriented approach, which is revised through implementing project activities, is approved by the Joint Steering Committee (JSC).	a. Draft of extension flow based on the market-oriented approach b. Interview with the relevant stakeholders c. Approved extension flow based on the market-oriented approach	- Counterpart personnel (C/P) who received trainings by the Project will continuously work.
2. Agricultural techniques for value-added products are examined and developed.	a. Guidelines and manuals on the examined and developed agricultural techniques are made. b. More than 70% of the examined and developed agricultural techniques are included to the Training of Trainers for extension staff.	a. Guidelines and manuals of agricultural techniques b. Training materials of ToT	
3. Capacities for making and implementing action plans of the agricultural cooperatives are strengthened.	a. Action plans for improving agricultural incomes of small-scale farmers are made by the target agricultural cooperatives. b. More than 70% of activities based on the action plans are implemented.	a. Action plans of the target agricultural cooperatives b. Project progress report	
4. Farming methods based on the market-oriented approach are deployed within the target agriculture cooperatives and in districts.	a. Extension plans for deploying farming methods by the target agricultural cooperatives b. Existence of new farming activities based on the market-oriented approach within the target agricultural cooperatives. c. Extension plans for deploying farming methods by district agricultural office d. Existence of new farming activities based on the market-oriented approach in districts.	a. Project progress report b. End-line survey	

Activities	Input		
<p><Output 1></p> <p>1-1 Build the consensus of the draft plan of extension flow*2 based on the market-oriented approach between stakeholders</p> <p>1-2 Select target agricultural cooperatives and small-scale farmers based on the consensus of selection method</p> <p>1-3 Conduct baseline survey of the target agriculture cooperatives and small-scale farmers</p> <p>1-4 Provide the opportunities for dialogue between the target small-scale farmers and agricultural business stakeholders</p> <p>1-5 Conduct trainings for the target small-scale farmers on market survey and farming action planning</p> <p>1-6 Facilitate the target small-scale farmers to make farming action plans</p> <p>1-7 Conduct trainings of trainers (ToT) for extension staff*3 regarding the necessary agricultural techniques for implementing the action plans in 1-6</p> <p>1-8 Facilitate the trained extension staff to implement technical trainings for the target small-scale farmers</p> <p>1-9 Monitor activities based on the action plans by the trained target small-scale farmers</p> <p>1-10 Improve the extension flow based on the market-oriented approach by examining the each activity</p> <p><Output 2></p> <p>2-1 Identify agricultural techniques*4 need to be examined and developed based on the study of IMAP*5 and the action plans made by the target small-scale farmers</p> <p>2-2 Examine and develop the techniques identified in 2-1</p> <p>2-3 Feed examined and developed techniques back to the ToT in 1-7</p> <p>2-4 Improve existing agricultural techniques, which are confirmed necessary through implementing the extension flow</p> <p><Output 3></p> <p>3-1 Identify problems/opportunities of the target agricultural cooperatives for making and implementing action plans</p> <p>3-2 Conduct trainings for the target agricultural cooperatives members on making and implementing action plans for improving small-scale farmers' incomes</p> <p>3-3 Facilitate village extension staff to support the target agriculture cooperatives for implementing the action plans made in 3-2.</p> <p><Output 4></p> <p>4-1 Facilitate the target agricultural cooperatives to make extension plans for deploying farming methods based on the market-oriented approach to other farmers within the agriculture cooperatives.</p> <p>4-2 Monitor the target agricultural cooperatives to implement the above plans.</p> <p>4-3 Facilitate the district agricultural offices to make extension plans for deploying farming methods based on the market-oriented approach to other agricultural cooperatives in the districts.</p> <p>4-4 Monitor the district agricultural office to implement the above plans.</p> <p>4-5 Facilitate the target agricultural directorates to make extension plans for deploy farming methods based on the market-oriented approach.</p>	<p>【Japanese side】</p> <p>(1) Dispatch of Experts - Leader/Market-oriented agriculture - Appropriate agriculture techniques and extension - Agricultural cooperative</p> <p>- Project coordinator/Training management - Other short-term experts as per necessity</p> <p>(2) Provision of equipment (Ex. Equipment and materials necessary for Output 2 and 3)</p> <p>(3) C/P Training in Japan and/or third country</p> <p>(4) Local cost shared by Japanese side - A part of operational costs for implementing the activities (Ex. Costs for experts' activities)</p>	<p>【Egyptian side】</p> <p>(1) C/P Project Director Project Manager Other counterparts</p> <p>(2) Office space and facilities for the Project - Necessary working space and facilities for JICA experts</p> <p>(3) Necessary Arrangement - Acquisition of the permission for the work in the field</p> <p>(4) Local cost shared by Egyptian side - Operational cost for the Project implementation (Ex. Training cost, personnel expenses and traveling cost for C/Ps)</p>	<p>- Personnel transfer of executive management will not affect the implementation of the Project.</p> <p>[Pre-condition]</p> <p>The Egyptian political situation is stable.</p>

(Notes: PDM-0 including the indicators and PO-0 are reviewed and revised in the first JSC, if necessary.)

*1) Scope of the baseline survey is focused on the target agricultural cooperatives and small-scale farmers selected by the Project. Farmer's survey of the baseline survey is recommended to refer to a sample of the crop production and income analysis data sheet used in other JICA projects.

*2) The draft plan of extension flow includes process of extension, roles and responsibilities of relevant organizations, and so on.

*3) In principal, target extension staffs for the ToT are extension staffs at village and district levels, and other target participants will be selected in the Project, according to the situation of each governorate.

*4) The techniques tentatively include improving cultivation techniques, for example, adjusting cropping season, improving pattern, new varieties, intercropping and using organic fertilizer, improving postharvest.

*5) The Project for the Master Plan Study for Rural Development Through Improving Marketing Agricultural Produce for Small Scale Farmers in Upper Egypt (IMAP)

付属资料2-2 PDM1-(1) Indicator Setting: Income increase by Crop (Updated 20th June 2015)

Abnoub Village, Abnoub District, Assiut Governorate

Crop	Baseline Survey					Target							
	Present Yield (t/fed)	Present Price (LE/kg)	Gross Income (LE/fed)	Cost (LE/fed)	Net Income (LE/fed)	Yield (t/fed)		Price (LE/kg)		Gross Income (LE/fed)	Cost (LE/fed)	Net Income (LE/fed)	% increase
						Potential	Target	Potential	Target				
Soybean	1.438	3.1	4,458	1,921	2,537	2.5	1.8	3.6	3.6	6,480	1,921	4,559	80%
Cucumber	4.0	1.5	6,000	2,800	3,200	6.0	5.0	2.0	1.5	7,500	2,800	4,700	47%
Basil	5.0	2.0	10,000	5,000	5,000	6.0	5.5	3.0	2.5	13,750	5,000	8,750	75%
Average												6,003	

Mosha Village, Assiut District, Assiut Governorate

Crop	Baseline Survey					Target							
	Present Yield (t/fed)	Present Price (LE/kg)	Gross Income (LE/fed)	Cost (LE/fed)	Net Income (LE/fed)	Yield (t/fed)		Price (LE/kg)		Gross Income (LE/fed)	Cost (LE/fed)	Net Income (LE/fed)	% increase
						Potential	Target	Potential	Target				
Soybean	1.438	3.1	4,458	1,921	2,537	2.5	1.8	3.6	3.2	5,760	1,921	3,839	51%
Tomato	12.286	0.8	9,829	4,167	5,662	25.0	12.5	1.5	1.0	12,500	4,167	8,333	47%
Cucumber	4.0	1.5	6,000	2,800	3,200	6.0	5.0	2.0	1.55	7,750	2,800	4,950	55%
Average												5,707	

Sanabo Village, Dyrout District, Assiut Governorate

Crop	Baseline Survey					Target							
	Present Yield (t/fed)	Present Price (LE/kg)	Gross Income (LE/fed)	Cost (LE/fed)	Net Income (LE/fed)	Yield (t/fed)		Price (LE/kg)		Gross Income (LE/fed)	Cost (LE/fed)	Net Income (LE/fed)	% increase
						Potential	Target	Potential	Target				
Soybean	1.438	3.1	4,458	1,921	2,537	2.5	2.0	3.6	3.5	7,000	1,921	5,079	100%
Cucumber	4.0	1.5	6,000	2,800	3,200	6.0	5.0	2.0	1.7	8,500	2,800	5,700	78%
Cabbage (Unit/fed)	3,535	3.2	11,312	5,493	5,819	5,000	4,200	4.0	3.25	13,650	5,493	8,157	40%
Average												6,312	

Manshut Semhan Village, Dayr Mawas District, Minya Governorate

Crop	Baseline Survey					Target							
	Present Yield (t/fed)	Present Price (LE/kg)	Gross Income (LE/fed)	Cost (LE/fed)	Net Income (LE/fed)	Yield (t/fed)		Price (LE/kg)		Gross Income (LE/fed)	Cost (LE/fed)	Net Income (LE/fed)	% increase
						Potential	Target	Potential	Target				
Soybean	1.438	3.1	4,458	1,921	2,537	2.0	1.8	4.0	3.5	6,125	1,921	4,204	66%
Tomato	12.286	0.8	9,829	4,167	5,662	25.0	14.0	2.0	1.1	14,700	4,167	10,533	86%
Cabbage (Unit/fed)	3,535	3.2	11,312	5,493	5,819	6,000	4,100	5.0	3.8	15,580	5,114	10,466	80%
Cantalope	9.091	0.8	7,273	3,000	4,273	15.0	11.0	1.3	1.0	11,000	3,000	8,000	87%
Average												8,301	

Manshat el-Maghalka village, Malawi District, Minya Governorate

Crop	Baseline Survey					Target							
	Present Yield (t/fed)	Present Price (LE/kg)	Gross Income (LE/fed)	Cost (LE/fed)	Net Income (LE/fed)	Yield (t/fed)		Price (LE/kg)		Gross Income (LE/fed)	Cost (LE/fed)	Net Income (LE/fed)	% increase
						Potential	Target	Potential	Target				
Soybean	1.4	3.1	4,458	1,921	2,537	2.0	2.0	4.2	3.3	6,667	1,921	4,746	87%
Tomato	12.286	0.8	9,829	4,167	5,662	30.0	14.0	3.0	1.1	14,700	4,167	10,533	86%
Eggplant	8.3	0.6	5,000	2,000	3,000	10.0	9.0	0.8	0.8	7,200	2,000	5,200	73%
Cabbage (Unit/fed)	3535	3.2	11,312	5,493	5,819	5,000	4,100	5.0	3.8	15,580	5,114	10,466	80%
Sesame	0.57	12.3	7,011	1,300	5,711	0.8	0.8	12.0	12.0	10,080	1,300	8,780	54%
Cantalope	9	0.8	7,273	3,000	4,273	13.0	10.0	1.5	1.0	10,000	3,000	7,000	64%
Average												7,787	

Abo Korkas el-Balud Village, Abo Korkas District, Minya Governorate

Crop	Baseline Survey					Target							
	Present Yield (t/fed)	Present Price (LE/kg)	Gross Income (LE/fed)	Cost (LE/fed)	Net Income (LE/fed)	Yield (t/fed)		Price (LE/kg)		Gross Income (LE/fed)	Cost (LE/fed)	Net Income (LE/fed)	% increase
						Potential	Target	Potential	Target				
Soybean	1.438	3.1	4,458	1,921	2,537	2.0	2.0	3.6	3.4	6,800	1,921	4,879	92%
Tomato	12.286	0.8	9,829	4,167	5,662	25.0	14.0	3.0	1.05	14,700	4,167	10,533	86%
Sesame	0.57	12.3	7,011	1,300	5,711	0.60	0.60	20.0	15.0	9,000	1,300	7,700	35%
Cantalope	9.091	0.8	7,273	3,000	4,273	10.0	9.1	1.5	1.0	9,091	3,000	6,091	43%
Average												7,301	

付属資料 2-3 PDM1-(2) Indicator setting: Farm Income (Minia) (Updated 20th June 2015)

Manshet Semhan Village, Dyre Muas District, Minia Governorate

Crop	Baseline Survey						
	Cultivated Area (fed)	Present Yield (t/fed)	Present Price (LE/kg)	Gross Income (LE)	Cost (LE/fed)	Total Cost (LE)	Net Income (LE)
wheat	0.55	2.452	2.7	3,641	2,746	1,510	2,131
sugar cane	0.76	29.583	0.5	11,242	7,311	5,556	5,685
soybean	0.15	1.500	3.0	675	942	141	534
sesame	0.03	0.48	11.67	168	2,700	81	87
potato	0.05	10.000	1.5	750	4,500	225	525
maize	0.16	2.271	2.1	763	2,705	433	330
cabbage (unit)	0.05	2,169	3.6	390	5,415	271	120
berseem	0.12	15.833	0.5	855	2,533	304	551
Total	1.87						9,963

Target income increase per household

Crop	Target Income Increase per Household						
	Cultivated Area (fed)	Present Yield (t/fed)	Present Price (LE/kg)	Gross Income (LE)	Cost (LE/fed)	Total Cost (LE)	Net Income (LE)
wheat	0.55	2.452	2.7	3,641	2,746	1,510	2,131
sugar cane	0.76	29.583	0.5	11,242	7,311	5,556	5,685
potato	0.05	10.000	1.5	750	4,500	225	525
maize	0.16	2.271	2.1	763	2,705	433	330
berseem	0.12	15.833	0.5	855	2,533	304	551
target Crops	0.23						1,909
Total	1.87						11,131

(Average income of the target crops: 8,301 LE/fed: 8,301LE x 0.23 feddan = 1,909LE)

Assumption: Less profitable summer crops are converted to selected crops

(11,131-9,963)/9,963 =

12%

Manshet El Maghalka Village, Mallawe District, Minia Governorate

Crop	Baseline Survey						
	Cultivated Area (fed)	Present Yield (t/fed)	Present Price (LE/kg)	Gross Income (LE)	Cost (LE/fed)	Total Cost (LE)	Net Income (LE)
wheat	1.14	2.485	2.8	7,932	2,088	2,380	5,552
tomato	0.11	10.75	0.8	946	3,800	418	528
Sugarcane	0.78	16.393	0.3	3,836	1,880	1,466	2,370
Sugarbeet	0.55	19.081	0.3	3,148	2,648	1,456	1,692
Sesame	0.08	0.600	12.5	600	833	67	533
Onion	0.08	11.692	1.5	1,403	14,737	1,179	224
melon	0.29	9.091	0.8	2,109	3,364	976	1,134
maize	0.6	1.908	1.8	2,061	1,492	895	1,165
garlic	0.01	6.000	3.0	180	13,400	134	46
eggplant	0.09	8.333	0.6	450	2,000	180	270
cabbage (unit)	0.01	3,448	1.0	34	2,207	22	12
berseem	0.36	43.333	0.1	1,560	1,018	366	1,194
Total	4.1						14,720

Target income increase per household

Crop	Target Income Increase per Household						
	Cultivated Area (fed)	Present Yield (t/fed)	Present Price (LE/kg)	Gross Income (LE)	Cost (LE/fed)	Total Cost (LE)	Net Income (LE)
wheat	1.14	2.485	2.8	7,932	2,088	2,380	5,552
tomato	0.11	10.75	0.8	946	3,800	418	528
Sugarcane	0.78	16.393	0.3	3,836	1,880	1,466	2,370
Sugarbeet	0.55	19.081	0.3	3,148	2,648	1,456	1,692
Onion	0.08	11.692	1.5	1,403	14,737	1,179	224
maize	0.6	1.908	1.8	2,061	1,492	895	1,165
garlic	0.01	6.000	3.0	180	13,400	134	46
berseem	0.36	43.333	0.1	1,560	1,018	366	1,194
target Crops	0.47						3,660
Total	4.1						16,430

(Average income of the target crops: 7,787LE/fed: 7,787 x 0.47 feddan = 3,660LE)

Assumption: Less profitable summer crops are converted to selected crops

(16,430-14,720)/14,720 =

12%

El Balad Village, Abo Korkus District, Minia Governorate

Crop	Baseline Survey						
	Cultivated Area (fed)	Present Yield (t/fed)	Present Price (LE/kg)	Gross Income (LE)	Cost (LE/fed)	Total Cost (LE)	Net Income (LE)
wheat	1.24	2.321	2.7	7,771	3,710	4,600	3,170
sugar beet	0.18	54	0.3	2,916	6,000	1,080	1,836
soybean	0.44	1.347	3.5	2,074	2,900	1,276	798
sorghum	0.06	1.772	0.0	0	0	0	0
potato	0.39	5.818	1.4	3,177	6,545	2,553	624
maize	0.5	1.785	1.4	1,250	3,439	1,720	-470
carrot	0.19	18.889	0.6	2,153	3,398	646	1,508
berseem	0.02		0.0	0	0	0	0
Total	3.02						7,466

Target income increase per household

Crop	Target Income Increase per Household						
	Cultivated Area (fed)	Present Yield (t/fed)	Present Price (LE/kg)	Gross Income (LE)	Cost (LE/fed)	Total Cost (LE)	Net Income (LE)
wheat	1.24	2.321	2.7	7,771	3,710	4,600	3,170
sugar beet	0.18	54	0.3	2,916	6,000	1,080	1,836
potato	0.39	5.818	1.4	3,177	6,545	2,553	624
maize	0.5	1.785	1.4	1,250	3,439	1,720	-470
carrot	0.19	18.889	0.6	2,153	3,398	646	1,508
berseem	0.02		0.0	0	0	0	0
Selected Crops	0.5						2,440
Total	3.02						9,108

(Average income of the target crop (soybean): 4,879 LE/fed: 4,879 x 0.5 = 2,440LE)

Assumption: Less profitable summer crops are converted to selected crop (soybean)

(9,108-7,466)/7,466 =

22%

付属資料 2-4 PDM1-(3) Indicator setting : Farm Income (Assiut) Updated 20th June 2015)

Abnoub Village, Abnoub District, Assiut Governorate

Crop	Baseline Survey						
	Cultivated Area (fed)	Present Yield (t/fed)	Present Price (LE/kg)	Gross Income (LE)	Cost (LE/fed)	Total Cost (LE)	Net Income (LE)
wheat	1.26	2.445	2.8	8,626	2,972	3,745	4,881
sorghum	0.86	1.632	2.2	3,088	2,096	1,803	1,285
onion	0.04	10.667	0.9	384	5,513	221	163
maize	0.33	1.534	2.0	1,012	2,955	975	37
cotton	0.11	1.580	5.4	939	7,034	774	165
berseem	0.43			0	2,632	1,132	-1,132
Total	3.03						5,400

Target income increase per household

Crop	Target Income Increase per Household						
	Cultivated Area (fed)	Present Yield (t/fed)	Present Price (LE/kg)	Gross Income (LE)	Cost (LE/fed)	Total Cost (LE)	Net Income (LE)
wheat	1.26	2.445	2.8	8,626	2,972	3,745	4,881
sorghum	0.86	1.632	2.2	3,088	2,096	1,803	1,285
onion	0.04	10.667	0.9	384	5,513	221	163
maize	0.33	1.534	2.0	1,012	2,955	975	37
berseem	0.43			0	2,632	1,132	-1,132
target crops	0.11						660
Total	3.03						5,895

(Average income of the target crops: 6,003 LE/fed: 6,003 x 0.11 feddan =660LE)

Assumption: Less profitable summer crops are converted to target crops

(5,895-5,400)/5,400 =

9%

Mosha Village, Assiut District, Assiut Governorate

Crop	Baseline Survey						
	Cultivated Area (fed)	Present Yield (t/fed)	Present Price (LE/kg)	Gross Income (LE)	Cost (LE/fed)	Total Cost (LE)	Net Income (LE)
wheat	1.27	2.460	2.8	8,748	3,116	3,957	4,790
sorghum	0.81	1.998	2.0	3,237	2,569	2,081	1,156
onion	0.04	16.000	1.0	640	8,200	328	312
maize	0.46	2.289	2.1	2,211	3,865	1,778	433
green fodder	0.03	0.000		0	0	0	0
cumin	0.06	0.400	27.5	660	4,000	240	420
cotton	0.04	1.263	5.7	288	3,567	143	145
chick peas	0.05	0.750	6.7	251	2,260	113	138
cauliflower (unit)	0.01	4,800	1.5	72	3,300	33	39
cabbage (unit)	0.01	6,000	3.0	180	7,400	74	106
berseem (kirat)	0.46	24	80.0	883	2,722	1,252	-369
Total	3.24						7,171

Target income increase per household

Crop	Target Income Increase per Household						
	Cultivated Area (fed)	Present Yield (t/fed)	Present Price (LE/kg)	Gross Income (LE)	Cost (LE/fed)	Total Cost (LE)	Net Income (LE)
wheat	1.27	2.460	2.8	8,748	3,116	3,957	4,790
sorghum	0.81	1.998	2.0	3,237	2,569	2,081	1,156
onion	0.04	16.000	1.0	640	8,200	328	312
maize	0.46	2.289	2.1	2,211	3,865	1,778	433
cumin	0.06	0.400	27.5	660	4,000	240	420
cabbage (unit)	0.01	6,000	3.0	180	7,400	74	106
berseem (kirat)	0.46	24	80.0	883	2,722	1,252	-369
target crop	0.13						742
Total	3.24						7,591

(Average income of the target crops: 5,707 LE/fed: 5,707LE x 0.13 feddan = 742LE)

Assumption: Less profitable summer crops are converted to target crops

(7,591-7,171)/7,171 =

6%

Sanabo Village, Dyrout District, Assiut Governorate

Crop	Baseline Survey						
	Cultivated Area (fed)	Present Yield (t/fed)	Present Price (LE/kg)	Gross Income (LE)	Cost (LE/fed)	Total Cost (LE)	Net Income (LE)
wheat	1.2	2.245	2.8	7,543	2,259	2,711	4,832
sugar beet	0.3	32.486	0.3	2,924	5,370	1,611	1,313
sorghum	0.06	2.067	1.9	236	3,370	202	33
maize	1.18	1.849	1.8	3,927	2,332	2,752	1,176
berseem	0.27			0	1,634	441	-441
Total	3.01						6,913

Target

Crop	Target						
	Cultivated Area (fed)	Present Yield (t/fed)	Present Price (LE/kg)	Gross Income (LE)	Cost (LE/fed)	Total Cost (LE)	Net Income (LE)
wheat	1.2	2.245	2.8	7,543	2,259	2,711	4,832
sugar beet	0.3	32.486	0.3	2,924	5,370	1,611	1,313
sorghum	0.06	2.067	1.9	236	3,370	202	33
maize	0.94	1.849	1.8	3,129	2,332	2,192	936
berseem	0.27			0	1,634	441	-441
selected crops	0.24						1,515
Total	3.01						8,189

(Average income of the target crops: 6,312 LE/fed: 6,312 x 0.24 feddan = 1,515LE)

Assumption: 20% of maize is converted to selected crops

(8,189-6,913)/6,913 =

18%

付属資料3 活動計画表 (Tentative Plan of Operation)

Project Name : Improving Small-Scale Farmers' Market-Oriented Agriculture Project
 Duration : 2014-2019 (5 years) Target sites: Minna, Assuit Governorate
 Target Group: Small-scale farmers in the target agricultural cooperatives and surrounding small-scale farmers

as of November 26, 2012

Activities	2014				2015				2016				2017				2018				2019															
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
Output 1. Market-oriented extension approach is established.																																				
1.1 Build the consensus of the draft plan of extension flow based on the market-oriented approach between stakeholders <i>Actual:</i>	■																																			
1.2 Select target agricultural cooperatives and small-scale farmers based on the consensus of selection method <i>Actual:</i>	■				■				■				■																							
1.3 Conduct baseline survey of the target agriculture cooperatives and small-scale farmers <i>Actual:</i>	■				■				■				■																							
1.4 Provide the opportunities for dialogue between the target small-scale farmers and agricultural business stakeholders <i>Actual:</i>	■				■				■				■																							
1.5 Conduct trainings for the target small-scale farmers on market survey and farming action planning <i>Actual:</i>	■				■				■				■																							
1.6 Facilitate the target small-scale farmers to make farming action plans <i>Actual:</i>	■				■				■				■																							
1.7 Conduct trainings of trainers (1st) for extension staff regarding the necessary agricultural techniques for implementing the action plans in 1-6. <i>Actual:</i>	■				■				■				■				■																			
1.8 Facilitate the trained extension staff to implement technical trainings for the target small-scale farmers*1 <i>Actual:</i>	■																																			
1.9 Monitor activities based on the action plans by the trained target small-scale farmers*1 <i>Actual:</i>	■																																			
1.10 Improve the extension flow based on the market-oriented approach by examining the each activity <i>Actual:</i>	■																																			
Output 2. Agricultural techniques for value-added products are examined and developed.																																				
2.1 identify agricultural techniques*4 need to be examined and developed based on the study of IMAP and the action plans made by the target small-scale farmers <i>Actual:</i>	■																																			
2.2 Examine and develop the techniques identified in 2-1 <i>Actual:</i>	■																																			
2.3 Feed examined and developed techniques back to the ToT in 1-7	■				■				■				■				■																			

付属資料4 ISMAP評価グリッド（1）プロジェクトの達成状況の確認

検証内容	評価調査項目		判断方法	必要データ	データソース	データ収集方法
	大項目	小項目				
プロジェクト活動の進捗と実施過程	プロジェクト活動は予定どおり進捗しているか？	* 活動に遅れがあった場合、原因は何か？ * 活動と実施計画（PDM・PO）に変更はあったか？	活動計画表と実績の比較	-実際の活動計画と実績 -活動と計画変更にかかわる情報	-プロジェクト報告書 -エジプト側関係者〔農業土地開拓省（MALR）、農業サービス・フォローアップ局（ASFS）、農業普及局（AES）、ミニア県及びアシュート県農業局及び対象農協等〕 -日本人専門家	-文献調査 -インタビュー
		* プロジェクト活動は適切にモニタリングされてきたか？ * 意思決定のメカニズムは機能していたか？ * 関係者間の情報共有はなされていたか？	モニタリングの方法/頻度/結果のフィードバックの状況が適切か？ 問題の有無/対応の方法/対応の過程 情報の共有に関する状況の確認	モニタリングについて左記にかかわる情報 JSC や他の意思決定メカニズムに関する情報 情報共有の方法(定例会議その他の会議の開催状況、報告書配付、日常のコミュニケーションの状況等確認)	- 同上	-文献調査 -インタビュー -質問票
	実施機関のプロジェクトへの理解と業務遂行状況	* 実施機関はプロジェクトの目的/意義/実施アプローチ等を理解しているか？ * C/Pはプロジェクトに主体的に参加しているか？		理解の度合 参加の度合/意欲	- 同上	-インタビュー
		ターゲットグループ/受益者によるプロジェクトの認識 * ターゲットグループ/受益者のプロジェクト活動の認識 * ターゲットグループ/受益者のプロジェクト活動への主体的な参加	ターゲットグループ/受益者はプロジェクトの活動について知っているか？ ターゲットグループ/受益者はプロジェクト活動に主体的に参加しているか？	理解の度合(広報活動の状況など含め) 参加の度合	- 同上	-文献調査 -インタビュー -現場視察

付属資料4 ISMAP評価グリッド（2）妥当性

評価項目 妥当性	評価調査項目		判断方法	必要データ	データソース	データ収集方法
	大項目	小項目				
プロジェクトの実施の正当性、必要性はあったか確認	プロジェクトはエジプトの政策と整合性をもつか？	* プロジェクトの目標、方向性がエジプトの政策と一致しているか？	プロジェクト目標、上位目標とエジプトの政策との整合性を検証	-エジプトにおける農業振興・普及に関する政策、戦略、計画等	-プロジェクト報告書 -エジプト側関係者〔農業土地開拓省（MALR）、農業サービス・フォローアップ局（ASFS）、農業普及局（AES）、ミニア県及びアシュート県農業局及び対象農協等〕 -日本人専門家	-文献調査 -インタビュー
	ターゲットグループの選択は適切だったか？	* プロジェクトは、ターゲットグループのニーズに合致していたか？ * ターゲットグループの規模は適切だったか？	プロジェクト目標、上位目標とターゲットグループのニーズを検証 ターゲットグループ（主たる便益の享受者）について規模を中心に現状を確認	-エジプト側関係者の認識 -C/Pリスト -ターゲットグループに関するデータ	-同上 -同上 -農業統計等	-文献調査 -インタビュー -現場視察 -文献調査 -インタビュー -現場視察
プロジェクトは、日本の海外援助方針と国別援助方針等に合致していたか？	プロジェクトは、日本の海外援助方針と国別援助方針等に合致していたか？	* プロジェクトは日本の援助方針の重点項目を扱っていたか？	プロジェクト目標、上位目標の内容と日本の援助方針の重点項目を検証	-日本のエジプトに対する援助方針等	-日本政府のエジプト援助方針に関する報告書など	-文献調査
	プロジェクトは、日本の海外援助方針と国別援助方針等に合致していたか？	* プロジェクトは、JICAの国別援助方針に整合していたか？	プロジェクト目標、上位目標の内容とJICAの援助方針を検証	-JICAの対エジプト援助方針	-JICA 国別援助方針等	-文献調査
手段としての適切さ	手段としての適切さ	* プロジェクトの戦略は、エジプトの関連セクターに効果を上げる手段として適切だったか？	プログラムのアプローチ、対象地域、他ドナーとの援助協調などを確認	-他ドナーの援助動向 -関係者の意見	-プロジェクト報告書 -エジプト側関係者〔農業土地開拓省（MALR）、農業サービス・フォローアップ局（ASFS）、農業普及局（AES）、ミニア県及びアシュート県農業局及び対象農協等〕 -日本人専門家	-文献調査 -インタビュー
	手段としての適切さ	* プロジェクトは公平性の視点から適切なものであったか？	裨益の公平性が確保されているか？	-関係者の意見	-同上	-文献調査 -インタビュー

付属資料4 ISMAP評価グリッド（3）有効性

評価項目 有効性	評価調査項目		判断方法	必要データ	データソース	データ収集方法
	大項目	小項目				
プロジェクト目標の達成状況（プロジェクトの効果）を問う	プロジェクト目標の達成見込みはどうか？	【ミニア県及びアシュート県の対象小規模農家並びに周辺小規模農家の農業所得】はどの程度向上したか？	PDMの指標値と現状の比較、今後の達成見込みの分析等を総合的に勘案する。 指標：【プロジェクト対象小規模農家の平均農業所得（村落ごとの平均値）が、対象作物別で40%～100%、世帯別で6%～22%上昇する。】	-達成度を判断するための指標に関連する各種データ	-プロジェクト報告書 -エジプト側関係者〔農業土地開拓省（MALR）、農業サービス・フォローアップ局（ASFS）、農業普及局（AES）、ミニア県及びアシュート県農業局及び対象農協等〕 -日本人専門家	-文献調査 -インタビュー -質問票 -現場視察
		*プロジェクト目標の進捗、達成に阻害・貢献した外部要因はあるか？	PDMの外部条件を中心としたモニタリングの結果から判断	-モニタリング結果 -現場関係者の意見	-同上	-文献調査 -インタビュー -現場視察 -質問票
		*アウトプットの達成状況は十分であるか？	アウトプットの指標値と現状の比較	-アウトプット指標データ -現場関係者の意見	-同上	-文献調査 -インタビュー -現場視察

付属資料4 ISMAP評価グリッド（4）効率性

評価項目 効率性	評価調査項目		判断方法	必要データ	データソース	データ収集方法
	大項目	小項目				
アウトプット（成果）の達成と投入との間の効率性を検証	アウトプット（成果）の達成状況はどの程度か？	1. 【市場志向型アプローチに基づいた普及フローが確立】したか？ 2. 【付加価値の高い農産物を生産する技術が開発・検証】されたか？ 3. 【対象農業協同組合（農協）の活動計画策定・実施能力が強化】されたか？ 4. 【対象農協内及び対象郡内で市場志向型アプローチに基づいた営農手法が広まって】いるか？	アウトプット達成状況とPDMの指標との比較、達成の時期の適切さ、外部要因の影響等を含めて総合的に判断。	-アウトプット指標データ	-プロジェクト報告書 -エジプト側関係者〔農業土地開拓省（MALR）、農業サービス・フォローアップ局（ASFS）、農業普及局（AES）、ミニア県及びアシュート県農業局及び対象農協等〕 -日本人専門家	-文献調査 -インタビュー -現場視察 -質問票
	日本側投入 1）日本人専門家	* 専門家の数、専門領域、派遣のタイミングは適切だったか？	実績と計画を検証	-専門家のアサイン（期間、人数）実績とエジプト側の評価	-投入実績・報告書 -エジプト側関係者（同上） -日本人専門家	-文献調査 -インタビュー
	2）供与機材	* 供与機材の仕様、量、導入の時期は適切だったか？	実績と計画、利用状況等 を検証	-投入資機材のリスト、納入時期、仕様、利用状況、管理状況	- 同上	-文献調査 -インタビュー -現場視察（使用・管理状況）
	3）本邦研修	* 研修の受入人数、研修分野、時期は適切だったか？	実績・研修参加者の満足度、業務への活用の度合 等を検証	-研修記録、研修参加者のコメント -日本人専門家の意見	- 同上	-文献調査 -インタビュー
	エジプト側投入 1）C/Pの配置	* C/Pの数、能力の適切さ	C/P配置の実績と計画を 検証	-C/Pの配置時期、人数、専門、活動状況、異動の有無	- 同上	-文献調査 -インタビュー
	2）運営資金（予算執行・管理体制）	* エジプト側からの運営資金は、不足、遅滞なく執行されたか？	予算計画と執行の状況を検証	-予算計画、執行状況	- 同上	-文献調査 -インタビュー
	外部要因、外部条件の影響	* プロジェクトの実施に貢献・阻害した要因は何か？	PDMの外部条件を中心としたモニタリングの結果等から判断	-モニタリングの結果 -現場関係者の評価	- 同上	-文献調査 -インタビュー

付属資料4 ISMAP評価グリッド（5）インパクト

評価項目 インパクト	評価調査項目		判断方法	必要データ	データソース	データ収集方法
	大項目	小項目				
プロジェクトのインパクト検証	上位目標は達成される見込みがあるか？	【ミニア県及びアシュート県の小規模農家の農業所得が向上する見込みを検証。】	PDMの指標値と現状の比較、今後の達成見込みの分析等を総合的に勘案して判断 指標：【ミニア県及びアシュート県でプロジェクトの対象作物を栽培する小規模農家において農業所得が13%上昇する。】	-左記指標にかかわるデータ（現状でのベースラインデータが取得されているか？）	-プロジェクト報告書 -エジプト側関係者〔農業土地開拓省（MALR）、農業サービス・フォローアップ局（ASFS）、農業普及局(AES)、ミニア県及びアシュート県農業局及び対象農協等〕 -日本人専門家	-文献調査 -インタビュー -関係者との協議
	その他のインパクトの有無・内容の検討	*上位目標以外（政策、制度、環境、技術、社会、文化面等）のインパクトはあったか？		-エジプト側関係者の認識 -日本人専門家の認識	-同上	-インタビュー -関係者との協議

付属資料4 ISMAP評価グリッド（6）持続性

評価項目 持続性	評価調査項目		判断方法	必要データ	データソース	データ収集方法
	大項目	小項目				
協力期間終了後の持続性の見込みの検証と評価	プログラムの実施による便益の発現、継続に対し、阻害あるいは貢献要因はあるのか？	<u>政策面</u> * 政府による政策的サポートは継続されるのか？（農業灌漑省の政策の情報を入手）	中央政府、地方政府の政策を確認	- エジプト国政府担当者の見解 - 日本人専門家 - 政策、法規などの動向	- プロジェクト報告書 エジプト側関係者〔農業土地開拓省（MALR）、農業サービス・フォローアップ局（ASFS）、農業普及局（AES）、ミニア県及びアシュート県農業局及び対象農協等〕 - 日本人専門家	- 文献調査 - インタビュー - 関係者との協議
		<u>組織面（活動体制）</u> * 関連組織は活動を実施する能力をもっているのか？ * 人員は適切に配置されているのか？	農業土地開拓省（ASFS/AES）、県農業局と県・郡・村落農協の体制の人員配置、組織体制上などの現状を検証	- エジプト側関係者の見解 - 日本人専門家の認識	- 同上	- インタビュー - 質問票 - 関係者との協議
		<u>財政面</u> * 関連する今後の活動予算は確保されるか？	プロジェクト活動の継続に関連する予算確保の見込みを確認	- エジプト側関係者の年度予算と今後の見込み	- エジプト側関係者（同上）	- インタビュー - 関係者との協議
		<u>技術面</u> * 技術移転は十分に行われているか？ * 供与機材の維持管理（保守点検、部品手当）は適切に行われる見込みがあるか？	関係者への技術移転の状況と維持管理体制を確認	- 能力評価のデータ等 - 日本人専門家の認識	- エジプト側関係者（同上） - 日本人専門家	- インタビュー - 質問票 - 関係者との協議 - 現場視察（供与機材管理状況）
		<u>オーナーシップ</u> * 実施機関〔農業土地開拓省（ASFS/AES）、県農業局と県、郡、村落農協〕による活動のオーナーシップは醸成・確立されているのか？	関係者の意識を確認	- エジプト側関係者の見解 - 日本人専門家の見解	- エジプト側関係者（同上） - 日本人専門家	- インタビュー - 関係者との協議

付属資料 7: 供与機材リスト

No.	Date of Arrival	機材の内容			数量	単価		合計		設置場所	使用頻度(**)	状態(*)	維持管理	補足
		機材	製造会社/モデル	R/P		通貨	通貨	通貨						
1	2014/8/20	ラップトップコンピュータ	HP 450 15-4200M 15.6 6GB/10T SEA PC Core i5-4200M	L	1	EGP	10,245	EGP	10,245	Cairo, CAAC	B	a	MALR	Handed over to MALR
2	2014/8/20	デジタルカメラ	Canon ixus 145 + bag+ 16G SD Card	L	2	EGP	1,200	EGP	2,400	Cairo, CAAC	B	b	MALR	Handed over to MALR
3	2014/8/20	同上	Canon ixus 145 + bag+ 16G SD Card	L	5	EGP	1,200	EGP	6,000	Minia Agr. Directorate	B	b	MALR	Handed over to MALR
4	2014/8/20	同上	Canon ixus 145 + bag+ 16G SD Card	L	5	EGP	1,200	EGP	6,000	Assiut Agr. Directorate	B	b	MALR	Handed over to MALR
5	2014/8/20	同上	EPSON EB-1776W	L	1	EGP	11,800	EGP	11,800	Cairo, CAAC	B	a	MALR	Handed over to MALR
6	2014/8/20	デスクトップコンピュータ	HP ProDesk 490 G1 Micro Tower PC	L	3	EGP	14,920	EGP	44,760	Minia Agr. Directorate	A	b	Project Team	Managed by Project Team
7	2014/8/20	同上	HP ProDesk 490 G1 Micro Tower PC	L	4	EGP	14,920	EGP	59,680	Assiut Agr. Directorate	A	b	Project Team	Managed by Project Team
8	2014/8/20	レーザージェットプリンター	HP LaserJet Pro M1536dnf	L	1	EGP	1,950	EGP	1,950	Cairo, CAAC	A	b	Project Team	Managed by Project Team
9	2014/8/20	同上	HP LaserJet Pro M1536dnf	L	3	EGP	1,950	EGP	5,850	Minia Agr. Directorate	A	b	Project Team	Managed by Project Team
10	2014/8/20	同上	HP LaserJet Pro M1536dnf	L	4	EGP	1,950	EGP	7,800	Assiut Agr. Directorate	A	b	Project Team	Managed by Project Team
11	2014/7/25	コピーマシン	canon 2535i	L	1	EGP	29,700	EGP	29,700	Minia Agr. Directorate	A	a	Project Team	Managed by Project Team
12	2014/7/25	同上	canon 2535i	L	1	EGP	29,700	EGP	29,700	Assiut Agr. Directorate	A	a	Project Team	Managed by Project Team
13	2015/12/21	ラップトップコンピュータ	HP ProBook 450 G2 (CND5124H83)	L	3	EGP	9,900	EGP	29,700	Cairo, CAAC	A	a	Project Team	Project Team
14	2015/12/21	同上	HP ProBook 450 G2 (CND5106H5H)	L	1	EGP	9,900	EGP	9,900	Minia Project Office	A	a	Project Team	Project Assistant
15	2015/12/21	同上	HP ProBook 450 G2 (CND5124HLT)	L	1	EGP	9,900	EGP	9,900	Assiut Project Office	A	a	Project Team	Project Assistant
16	2015/12/14	プリンター	HP laser jet pro MFP M127fn (CNB9H6K3R)	L	1	EGP	1,700	EGP	1,700	Agricultural Cooperative in El Balad (Minia)	A	a	Village Cooperative	1st cycle target village
17	2015/12/14	同上	HP laser jet pro MFP M127fn (CNB9H6HK3B)	L	1	EGP	1,700	EGP	1,700	Agricultural Cooperative in Manshet El Maghalika (Minia)	A	a	Village Cooperative	1st cycle target village
18	2015/12/14	同上	HP laser jet pro MFP M127fn (CNB9H6JB40)	L	1	EGP	1,700	EGP	1,700	Agricultural Cooperative in Manshet Semhan (Minia)	A	a	Village Cooperative	1st cycle target village
19	2015/12/14	同上	HP laser jet pro MFP M127fn (CN8G4SHWC)	L	1	EGP	1,700	EGP	1,700	Agricultural Cooperative in Kom Matai (Minia)	A	a	Village Cooperative	2nd cycle target village
20	2015/12/14	同上	HP laser jet pro MFP M127fn (CNB9H4R6J3)	L	1	EGP	1,700	EGP	1,700	Agricultural Cooperative in Aba El Balad (Minia)	A	a	Village Cooperative	2nd cycle target village
21	2015/12/14	同上	HP laser jet pro MFP M127fn (CNB9H2V93V)	L	1	EGP	1,700	EGP	1,700	Agricultural Cooperative in Barmasha (Minia)	A	a	Village Cooperative	2nd cycle target village
22	2015/12/14	同上	HP laser jet pro MFP M127fn (CNB9H6HK6J)	L	1	EGP	1,700	EGP	1,700	Agricultural Cooperative in Tala (Minia)	A	a	Village Cooperative	3rd cycle target village
23	2015/12/14	同上	HP laser jet pro MFP M127fn (CNB9H6J8TC)	L	1	EGP	1,700	EGP	1,700	Agricultural Cooperative in Hataha (Minia)	A	a	Village Cooperative	3rd cycle target village
24	2016/2/8	同上	HP laser jet pro MFP M127fn (CNB9H6K3L2)	L	1	EGP	1,650	EGP	1,650	Agricultural Cooperative in El Gendaya (Minia)	A	a	Village Cooperative	3rd cycle target village
25	2016/2/8	同上	HP laser jet pro MFP M127fn (CNB9H6HJOZ)	L	1	EGP	1,650	EGP	1,650	Minia Agr. Directorate	A	a	Project Team	Managed by Project Team
26	2016/2/8	同上	HP laser jet pro MFP M127fn (CNB9H6KDS3)	L	1	EGP	1,650	EGP	1,650	Agricultural Cooperative in Moshia (Assiut)	A	a	Village Cooperative	1st cycle target village
27	2016/2/8	同上	HP laser jet pro MFP M127fn (CNB9H6JQB1)	L	1	EGP	1,650	EGP	1,650	Agricultural Cooperative in Sanabo (Assiut)	A	a	Village Cooperative	1st cycle target village
28	2016/2/8	同上	HP laser jet pro MFP M127fn (CNB9H3YL27)	L	1	EGP	1,650	EGP	1,650	Agricultural Cooperative in Abnoub (Assiut)	A	a	Village Cooperative	1st cycle target village
29	2016/2/8	同上	HP laser jet pro MFP M127fn (CNB9H4R72D)	L	1	EGP	1,650	EGP	1,650	Agricultural Cooperative in El Nawawra (Assiut)	A	a	Village Cooperative	2nd cycle target village
30	2016/2/8	同上	HP laser jet pro MFP M127fn (CNB9H4R6KQ)	L	1	EGP	1,650	EGP	1,650	Agricultural Cooperative in Tetulia (Assiut)	A	a	Village Cooperative	2nd cycle target village
31	2016/2/8	同上	HP laser jet pro MFP M127fn (CNB9H6HK3M)	L	1	EGP	1,650	EGP	1,650	Agricultural Cooperative in El Nekkhalia (Assiut)	A	a	Village Cooperative	2nd cycle target village
32	2016/2/8	同上	HP laser jet pro MFP M127fn (CNB9H6JQ72)	L	1	EGP	1,650	EGP	1,650	Agricultural Cooperative in Bany Mor (Assiut)	A	a	Village Cooperative	2nd cycle target village
33	2016/2/8	同上	HP laser jet pro MFP M127fn (CNB9H6HG7K)	L	1	EGP	1,650	EGP	1,650	Agricultural Cooperative in Bany Mor in Man Hout (Assiut)	A	a	Village Cooperative	3rd cycle target village
34	2016/2/8	同上	HP laser jet pro MFP M127fn (CNB9H6J8J3)	L	1	EGP	1,650	EGP	1,650	Agricultural Cooperative in Bany Mor in Sahel Salem (Assiut)	A	a	Village Cooperative	3rd cycle target village
35	2016/2/8	プリンター	HP laser jet pro MFP M127fn (CNB9H6K2M6)	L	1	EGP	1,650	EGP	1,650	Agricultural Cooperative in Bany Mor in Mashaya (Assiut)	A	a	Village Cooperative	3rd cycle target village
36	2016/2/8	同上	HP laser jet pro MFP M127fn (CNB9H4X9J7)	L	1	EGP	1,650	EGP	1,650	Agricultural Cooperative in Bany Mor in Awlad Elias (Assiut)	A	a	Village Cooperative	3rd cycle target village
37	2016/2/8	同上	HP laser jet pro MFP M127fn (CNB9H4R70F)	L	1	EGP	1,650	EGP	1,650	Cairo, CAAC	A	a	Project Team	Managed by Project Team
38	2015/11/24	デジタルカメラ	Canon IXY 160 (073061038819)	L	1	EGP	915	EGP	915	Abo Kerkas District in Minia	B	a	District office	1st cycle target district

No.	Date of Arrival	機材の内容			数量	単価		合計		設置場所	使用頻度(**)	状態(*)	維持管理	補足
		機材	製造会社/モデル	R/P		通貨	通貨	通貨						
39	2015/11/24	同上	Canon IXY 160 (073061038765)	L	1	EGP	915	EGP	915	Mallawe District in Minia	B	a	District office	1st cycle target district
40	2015/11/24	同上	Canon IXY 160 (073061038809)	L	1	EGP	915	EGP	915	Dyre Miuas District in Minia	B	a	District office	1st cycle target district
41	2015/11/24	同上	Canon IXY 160 (073061038775)	L	1	EGP	915	EGP	915	Mutai District in Minia	B	a	District office	2nd cycle target district
42	2015/11/24	同上	Canon IXY 160 (063061116580)	L	1	EGP	915	EGP	915	Mughagha District in Minia	B	a	District office	2nd cycle target district
43	2015/11/24	同上	Canon IXY 160 (063061116590)	L	1	EGP	915	EGP	915	El Fdwa District in Minia	B	a	District office	2nd cycle target district
44	2015/11/24	同上	Canon IXY 160 (073061038813)	L	1	EGP	915	EGP	915	Minia District in Minia	B	a	District office	3rd cycle target district
45	2015/11/24	同上	Canon IXY 160 (073061038808)	L	1	EGP	915	EGP	915	Samallout District in Minia	B	a	District office	3rd cycle target district
46	2015/11/24	同上	Canon IXY 160 (082306002021)	L	1	EGP	915	EGP	915	Beni Mazar District in Minia	B	a	District office	3rd cycle target district
47	2015/11/24	同上	Canon IXY 160 (73061038817)	L	1	EGP	915	EGP	915	Assiut District in Assiut	B	a	District office	1st cycle target district
48	2015/11/24	同上	Canon IXY 160 (73061038811)	L	1	EGP	915	EGP	915	Dyrcout District in Assiut	B	a	District office	1st cycle target district
49	2015/11/24	同上	Canon IXY 160 (73061038821)	L	1	EGP	915	EGP	915	Abnoub District in Assiut	B	a	District office	1st cycle target district
50	2015/11/24	同上	Canon IXY 160 (73061038812)	L	1	EGP	915	EGP	915	El Badar District in Assiut	B	a	District office	2nd cycle target district
51	2015/11/24	同上	Canon IXY 160 (73061038822)	L	1	EGP	915	EGP	915	El Kosva District in Assiut	B	a	District office	2nd cycle target district
52	2015/11/24	同上	Canon IXY 160 (73061038818)	L	1	EGP	915	EGP	915	Abo Teag District in Assiut	B	a	District office	2nd cycle target district
53	2015/11/24	同上	Canon IXY 160 (73061038814)	L	1	EGP	915	EGP	915	El Fath District in Assiut	B	a	District office	2nd cycle target district
54	2015/11/24	同上	Canon IXY 160 (73061038810)	L	1	EGP	915	EGP	915	Man Floot District in Assiut	B	a	District office	3rd cycle target district
55	2015/11/24	同上	Canon IXY 160 (73061038820)	L	1	EGP	915	EGP	915	Sahel Salem District in Assiut	B	a	District office	3rd cycle target district
56	2015/11/24	同上	Canon IXY 160 (73061038816)	L	1	EGP	915	EGP	915	El Ghanayem District in Assiut	B	a	District office	3rd cycle target district
57	2015/11/24	同上	Canon IXY 160 (73061038815)	L	1	EGP	915	EGP	915	Sadia District in Assiut	B	a	District office	3rd cycle target district
									Total	320,385				

Note: The listed equipment should be the unit price of 20,000yen or more and be usable for one year or more, according to manual for JICA coordinator.

R/P: Route of Procurement (J: From Japan, L: Local, E: With Expert)

* Condition of equipment a: Good condition, b: In moderate condition, c: For repair

** Classification of the frequency of use of the equipment (by the manual for JICA coordinators)

A: used frequently (almost daily), B: used well (1-3 times a week), C: Used in specific season(s) only, D: not so much used, E: not used by specific reasons

付属資料 8 ローカルコスト支援 (種子/肥料/小動物)

No.	Item	Place	Component
F.Y. 2014			
1	Input for Demo-farms	Dayr Muas (Minia)	seeds (cantaloupe, cabbage, soybean, tomato and Mushroom) and fertilizer
2	Input for Demo-farms	Abo Korkas (Minia)	seeds (cantaloupe, soybean, tomato, sesame and Mushroom) and fertilizer
3	Input for Demo-farms	Mallawe (Minia)	seeds (cantaloupe, cabbage, soybean, tomato and Mushroom) and fertilizer
4	Input for Demo-farms	Assiut (Assiut)	seeds (cucumber, soybean and tomato) and fertilizer
5	Input for Demo-farms	Abnoub (Assiut)	seeds (cucumber, soybean and basil) and fertilizer
6	Input for Demo-farms	Dyroul (Assiut)	seeds (cucumber, soybean and cabbage) and fertilizer
F.Y. 2015			
1	Input for Demo-farms	Matai (Minia)	seeds (cucumber, soybean and tomato) and fertilizer
2	Input for Demo-farms	Maghagha (Minia)	seeds (cucumber, cantaloupe, sesame and tomato) and fertilizer
3	Input for Demo-farms	El Edwa (Minia)	seeds (cucumber, sesame and tomato) and fertilizer
4	Women's activities	Matai (Minia)	Rabbits, a cage for rabbit, pigeons and feed for rabbits and pigeons
5	Women's activities	Maghagha (Minia)	Chicks and feed for chicks
6	Women's activities	El Edwa (Minia)	Rabbits, cages for rabbits, vaccinations and feed for rabbits. Chicks and feed for chicks
7	Input for Demo-farms	El Tetalia (Assiut)	seeds (sesame, tomato, cucumber and soybean) and fertilizer
8	Input for Demo-farms	Bany Mor (Assiut)	seeds (sesame, soybean, cabbage and cauliflower) and fertilizer
9	Input for Demo-farms	El Nawawra (Assiut)	seeds (sesame, cucumber and soybean) and fertilizer
10	Input for Demo-farms	El Nekhelia (Assiut)	seeds (soybean) and fertilizer
11	Women's activities	El Tetalia (Assiut)	Rabbits, pigeons, cages, feed for rabbits and pigeons. Seeds, rice straw, scale and thermometer for mushroom cultivation.
12	Women's activities	Bany Mor (Assiut)	Rabbits, pigeons, cages, feed for rabbits and pigeons. Seeds, rice straw, scale and thermometer for mushroom cultivation.
13	Women's activities	El Nawawra (Assiut)	Rabbits, pigeons, cages, feed for rabbits and pigeons. Seeds, rice straw, scale and thermometer for mushroom cultivation.
14	Women's activities	El Nekhelia (Assiut)	Rabbits, pigeons, cages, feed for rabbits and pigeons. Seeds, rice straw, scale and thermometer for mushroom cultivation.
F.Y. 2016			
1	Input for Demo-farms	Tala (Minia)	carrot seeds
2	Input for Demo-farms	Hataha (Minia)	onion seedling
3	Input for Demo-farms	Gendaya (Minia)	potato and onion seedling
4	Input for Demo-farms	El Mashaya (Assiut)	onion seedling and fertilizer
5	Input for Demo-farms	Awlad Elias (Assiut)	seed (onion, garlic and potato) and fertilizer
6	Input for Demo-farms	Man Floom (Assiut)	seed (potato, garlic, onion and black cumim) and fertilizer
7	Input for Demo-farms	Sahel Salem (Assiut)	seed (potato, garlic and onion) and fertilizer

付属資料9 エジプト側カウンターパートリスト (2016年12月末まで)

No	Name of Counterpart Personnel	Position / Organization	Place	Field of Expertise	Duration of Assignment		2014												2015												2016											
					From	To	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
1	Mr. Handy Mohamed Assi	Agriculture Services and Follow-up Sector, Head (1st Project Director)	Cairo	Agricultural services	6/2014	2/2015																																				
2	Dr. Hassan El Fouly	Agriculture Services and Follow-up Sector, Head (2nd Project Director)	Cairo	Agricultural services	2/2015	5/2015																																				
3	Mr. Khaled Abd El-Rady Monufy	Agriculture Services and Follow-up Sector, Head (3rd Project Director)	Cairo	Agricultural services	5/2015	5/2016																																				
4	Dr. Ahmed About El-yazied	Agriculture Services and Follow-up Sector, Head (4th Project Director)	Cairo	Agricultural services	5/2016	Until nov																																				
5	Mr. GABR Mohamed Mohamed Abdalla	Cent. Adminis. of Agricultural Cooperation, Head (1st Project Manager)	Cairo	Agricultural cooperation	6/2014	8/2016																																				
6	Mr. Gamal Ibrahim Handa	Cent. Adminis. of Agricultural Cooperation, Head (2nd Project Manager)	Cairo	Agricultural cooperation	11/2016	11/2016																																				
7	Mr. Wafek Mohamed Askaer	Cent. Adminis. of Agricultural Cooperation, Head (3rd Project Manager)	Cairo	Agricultural cooperation	12/2016	Until nov																																				
8	Mr. ELSAID Fayed Saadeddin Mostafa	Cent. Adminis. of Agricultural Cooperation, Livestock Department, Director	Cairo	Livestock	10/2014	10/2016																																				
9	Mr. SOBEH Gamal Elsayed Mohamed	Cent. Adminis. of Agricultural Cooperation General Manager/Tech. Office	Cairo	Agricultural cooperation	6/2014	Until nov																																				
10	Mr. MOHAMED Walid Mohamed Ahmed	Cent. Adminis. of Agricultural Cooperation, Technical Office Department, Agricultural Engineer	Cairo	Agricultural engineer	10/2015	Until nov																																				
11	Ms. ABDELALIM Anil Mohammed Abdallah	Cent. Adminis. of Agricultural Cooperation, Technical Office Department, Second Agricultural Specialist	Cairo	Agriculture specialist	6/2014	Until nov																																				
12	Ms. ELSHERIF Lamiaa Ahmed Antar Mohamed	Cent. Adminis. of Agricultural Cooperation, Technical Office Department, Agricultural Engineer	Cairo	Agricultural engineer	10/2015	Until nov																																				
13	Mr. OSAMA Saad El Lithy Shaban	Cent. Adminis. of Agricultural Cooperation, Training Department, Head	Cairo	Agricultural cooperation	6/2014	Until nov																																				
14	Mr. Mohamed Ahmed El Fahfah	Cent. Adminis. of Agricultural Cooperation, Marketing Department, General Manager	Cairo	Agricultural cooperation	6/2014	7/2015																																				
15	Ms. Amal Esmat Salem	Cent. Adminis. of Agricultural Cooperation, Livestock Department, Livestock Specialist	Cairo	Livestock	8/2016	Until nov																																				
16	Ms. Nagwa El Sayed Mohamed	Cent. Adminis. of Agricultural Cooperation, Planning Department, Agricultural Engineer	Cairo	Agricultural cooperation	6/2014	10/2014																																				
17	Ms. MAHMOUD Maha Abdelazim Elsaadi	Minia Agriculture Directorate, Cooperation Department, Guidance and Organization of Cooperatives Section, General Director (Team leader of Minia)	Minia	Agricultural cooperation	6/2014	Until nov																																				
18	Ms. MOHAMED Hanan Elkhargawi Sayed	Minia Agriculture Directorate, Cooperation Department, Agricultural Products Section, Head	Minia	Cooperative marketing	6/2014	Until nov																																				
19	Mr. BOULES Ramy Samir Fouad	Minia Agriculture Directorate, Extension Department, Marketing Section, Agriculture Engineer	Minia	Agricultural extension	6/2014	Until nov																																				
20	Mr. BADAWI Kamaluddin Ahmed Ibrahim	Minia Agriculture Directorate, Extension Department, General Director	Minia	Agricultural extension	6/2014	Until nov																																				
21	Mr. HANA Maged Nesim Labeb	Minia Agriculture Directorate, Cooperation Department, Guidance and Organization of Cooperatives Section, Agronomist	Minia	Agricultural cooperation	6/2014	Until nov																																				
22	Ms. Azza Ramadan	Minia Agriculture Directorate, Cooperation Department, Marketing Section, Head	Minia	Cooperative marketing	6/2014	Until nov																																				
23	Mr. MANSOUR Gamal Somacl Habib	Assiut Agriculture Directorate, Horticulture Department, General Manager (Former team leader of Assiut)	Assiut	Horticulture crops	6/2014	11/2016																																				
24	Mr. MOHAMED Hamdy Mohamed Khalil	Assiut Agriculture Directorate, Extension Department, Head	Assiut	Agricultural extension	6/2014	Until nov																																				
25	Mr. Abd el Monem Mohamed	Assiut Agriculture Directorate, Horticulture Department, Fruits Section, Head	Assiut	Horticulture crops	6/2014	6/2015																																				
26	Ms. HASSAN Zinab Hassan Abdalaziz	Assiut Agriculture Directorate, Horticulture Department, Vegetable and Medical Aromatic Plants Section, Head	Assiut	Vegetable crops	6/2014	Until nov																																				
27	Mr. Mahmoud Osman	Assiut Agriculture Directorate, Extension Department, Extension engineer	Assiut	Legumes crops	6/2014	Until nov																																				
28	Ms. ABDALHALEEM Marwa Mohammed Soliman	Assiut Agriculture Directorate, Extension Department, Extension engineer	Assiut	Horticulture crops	6/2014	Until nov																																				
29	Ms. ESSA Sherin Hussain Aly	Assiut Agriculture Directorate, Horticulture Department, Palm Section, Head (Team Leader of Assiut)	Assiut	Palm cultivation	7/2015	Until nov																																				
30	Mr. Partey helmy grace	Assiut Agriculture Directorate, Horticulture Department, Tree Section, Horticulture engineer	Assiut	Tree cultivation	11/2016	Until nov																																				
31	Mr. HASSANEIN Mohamed Ahmed Mohamed Bakr	Assiut Agriculture Directorate, Cooperation Department, Vice Manager	Assiut	Agricultural marketing	6/2014	Until nov																																				
32	Mr. ABDELATAH Mostafa Kamal Abdelwahab	Assiut Agriculture Directorate, Cooperation Department, Project Section Head	Assiut	Agricultural cooperation	6/2014	Until nov																																				
33	Mr. Ahmad Moncer	Assiut Agriculture Directorate, Cooperation Department, Head	Assiut	Agricultural cooperation	6/2015	Until nov																																				

* Underlined Nos: Experience of participating in training courses organized by JICA (in Japan or third countries)

10. 研修教材リスト

付属資料 10 研修教材リスト (テキスト/ガイドライン/マニュアル)

第1 サイクル

No.	Topic	Text	Source
1	Soybean	Training text Soybean cultivation guideline	Agriculture Extension Sector (AES)
2	Gender mainstreaming	Training text Gender mainstreaming guideline	Project Team
3	Farming plan and farm management	Training text Farm record book (sample book)	Project Team
4	Intercropping	Training text	Agriculture Research Center (ARC)
5	Medicinal and aromatic plants (Basil)	Training text	ARC
6	Cucumber	Training text	ARC
7	Tomato	Training text	ARC
8	Bio-fertilizer from agricultural waste	Training text	ARC
9	Non-traditional fodder (silage)	Training text	ARC
10	Mushroom production, processing	Training text	Assiut Agriculture Directorate / Private company
11	Cabbage	Training text	ARC
12	Sesame	Training text	ARC
13	Cantaloupe	Training text	ARC
14	Eggplant	Training text	ARC
15	Sweet potato	Training text	ARC

第2 サイクル

No.	Topic	Text	Source
1	Onion	Training text	ARC
2	Sugar Beet	Training text Sugar beet cultivation guideline	ARC
3	Irish Potato	Training text Potato cultivation guideline	ARC / Minia University AES
4	Tomato	Training text	ARC / Minia University
5	Cucumber	Training text	ARC/ Minia University
6	Farming plan and farm management	Training text Farm record book (sample book)	Project Team
7	Okra	Training text	ARC
8	Sesame	Training text	ARC/ Minia University
9	Soya Bean	Training text Soybean cultivation guideline	ARC/ Minia University AES
10	Mushroom	Training text	Assiut Agriculture Directorate/ Private company
11	Rabbit	Training text	Assiut Animal Health Institution
12	Pigeon	Training text	Assiut University
13	Soybean	Training text	Minia University

		Soybean cultivation guideline	AES
14	Sesame	Training text	Minia University
15	Marketing (1)	Training text	Minia University
16	Marketing (2)	Training text	Minia University
17	Agriculture waste recycling	Training text	Minia University
18	Animal waste recycling	Training text	Minia University
19	Role of agriculture cooperative	-	(C/P made a lecture)

第3 サイクル

No.	Topic	Text	Source
1	Onion	Training text	El Azhar University
2	Tomato	Training text	El Azhar University
3	Fenugreek	Training text	El Azhar University
4	Black Cumin	Training text	El Azhar University
5	Farming plan and farm management	Training text Farm record book (sample book)	Project Team
6	Cucumber	Training text	El Azhar University
7	Organic Agriculture	Training text	El Azhar University
8	GAP/Soil Analysis	Training text	Assiut Agriculture Directorate
9	GAP/Organic farming	Training text	Minia University
10	Potato	Training text	Minia University
11	Zucchini	Training text	Minia University
12	Onion/Pepper	Training text Onion cultivation guideline	Minia University AES
13	Tomato	Training text	Minia University
14	Carrot	Training text	Minia University
15	Cucumber	Training text	Minia University
16	Eggplant	Training text	Minia University

3rd Cycle women activity (Minia only as of December 2016)

No.	Topic	Text	Source
1	Turkey raising	Training text	Minia University
2	Pigeon raising	Pigeon raising guideline	Project Team
3	Duck raising	Training text	Minia University
4	Tomato source making	Training text	Minia University
5	Silage processing	-	
6	Chicken raising	Pigeon raising guideline	Project Team
7	Rabbit raising	Pigeon raising guideline	Project Team

11. PDM1 (version 1) から PDM (version 2) への主な変更点

付属資料11: PDM1 (version 1)からPDM2 (version 2)への主な変更点

Contents of PDM	Description in PDM Version 1.0	PDM Version 2.0	Reasons for the revision
上位目標に関する修正			
上位目標	Agricultural incomes of the small-scale farmers in Minia and Assiut Governorates are increased. (ミニア県及びアシュート県の小規模農家の農業所得が向上する。)	Agricultural incomes of the small-scale farmers in the target villages in Minia and Assiut Governorates are increased. (ミニア県及びアシュート県のプロジェクト対象村の小規模農家の農業所得が向上する。)	上位目標はプロジェクト協力期間終了後、3年から5年の間に達成されることを想定しているが、現在の農業普及活動の予算の不足を勘案すると、ミニア県とアシュート県全体への、普及を前提とする上位目標の達成は現実的ではない(対象村落の小規模農民に限定することが現実的な目標設定と考えられる)。
上位目標の指標	a. The average agricultural income of the small-scale farmers, which cultivate the target agricultural products by the Project, is increased by 13% (Detail is attached as PDM1-(2) and (3)) (プロジェクトが対象とする作物を栽培する対象小規模農家の平均農業所得が13%上昇する。)	a. The average agricultural income of the small-scale farmers who cultivate the target agricultural products by the Project is increased. (プロジェクトが対象とする作物を栽培する対象小規模農家の平均農業所得が上昇する。)	
指標の入手手段	a. Statistics materials b. Sample survey (included by the baseline surveys)	a. Statistics materials b. Sample survey (included by the baseline surveys)	
プロジェクト目標に関する修正			
プロジェクト目標	Agricultural incomes of the target small-scale farmers and surrounding small-scale farmers in the project are increased. (ミニア県及びアシュート県のプロジェクト対象小規模農家並びに周辺小規模農家の農業所得が向上する。)	Agricultural incomes of the target small-scale farmers and surrounding small-scale farmers in the project are increased.	変更なし。
プロジェクト目標の指標	a. The agricultural incomes of the target small-scale farmers in the Project are increased by 40% - 100% by target crop and village, and 6% - 22% by household and village (detail is attached herewith) (Detail is attached as PDM1-(1), (2) and (3))(プロジェクト対象小規模農家の平均農業所得(村落ごとの平均値)が、対象作物別で40%-100%、世帯別で6%-22%上昇する。)	a. The agricultural incomes of the target small-scale farmers in the Project are increased by 6% - 22% by household and village (プロジェクト対象小規模農家の農業収入(村落ごとの平均値)が、世帯別で6%-22%上昇する。)	現行のプロジェクト目標指標aは複雑で検証のためのデータを取得するのも困難であるため、作物別の目標値を除き検証が簡易なものとした。
		b. The agricultural incomes of the target women in the Project are increased from the beginning of project activity.(プロジェクト活動に参加する女性たちの収入が、プロジェクト開始前に比較して増加する。)	現行の指標には、女性活動を検証する要素がないため、指標bを追加した。
		c. The agricultural incomes of surrounding small-scale farmers who practice the ISMAP Approach are increased.(ISMAPアプローチを実践する周辺農家の収入が増加する。)	現行の指標には「周辺農家」について検証する要素がないため、指標cを追加した。
		d. Target small-scale farmers in the Project change their farming style toward market based. *1 (プロジェクト活動に参加する農家の営農が市場志向型に変わる。)	現行指標では収入の増加のみを検証しているが、農家の営農の変化(市場志向型農業への転換)をみることも重要であることから、指標dを追加した。
プロジェクト目標指標の入手手段	a. Baseline surveys b. End-line survey	a. Baseline surveys b. End-line survey c. Sample survey	

*1. Changes in farmers' farming style is monitored using monitoring sheet.

付属資料 12: 修正 PDM 案 (PDM2)

Project Design Matrix (PDM2)

Project Title: Improving Small-Scale Farmers' Market-Oriented Agriculture Project

Project Duration: 2014-2019 (5 years)

Project Sites: Minia, Assiut Governorate

Target Group: Small-scale farmers in the target agricultural cooperatives and surrounding small-scale farmers

as of January 26, 2017

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption
[Overall Goal] Agricultural incomes of the small-scale farmers in the target villages in Minia and Assiut Governorates are increased.	a. The average agricultural income of the small-scale farmers who cultivate the target agricultural products by the Project is increased.	a. Statistics materials b. Sample survey (included by the baseline surveys)	
[Project Purpose] Agricultural incomes of the target small-scale farmers and surrounding small-scale farmers in the project are increased.	a. The agricultural incomes of the target small-scale farmers in the Project are increased by 6% - 22% by household and village. b. The agricultural incomes of the target women in the Project are increased from the beginning of project activity. c. The agricultural incomes of surrounding small-scale farmers who practice the ISMAP Approach are increased. d. Target small-scale farmers in the Project changed their farming style toward market based. *1	a. Baseline surveys*2 b. End-line survey c. Sample survey	- Necessary budget of MALR for implementing extension activities based on the market-oriented approach is secured.
[Outputs] 1. Market-oriented extension approach is established.	a. The draft plan of extension flow based on the market-oriented approach is formulated. b. The average score of evaluation on formulation and revision process of the plan of extension flow is higher than 4 in the five-grade evaluation by the relevant stakeholders. c. The extension flow based on the market-oriented approach, which is revised through implementing project activities, is approved by the Joint Steering Committee (JSC).	a. Draft of extension flow based on the market-oriented approach b. Interview with the relevant stakeholders c. Approved extension flow based on the market-oriented approach	- Counterpart personnel (C/P) who received trainings by the Project will continuously work.
2. Agricultural techniques for value-added products are examined and developed.	a. Guidelines and manuals on the examined and developed agricultural techniques are made. b. More than 70% of the examined and developed agricultural techniques are included to the Training of Trainers for extension staff.	a. Guidelines and manuals of agricultural techniques b. Training materials of ToT	
3. Capacities for making and implementing action plans of the agricultural cooperatives are strengthened.	a. Action plans for improving agricultural incomes of small-scale farmers are made by the target agricultural cooperatives. b. More than 70% of activities based on the action plans are implemented.	a. Action plans of the target agricultural cooperatives b. Project progress report	
4. Farming methods based on the market-oriented approach are deployed within the target agriculture cooperatives and in districts.	a. Extension plans for deploying farming methods by the target agricultural cooperatives b. Existence of new farming activities based on the market-oriented approach within the target agricultural cooperatives. c. Extension plans for deploying farming methods by district agricultural office d. Existence of new farming activities based on the market-oriented approach in districts.	a. Project progress report b. End-line survey	

Activities	Input		
<p><Output 1></p> <p>1-1 Build the consensus of the draft plan of extension flow*3 based on the market-oriented approach between stakeholders</p> <p>1-2 Select target agricultural cooperatives and small-scale farmers based on the consensus of selection method</p> <p>1-3 Conduct baseline survey of the target agriculture cooperatives and small-scale farmers</p> <p>1-4 Provide the opportunities for dialogue between the target small-scale farmers and agricultural business stakeholders</p> <p>1-5 Conduct trainings for the target small-scale farmers on market survey and farming action planning</p> <p>1-6 Facilitate the target small-scale farmers to make farming action plans</p> <p>1-7 Conduct trainings of trainers (ToT) for extension staff*4 regarding the necessary agricultural techniques for implementing the action plans in 1-6</p> <p>1-8 Facilitate the trained extension staff to implement technical trainings for the target small-scale farmers</p> <p>1-9 Monitor activities based on the action plans by the trained target small-scale farmers</p> <p>1-10 Improve the extension flow based on the market-oriented approach by examining the each activity</p> <p><Output 2></p> <p>2-1 Identify agricultural techniques*5 need to be examined and developed based on the study of IMAP*6 and the action plans made by the target small-scale farmers</p> <p>2-2 Examine and develop the techniques identified in 2-1</p> <p>2-3 Feed examined and developed techniques back to the ToT in 1-7</p> <p>2-4 Improve existing agricultural techniques, which are confirmed necessary through implementing the extension flow</p> <p><Output 3></p> <p>3-1 Identify problems/opportunities of the target agricultural cooperatives for making and implementing action plans</p> <p>3-2 Conduct trainings for the target agricultural cooperatives members on making and implementing action plans for improving small-scale farmers' incomes</p> <p>3-3 Facilitate village extension staff to support the target agriculture cooperatives for implementing the action plans made in 3-2.</p> <p><Output 4></p> <p>4-1 Facilitate the target agricultural cooperatives to make extension plans for deploying farming methods based on the market-oriented approach to other farmers within the agriculture cooperatives.</p> <p>4-2 Monitor the target agricultural cooperatives to implement the above plans.</p> <p>4-3 Facilitate the district agricultural offices to make extension plans for deploying farming methods based on the market-oriented approach to other agricultural cooperatives in the districts.</p> <p>4-4 Monitor the district agricultural office to implement the above plans.</p> <p>4-5 Facilitate the target agricultural directorates to make extension plans for deploy farming methods based on the market-oriented approach.</p>	<p>【Japanese side】</p> <p>(1) Dispatch of Experts - Leader/Market-oriented agriculture - Appropriate agriculture techniques and extension - Agricultural cooperative - Project coordinator/Training management - Other short-term experts as per necessity</p> <p>(2) Provision of equipment (Ex. Equipment and materials necessary for Output 2 and 3)</p> <p>(3) C/P Training in Japan and/or third country</p> <p>(4) Local cost shared by Japanese side - A part of operational costs for implementing the activities (Ex. Costs for experts' activities)</p>	<p>【Egyptian side】</p> <p>(1) C/P Project Director Project Manager Other counterparts</p> <p>(2) Office space and facilities for the Project - Necessary working space and facilities for JICA experts</p> <p>(3) Necessary Arrangement - Acquisition of the permission for the work in the field</p> <p>(4) Local cost shared by Egyptian side - Operational cost for the Project implementation (Ex. Training cost, personnel expenses and traveling cost for C/Ps)</p>	<p>- Personnel transfer of executive management will not affect the implementation of the Project.</p> <p>[Pre-condition] The Egyptian political situation is stable.</p>

(Notes: PDM including the indicators and PO are reviewed and revised in the JSC, if necessary.)

*1) Changes in farmers' farming style is monitored using monitoring sheet.

*2) Scope of the baseline survey is focused on the target agricultural cooperatives and small-scale farmers selected by the Project. Farmer's survey of the baseline survey is recommended to refer to a sample of the crop production and income analysis data sheet used in other JICA projects.

*3) The draft plan of extension flow includes process of extension, roles and responsibilities of relevant organizations, and so on.

*4) In principal, target extension staffs for the ToT are extension staffs at village and district levels, and other target participants will be selected in the Project, according to the situation of each governorate.

*5) The techniques tentatively include improving cultivation techniques, for example, adjusting cropping season, improving pattern, new varieties, intercropping and using organic fertilizer, improving postharvest.

*6) The Project for the Master Plan Study for Rural Development Through Improving Marketing Agricultural Produce for Small Scale Farmers in Upper Egypt (IMAP)

13. 面談録

付属資料：面談録

面談録①

面談先	JICA エジプト事務所
日 時	2017年1月8日 9:30～
場 所	JICA エジプト事務所会議室
先 方	伊藤所長
わが方	東野（評価分析）
要 旨	<p>東野団員よりレビュー日程の概略と対処方針会議で挙げられた課題と方針を説明。その後、伊藤所長から以下のコメントあり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクトの課題（農民の参加継続が難しい、エジプトの予算不足等）は承知している。コンサルタント（日本人専門家）も頑張っているのだろうが、エジプト側の対応も原因となり、目に見える成果が出ていないのは残念だ。 ● エジプト側への働きかけが求められるだろうが、エジプトはトップダウンの国柄なので、上層部に現状を説明して、イニシアティブを取ってもらわないと話が進まないとも考えている。このため、エジプト事務所として、農業大臣とのアポ取りをトライしてきているが、今まで、なかなか取れないでいる。 ● 予算の問題も含めたエジプト側の対応の悪さも深刻だが、そもそも、プロジェクトの内容が、大臣や上層部にどこまで伝わっているのかも問題ととらえている。あまり、情報が届いていないのではないか。 ● エジプト側の財政問題は深刻だが、だからといって日本が丸抱えで継続するのも難しい。プロジェクトの仕組みや体制を変えるなど、軌道修正の工夫ができないか？ 他のドナーやNGOのやり方を参考・活用するなど、中間レビューの機会に知恵を出してもらえるように期待している。 ● プロジェクトは最初の3年間でアプローチの方法を定めて、残りの2年間でフォローする計画と理解しているが、SHEPアプローチが、この期間内に、エジプトに適用できるのかどうか、予断を許さないと思う。 ● 在エジプト日本大使館は、エジプトの大臣との協議の機会を多く得ている。エジプトの大臣は政治家というよりもアカデミア出身の人も多く、他の国の大臣と比べると面談の機会が得やすい。しかし、大使に農業大臣との面談・現状の説明を依頼するとしても、会う以上、プロジェクトの何らかの成果がみえないと、大使としても話をもちかける大義名分を見いだすににくいだろう。 ● 2017年は、エジプトにジャポニカが持ち込まれて100周年となることから、日本大使館はイベントを企画しており、3月に灌漑大臣や農業大臣などを招いて行う予定である。この機会をとらえて、大使に話をしてもらうことも一案と考えているが、今のところ、大使館もISMAR（SHEP）の詳細な情報は周知していない。プロジェクトが何らかの成果を上げて、大使が大臣に話をしやすい状況をつくってもらえるのが望ましい。 ● プロジェクトのジェンダー活動にしても、エジプトのような文化の国では、一朝一夕には進まないだろう。少しでも良いところがあれば、認めてあげてほしい。ケニアとは同じと思わない方が良いのではないか。

面談録②

面談先	農業土地開拓省（MALR）国際農業関係局（International Agricultural Relations）局長
日 時	2017年1月9日 11:30～
場 所	農業土地開拓省（MALR）国際農業関係局局長室
先 方	Dr. Dina EL Khisin 局長（畑専門家、平山専門家、山本専門家）
わが方	Mr. Mohamed Adam（JICA エジプト事務所）、東野（評価分析）
要 旨	<p>当方から挨拶の後、Dr. Dina からプロジェクトの課題について、対応を行い、課題を解決することが重要として、特にジェンダー関連の取り組みについてコメントがあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 特に上エジプトのような地方においては、適切に影響のある地元の女性メンバーを探しだして活動を行い、他の女性を巻き込むことが必要である。また、「よそ者」が説明しても受け入れない傾向がある。外部の教育のある人間が、教えてやるという態度ではダメだ。村落の住民の価値観を尊重し、具体的な成果を目に見える形で示すことで信頼を得ることができる。一などとのアドバイスがあった。 ● また、年が明けてすぐに、アレキサンドリアで、IFADが行っているSAILプロジェクト（女性の活動がうまくいっている）にプロジェクトのC/Pが視察に行っており、その報告結果を参考にして、このプロジェクトの課題の克服に役立てることができるのではないかと考えており、報告を待っている状態である。 ● プロジェクトの中間レビューについて日程とメンバー、目的などを説明。 ● その後、中間レビューミッションの日程や、調査の目的などを当方から説明。また、ミッションが到着する15日には、プロジェクト・ダイレクターとマネージャーとの面談ができるように支援してほしいとの意向を伝え快諾された（先方の都合で15日の面談はかなわなかった）。

面談録③

面談先	アシュート県農業事務所
日 時	2017年1月10日 9:30～
場 所	アシュート県農業事務所専門家執務室
先 方	C/P チーム〔Ms. ESSA Sherin Hussein Ali (チームリーダー) 他全8名〕 (畑専門家、平山専門家、山本専門家)
わが方	Mr. Mohamed Adam (JICA エジプト事務所)、Mr. Taha (通訳)、東野 (評価分析)
要 旨	<p>当方より、中間レビューの目的と活動への協力の謝意。その後、質疑応答。</p> <p>Q: プロジェクトが始まってから2年半となった。この間に、対象村の農家の変化はあったか？</p> <p>A: あったが、村によって程度の差はある。これから訪ねる第1サイクルの Abnoub 村は、保守的な傾向が強く、他の対象村落と比べると変化の度合いは少ない。農民は伝統的作物への執着が強い。農民は、教育を受けていない人も多く、市場志向型の農業の概念の理解が難しかったと思う。しかし、プロジェクト開始から2年半たって、変化の兆しがあるのも事実である。</p> <p>Q: C/Pとしてプロジェクト活動を行っていくなかで課題となっているのは何か？</p> <p>A: 予算がないこと、交通手段がないことが課題である。そのほか、エジプトの政府として、市場の情報を取り扱う機能がないことは問題であると思っている。</p> <p>Q: 対象村にはどれくらいの頻度で訪問しているか？</p> <p>A: 1つの村を週に1回は訪ねるようにしている。第3サイクルでは4カ村になるので、週に4回以上は訪ねて、状況を確認している。</p> <p>Q: 農業局の他の業務との兼ね合いで、プロジェクトの業務に時間が割けないということはあるか？</p> <p>A: C/P 同士で連携して業務を担当しており、うまくやれている。</p>

面談録④

面談先	Abnoub 村農民、普及員、農協職員
日 時	2017年1月10日 11:00～
場 所	Abnoub 郡農業事務所
先 方	農民9名、普及員4名、農協職員5名 (畑専門家、平山専門家、山本専門家)
わが方	Mr. Mohamed Adam (JICA エジプト事務所)、Mr. Taha (通訳)、東野 (評価分析)
要 旨	<p>畑専門家より中間レビューの目的の説明。その後、質疑応答。集まった農民は、プロジェクトの研修にはほぼ皆勤している農家ということであった。</p> <p><u>農民との質疑応答</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2016年の夏作では、タマネギ、トマト、キュウリ、テンサイ、緑豆、バジル、トウモロコシなどを栽培した。 ● 2016年の夏作は、市場価格が高くなっていたこともあり、多くの農民が利益を出したとのこと。現時点では、データもなく、技術移転による収量の増加や、市場情報の活用がどのように収益増に貢献したかは不明。 ● プロジェクト以前から園芸作物を栽培していた農家も多いが、研修を受けて収量が上がった。また、エジプト政府が、優良種子や肥料について補助金を出すべきであるなどの意見を訴える人もいて、市場志向の農業を進めていく活動に積極的に参加している一方、政府の補助金による救済を求める考えは根強い模様。また、農協が、農民の作物の出荷・販売を支援すべきだとの意見も。 <p><u>普及員と農協職員との質疑応答</u></p> <p>Q: この2年半で、担当地区の農民の考え方は変わったか？</p> <p>A: エジプトの農業は、古くから今のやり方で行われてきており、短期間で変わるものではないと思う。</p> <p>Q: プロジェクトの活動で効果的であったのは？</p> <p>A: デモファームは、目に見える形でプロジェクトの効果を示せるので良いと思う。また、プロジェクトの研修では、市場情報の調査や、新たな栽培技術を学べて、農民の指導に以前より自信をもって臨むことができるようになった。</p>

面談録⑤

面談先	Man Floom 村農民、普及員、農協職員
日 時	2017年1月10日 13:30～
場 所	Man Floom 郡農業事務所
先 方	農民10名、農協職員9名、郡職員1名 (畑専門家、平山専門家、山本専門家)
わが方	Mr. Mohamed Adam (JICA エジプト事務所)、Mr. Taha (通訳)、東野 (評価分析)
要 旨	<ul style="list-style-type: none"> ● 集まった農民は、マーケティング協議会のメンバーであり、プロジェクト活動に強い関心を示している人たち。 ● ニンニク、ジャガイモ、タマネギ、クミンなどのデモ農場を設けている。 ● これまで、プロジェクトの研修を受け、また、普及員による技術指導を受けて、作物の栽培に大変役立っている。プロジェクトの活動をもっと広げてほしいとの要望があった。

	<ul style="list-style-type: none"> ● 農協の職員からは、農民との連絡や村の視察のコストがかさむものの、農協からは一切費用の支給がないため、自費で負担しているが、どうにかならないかとの相談を受けた。 ● 協議後、デモ農場を視察（ジャガイモの収穫間近であった）。
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

面談録⑥

面談先	Sanabo 村農民、普及員、農協職員
日 時	2017年1月11日 10:40～
場 所	Dryout 郡普及センター
先 方	農民6名、普及員、農協職員他が参加。(畑専門家、平山専門家、山本専門家)
わが方	Mr. Mohamed Adam (JICA エジプト事務所)、Mr. Taha (通訳)、東野 (評価分析)
要 旨	<p>農民は、キャベツ、キュウリ、ダイズのグループ栽培を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 5名のグループをつくって栽培を行ったケースがあった。グループのメンバーは自分の隣人で構成した。 ● プロジェクトから栽培法（灌漑、施肥等）を学び、栽培技術が向上し、収量も上がった。今までは、作物に過剰な水を与えていた。 ● また、市場調査も行って大変勉強になった。通常、キャベツ1つで2～4ポンドだが、今回は5ポンドで売れた。 ● しかし、グループでの作業は取りまとめを担当する人間がいないと大変であり、もう継続する気はないとのこと。 ● 打合せに参加した6名は、プロジェクトの研修にも熱心に参加したいいわば優良農民で、他の農民が聞きに来れば、喜んで園芸作物栽培の技術を教えるとのことであった。 ● 一方、打合せ場所にいた別の農民に聞いたところ、園芸作物を作るのは大変なので、自分はコムギを作るとのことであった。 ● 新しい作物としてニンジンの栽培に取り組んでいる農家もいるとのこと。 ● この村では、以前から、テンサイ、タマネギ、トマト等園芸作物の作付けをしている農家も多いとのこと。 ● 農協の普及員からは、プロジェクトの研修が、優秀な講師を招いて行われて効果的であったことが述べられた。また、このあたりの農家は耕地が狭小であり、伝統作物を園芸作物に転換することで生じることで生じるリスクは負えないだろうとの見解であった。 ● マメとコムギの混作の栽培を見学。

面談録⑦

面談先	Tetalia 村農民、普及技師、郡農協職員
日 時	2017年1月11日 11:50～
場 所	EL Kosya 郡農協
先 方	農家4名、普及技師1名、郡農協職員1名、農協理事長 (畑専門家、平山専門家、山本専門家)
わが方	Mr. Mohamed Adam (JICA エジプト事務所)、Mr. Taha (通訳)、東野 (評価分析)
要 旨	<ul style="list-style-type: none"> ● 農民は、2016年の夏作で、ゴマ、ヒマワリとトマトの混作、ヒマワリなどの栽培を行った。また、デモ農場を運営した。 ● ヒマワリは政府の推奨作物だったが、収穫量の規模が小さかったため、村まで買い取りにくる仲買人が現れず、売値は低調であった。 ● ヒマワリとトマトの混作は好調で、トマトの収穫期をずらすことができ、高値で販売できた。 ● 普及技師からは、1年のサイクルでの支援は短すぎるので、2年にすることを検討してほしいとのこと（当村の普及員は、非常によく指導をする人とのこと）。 ● Tetalia 村は、特にヒマワリとトマトの混作のデモ農場の栽培が良好で、他の村からの見学者も多かった。そこで、農家と農協に、独力でデモファームを運営できないか聞いたところ、土地を提供する農家はいるが、作物の種子と肥料の補助、そして営農の支援がなければ農場の設置は難しいとの回答であった。農協に資金の確保ができないかを問うたところが、やはり資金の調達は難しいとのことであった（0.5フェダンで5,000ポンド程度がかかるとのこと）。 ● その後、女性グループの活動（ハト飼育）の見学と、ニンニクのデモ農場の見学。 ● 女性グループは、飼育したハトをグループ員で分けて個人で飼育を開始する際に、グループの飼育小屋として設置した小屋を廃棄した由。理由は「すべての参加者が平等でなくてはいけないから（特定のものが、プロジェクトで設置した小屋を所有するのは、他のメンバーからねたみを買う）」とのこと。

面談録⑧

面談先	ミニア県農業事務所
日時	2017年1月12日 9:00～
場所	ミニア県農業事務所専門家執務室
先方	C/P チーム (Ms. MAHMOUD Maha Abdelazim Elsaadi (チームリーダー) 他全6名) (畑専門家、平山専門家、山本専門家)
わが方	Mr. Mohamed Adam (JICA エジプト事務所)、Mr. Taha (通訳)、東野 (評価分析)
要旨	<ul style="list-style-type: none"> ● 農民の考え方はプロジェクトの研修や、ビジネスダイアログなどの成果で変わってきていると思う。すなわち、「作ってから売る」から「売るために作る」である。 ● 技術研修によって、収量が上がっている。しかし例外もある。例えば、Manshet Maghalka 村 (Mallawe 郡) では、2015年の夏作にメロンを栽培したが、夏の猛暑によって収量が減った。 ● 第1サイクルと第2サイクルのなかで、C/P としては、Manshet Semhan 村 (Dayre Muas 郡) が一番良いパフォーマンスを見せたと思う。ここは、収量も上がっているし、普及技術者が活躍している。 ● デモ農場は、1年で終わっている。農民にそれを自主的に継続させるのは難しい。農地に余裕がないこと、また、投入剤 (種子、肥料) と技術支援の問題がある。

面談録⑨

面談先	El Balad 村農民、普及員、農協職員
日時	2017年1月12日 11:15～
場所	Abo Korkus 郡事務所
先方	農民17名、普及関係者2名、農協関係者7名、郡農業事務所1名 (畑専門家、平山専門家、山本専門家)
わが方	Mr. Mohamed Adam (JICA エジプト事務所)、Mr. Taha (通訳)、東野 (評価分析)
要旨	<p>農民からの聞き取り (コムギ、ジャガイモ、テンサイ、ニンジンなどを栽培)</p> <p><u>研修に継続して参加した2名の農民</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 研修から栽培技術と市場調査などの方法を学んで大変役にたったという意見が出された。 ● ビジネスダイアログで、企業と話をしても、要求 (作物の規格や生産量) を言われるだけで、どれくらいの価格で買い取ってくれるのかなどは教えてくれなかった。 ● 普及員からの指導は不十分である。 <p><u>研修に3回のみ参加した農民</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新しい技術の習得には興味があり、研修にも参加したかったが、農作業の時間帯には研修に参加できない。研修を朝行ってくれれば、参加できるが。 ● プロジェクトから種子や肥料の支援がほしい。 <p><u>普及員、農協職員などからの聞き取り</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクトの実施で農民の考え方は変わっていると思う (10人中9人が変わった)。 ● 農民の考え方として、成功例をみれば、こぞって追従するという面がある。 ● デモ農場は、その意味で、大変有効だが、小規模農家は土地に余裕がないので、自分の土地でデモ農場を設けることには抵抗がある。リスクは避けたいから。 ● 大規模の農家を含めてプロジェクトの対象として、デモ農場を設けて、小規模農家に成功例として見せるのが良いのではないか?

面談録⑩

面談先	Monshet El Maghalka 村農民、農協職員、普及員
日時	2017年1月12日 13:30～
場所	Monshet El Maghalka 村農協
先方	Monshet El Maghalka 村農民9名、農協職員4名、普及関係者2名 (畑専門家、平山専門家、山本専門家)
わが方	Mr. Mohamed Adam (JICA エジプト事務所)、Mr. Taha (通訳)、東野 (評価分析)
要旨	<p><u>農協理事</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 小規模農家を脱却するためには、契約栽培などの導入が必要と考えている。 ● プロジェクトの研修で、技術的にも、栽培に対する考え方も変わったと評価している。 ● プロジェクトの開始後、データと作況の観察から、農家は、この2年間で50%程度収入が増えているとみている (ただしプロジェクトが行った第1サイクルの評価調査では、Manshet El Maghalka 村では、収入が減っているとのデータが示されている)。 ● サツマイモの契約栽培を試みたが、契約条件が明確に定められておらず、販売時にトラブルがあった。これを教訓として次回は臨みたい。 <p><u>農民からの聞き取り</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● Manshet El Maghalka 村には、大規模な製糖工場があり、サトウキビ畑が多く面積を占めている。政府の方針で、大量の水を消費するサトウキビからテンサイへの転作が奨励されているが、ここではサトウキビがメインの様子。 <p><u>研修参加農民</u></p>

<ul style="list-style-type: none"> 栽培作物は、キャベツ、ナス、サツマイモ、テンサイ、メロン等。 研修に参加して学んだことを生かした結果、メロンの作付けと出荷時期を2週間から3週間ずらして行い、高い価格で売ることができた。 研修に参加したのは、新しいことを学びたかったから。また、収益を上げたかったから。他の農民にも、機会があれば、習得した知識を教えたい。 <p>研修参加していない農民</p> <ul style="list-style-type: none"> 栽培作物は、コムギ、豆、ベルシウム、テンサイ、サトウキビ等。 参加しなかった理由：研修の存在を知らなかった。機会があれば参加したい。 プロジェクトのデモ農場は、全員が見たことがないと言う。これまで知らなかった。[デモ農場の場所が、幹線道路から少し外れているとのことだが、デモ農場の効果を上げるためにも、多くの農民に周知する工夫が必要ではないかと思う。他の村落でも、デモ農場の看板が撤去されているケースがみられた（盗難を恐れて農民が家に持ち帰ることもあるとのこと）]。 農協の理事は、農民に知らせる努力をしたと言い、知らないのは農民の落ち度だという趣旨の説明があったが、ミニア県は、プロジェクトの研修実施時にも、ミスコミュニケーションで、農民に参加の連絡が行っていなかったことがあった由。県C/Pを含め、プロジェクト活動参加への意欲が、アシュート県と比べて低い感あり。

面談録⑪

面談先	JICA エジプト事務所
日時	2017年1月15日 9:30～
場所	JICA エジプト事務所会議室
先方	松崎次長
わが方	仲田、久保田、相川、小河、東野（以上/調査団）畑、山本、平山（以上専門家）
要旨	<p>仲田団長より表敬と日程の説明等。 松崎次長より以下のコメントあり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回の中間レビューでは、現状の確認に基づいて、PDMの指標の見直しも含めて情報の整理を行うことで、C/Pにとっても専門家との共通の認識を得ることができ、有意義であると思われる。 <p>Q：ジェンダー活動について、ケニアのSHEPとの違いは何か？ A：ケニアのSHEPは男女共同参画ワークショップなどを通じて、男性が女性との協働の意義を見いだすなどの行動変容に結びついた。一方、上エジプトの場合は、保守的で、女性の農作業の参画が限定的で労働者として男性と一緒に作業し得ない傾向にある。そのため、女性の主体的参加が可能な活動として屋内でもできる小動物飼育（ハト、ウサギ）を行ってきた。教訓として、それぞれの国・地域の環境に応じたアプローチの選択が必要であると思う。（畑） エジプト事務所としても、アラビア語で地域の人に、プロジェクトの成果を発信することが必要と考えており、担当の山崎所員とも協議しているところである。 </p>

面談録⑫

面談先	MALR 関係者
日時	2017年1月15日 11:20～
場所	MALR 国際農業関係局会議室
先方	Wafek Mohamed Askaer (プロジェクトマネジャー)、カイロのC/P (9名)、Dr. Dina (国際関係局局长) Mrs. Manal Zein El-Abdeen, Mr. Ahmad Salah Ibrahim
わが方	仲田、久保田、相川、小河、東野（以上/調査団）畑、山本、平山（以上専門家）
要旨	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介の後、Dr. Dinaより所感表明あり。 エジプト・日本側双方の努力により、プロジェクトが進められてきたものの、いくつかの問題がみられる。その問題はどうか解決して、先に進んでいくかが大事である。Dina氏としては、毎月のプロジェクトのモニタリング（詳細ではないが、密接(close)な）を通じて、何か課題があるかないかについて検証することを提案したい。そして何か問題があれば、MALRとしてすぐに対応する体制を取りたい。特に、プロジェクトの後半ではそうするつもりである。モニタリングの対象は技術だけでなく、その他の問題も含む。 MALRとしては、すべての部局と、大学などの力も動員して、問題を解決するようにしたい。これから半年の間で、(エジプト側の予算問題についての) すべての問題が解決するだろう。 仲田団長より中間レビュー調査団の目的として以下の3つを説明：①プロジェクトの実績の確認、②5項目による評価、③提言と教訓、である。これまで2年半の間、日本人専門家がミニア県とアシュート県のC/Pとプロジェクト活動を進めてきた。プロジェクトの目的は小規模農家の従来の営農を市場志向型に変えていくことである。またジェンダー主流化も重要な活動である。小規模農家の考え方が、ビジネス・ダイアログや市場調査などのプロジェクト活動を通じて変わっていくことを期待する。栽培技術の移転も行われている。 対象県と郡の農協が小規模農家の活動をモニタリングしている。先週、われわれのミッションのコンサルタント（評価分析団員）が対象村落を視察して、ポジティブなインパクトが出ているとの報告も

	<p>得ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> しかし、同時に課題もみえており、地方の普及員の活動のための予算が限定的であること、また、中央政府がこれらの地域の行政官の活動を支援するかも課題である。 以上の仲田団長の説明に対し、Dr. Dinaから、問題は解決した (Problem is solved.) との回答があった。Dr. Dinaによれば、エジプト政府はプロジェクト活動の支援にコミットするとのことで、そのための文書 (プロジェクトの活動、期間などを含んだ資料) を財務省に提出する。 デルタ地域のIFADのプロジェクト (Huge success storyと強調) と、その後継案件である、MENIA 県北部のBENI SUEFにおけるSAILプロジェクトの説明あり。カイロのISMAP C/P5名を視察に送っており、報告を待っている状況である。ジェンダー主流化活動も含まれている。農民は、最初に種子や必要な資材を与えられて、耕作を行い、その後耕作の出来を評価 (Grade A、B、C...) されて、評価に基づく収入を得るなどの手法が取られている。 小河団員より：MALR中央の実施機関はASFISとCentral Administration for Cooperativesであり、普及部門 (AES) が入っていないが、今後の普及活動の予算を扱うのはAESやARCであると理解しており、普及部門がC/Pとして位置づけることが望ましいのではないかと？ <p>A：Dr. Dinaより：予算の流れの詳細は承知していないが、詳細な説明を書面でもらえれば、AESについて、対応を試みることにしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 久保田団員より：カイロのC/PにはGender Mainstreamingのフォーカルポイントは配置されているのか？ <p>A：Dr. Dinaより：今はないが、今週中に任命する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 仲田団長：MALRに小規模農家の契約栽培を支援する組織ができたのか？明確な回答なし。畑専門家によればコミュニティのトラブル解決を支援せよという趣旨のdecreeはあるとのこと。
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

面談録⑬

面談先	日本人専門家
日 時	2017年1月15日 15:00~16:30
場 所	JICA エジプト事務所会議室
先 方	畑、山本、平山専門家
わが方	仲田、久保田、相川、小河、東野
要 旨	<p>Q：農家は営農計画ができるようになったのか？</p> <p>A：困難である。識字率が低い、また、普及員もフォローできていないのが現状である。農協は、ビジネスマインドをもった人が少ない。なかにはやる気のある理事を中心に事業をやっている場合もある。バジルの乾燥を行っている農協もある。しかし、職員の給料が政府から支給されているほか、コムギの取り扱い手数料や肥料の販売などの収益もある。また、組合員からの会費もあるため、新たな事業展開をしなくとも現状維持はできる環境である。一方、エジプトの小農は、ダムで洪水制御されたナイル川からの灌漑水の恩恵を受けており、天災による被害などを受ける可能性が低く、農作物の収量も安定している。そのため、リスクを冒して作目を転換する必要性が低いという面もあるのではないかと？</p> <p>Q：マーケティング協議会について。</p> <p>A：マーケティング協議会は、幅広く関係者を募ることを目的としている。農協だけではプロジェクト活動の実施主体として弱いと感じている。協議会が議論をして、ある作物を栽培したいと希望すれば、その作物の作業部会を設置して、技術的な指導を受けるという流れを想定している。個別農家への普及は作業の効率が悪いと、マーケティング協議会での技術移転で、効率性を担保するというねらいもある。</p> <p>エジプトの村落には、CDA (Community Development Association: エジプトのNGO法に基づいて登録されたNGO) があり、農民のコミュニティ活動 (保健、教育等) を支援している。宗教などの活動も含まれている (Ministry of Social Solidarity)。</p> <p>Q：小規模農民の契約栽培を支援する部署について、説明してほしい。</p> <p>A：MALRの中央には、小規模農民の契約栽培を支援する部署はないと理解している (コミュニティのトラブル解決を支援せよという趣旨のdecreeはある)。先週の現場視察でも、MALLAWEの農協理事は、契約書の作成にはMinistry of Justiceの県事務所を頼りたいと述べていた。MALRの中央にそのような機能があることは周知されていないと考えられる。</p> <p>Q：女性活動で小動物 (ウサギやニワトリ) が死亡したのはなぜか？</p> <p>A：当初、対象地域の気候にあわない種類の動物を選択したほか、誤って過大なワクチンの投与を行ったことが理由として挙げられる。ハトについてはうまくいっている。1年に3回程度産卵するので、順調にいけば、増殖が可能だと思うが、女性たちは、ある程度 (10羽?) 増えるまで、販売をしないかもしれない。</p>

面談録⑭

面談先	Barmasha 村農民
日 時	2017年1月16日 11:45～
場 所	El Edwa 郡 Barmasha 村農協
先 方	農民21名（うち女性10名）、普及関係者2名、農協職員2名（畑、山本、平山専門家）
わが方	仲田、久保田、相川、小河、東野
要 旨	<p>11:45～仲田団長より挨拶。ミッションの訪問の目的を説明。自己紹介。</p> <p>以下、調査団からの質問と回答の概略。</p> <p>Q：これまでどれくらい研修に参加したか？</p> <p>A：ある農民が3～4回との回答。内容はビジネス・ダイアログ、営農計画策定、ワークショップ等。農民は全部で10名参加した、ビジネス・ダイアログに参加したものが1名。市場調査に参加したものはなかった。</p> <p>Q：栽培している作物は何か？</p> <p>A：ゴマ、トマト、キュウリなど。</p> <p>Q：これらの作物を選んだ理由は何か？</p> <p>A：市場性の高い作物であるから。また、生産性が高い作物であるから。仲買人によって、これらの作物を栽培した方が良いと勧められることも理由の1つである。トマトの場合、仲買人に作付けを勧められたが、作付けをした後に、その仲買人が村に来なくて、買い取りをしてもらえなかったことがある。キュウリについても同じ理由で栽培している。これらの農民は全員がトマト、キュウリ、ゴマについては、プロジェクト以前から栽培を行っていた。</p> <p>Q：研修を受けて栽培技術は向上したか？</p> <p>A：種子が良く（耐病性品種）、栽培技術研修を受けたため、収量が向上した。</p> <p>Q：市場調査の結果、栽培時期を変えた例はあるか？</p> <p>A：10日ほどずらしたという農民がいたが、変えなかった者も。昨期をずらして、市場価格は上がったが、高温のせいか病気が出て、収量は減ったため、収益は悪かったケースがあった。農民からは、普及員からのより手厚いフォローアップが必要だとの意見が出された。</p> <p>Q：市場調査をこれから自分で継続してやるか？</p> <p>A：自分たちは市場についてはよく知っている。必要なのは仲買人とのコンタクトを増やすことだ。市場価格は自分たちでは決められないし、作付けしても収穫時には下がっていることもある。</p> <p>Q：契約栽培の手続きの進め方を知っているか？</p> <p>A：知っている。仲買人が村に来て話を進めるケースがある。（近隣にニンニクの産地として有名な村があり、契約栽培が盛んとのことで、情報を得ている可能性がある。畑専門家）</p> <p>Q：研修に参加しなかった農家に、その理由を聞いた。</p> <p>A：知らなかった。契約栽培以外は興味がない。</p> <p>Q：研修で学んだこと：適切な植栽間隔、種子、マーケティング。</p> <p>Q：女性活動はどう思うか？</p> <p>A：良いと思う。ウサギの飼育など、利益が出て良いと考える。女性が屋内でやれるのもいい。その他、大型家畜（牛）の飼育による酪農製品の生産なども考えてほしい。</p>

面談録⑮

面談先	Gendaya 村農民
日 時	2017年1月16日 13:45～
場 所	Mazza 郡 Gendaya 村農協
先 方	農民15名（女性6名）、農協理事（畑、山本、平山専門家）
わが方	仲田、久保田、相川、小河、東野
要 旨	<p>（女性参加者については、久保田専門家による別途協議）</p> <p>仲田団長より、挨拶と訪問の目的を説明。自己紹介。</p> <p>参加している農民の営農形態の変化や、市場志向型農業の導入についての問題は何か？</p> <p>農民のうち5名は皆勤、他の5名は研修には参加していないとのこと。</p> <p>参加した活動の中身は、市場調査、ビジネス・ダイアログ、研修などすべて。</p> <p>技術の他、仲買人とのコンタクトについて学んだ。</p> <p>Q：研修で最も良かったのは？</p> <p>A：マーケティングとデモ圃場。栽培作目は、タマネギとトマト他。タマネギについては、市場調査で価格が良いと知ったので栽培している。</p> <p>また、仲買人からの勧めという点もある。栽培した作物はミニア県内のハバシ市場で販売する。ジャガイモは生産量が多く、また、需要もある。プロジェクトの研修に参加して、仲買人とのネットワークができた。ジャガイモについても、研修でこれまでとは異なる品種を用いて栽培した。タマネギの品種や品質についても市場調査で学ぶことができた。</p> <p>Q：研修で学んで栽培法を変えた例はあるか？</p>

	<p>A：土地の耕作（land preparation）や植栽間隔、品種、施肥方法などを変えた。タマネギの栽培時期をずらした農家あり。通常は4月末に収穫だが、3月末に収穫したものもいた。タマネギの販売は、カイロや、ファウンなどの市場価格を検討し、高いところで売るといふ農家もあった。</p> <p>Q：収穫時期をずらして収益は上がったか？</p> <p>A：上がったとの回答（ただし、この村は第3サイクルの参加なので、プロジェクトの活動ではまだ収穫後の作物を販売していない）。</p> <p>Q：栽培技術には自信がもてたか？</p> <p>A：栽培技術には問題はないとの答え。</p> <p>その他：グリーンハウスの導入を支援してほしいとの要望表明あり。</p> <p>Q：参加した農家と、参加しなかった農家の違いは何か？</p> <p>A：参加した農家は、市場調査の方法を学んだ。</p> <p>Q：他の農家にもプロジェクト活動への参加を勧めたいか？</p> <p>A：他の農家に勧めたいし、自分たちでも再度市場調査を行う意思がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● マーケティング協議会のメンバーが3名出席しており、今後活動を勧めるなかで、農民の参加を呼びかけたいとのこと。 ● その後、デモ農場見学（タマネギ、ジャガイモ）隣の畑では、コムギとホウレンソウの混作を実施中。また、この季節でもズッキーニを栽培しており、栽培技術は高いと思われる。 ● 15:20～トライアル農家（参加農家以外でも、自分で園芸作物を作りたい農家に種子を提供して、トライアルを行う農家）のタマネギの圃場を見学。
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

面談録⑯

面談先	ミニア県農業事務所
日時	2017年1月17日 9:30～
場所	ミニア県農業事務所専門家執務室
先方	ミニア県のエジプトC/P4名と普及部長（畑、山本、平山専門家）
わが方	仲田、久保田、相川、小河、東野
要旨	<p>仲田団長よりミッション来訪の目的説明。自己紹介の後、協議。内容は概略以下のとおり。</p> <p>Q：今までの活動はビジネス・ダイアログ、市場調査、営農計画策定、ジェンダー主流化活動など実施されてきているが、インパクトのあった活動は何か？</p> <p>A：プロジェクトの活動内容を紹介するワークショップでは、農民の参加への意欲を促した。また、ベースライン調査では、プロジェクト以前の農民の栽培作目など、現状を確認した。また、営農計画作成では目標収入を設定した。それに加えて、市場調査も有効であった。プロジェクト活動に参加して、農民はこれまでの、作ってから売るのではなく、売るために作るという方向に変えようと試みている。農民は、これまで、村落の近くの市場で作物を売ることが普通だったが、プロジェクト終了後は、その他の場所でも販売するようになった。また、ビジネス・ダイアログでは仲買人や企業とのネットワークを構築した農民もいる。技術研修も有益なものであった。技術研修の結果、新しい品種、施肥方法、殺虫剤の導入、耕作時期の調整などが有益であった。また、農業事務所は、普及員・郡・農協と密接に連絡を取っており、問題があれば、県農業事務所にコンタクトしてくる。小動物飼育については、ミニア大学農学部獣医師に支援を受けている。女性の経済活動は、村落にとって良いことであると認識している。</p> <p>ビジネス・ダイアログでは、仲買人や輸出業者と農民のつながりができた。これを維持する役割は県と農協である。契約栽培は、まだ成功していないが、原因は契約書類作成の不備であった。契約企業にサツマイモの苗を提供され、栽培をしたが、品質規格を満たす作物が20%ほどであった。残りの作物を売るのがに苦労したとのことであった（村内で販売した）。カイロの市場をねらう場合、運送費が高い。また、業者から求められる生産量を個人の農家では対応できない場合がある。</p> <p>デモ圃場のインパクトは大きかった。ミニア県のデモ圃場の効果で、94農家で収入が増えたとのデータが得られた。</p> <p>Q：昨日訪問したBarmashaとGendaya村の村人の様子は対照的であった。その違いの背景は何か？</p> <p>A：Gendaya村の農民は栽培技術も教育程度も高い。プロジェクトへの参加意欲も高く、対象村落のなかでも非常によくやっている。</p> <p>Q：BarmashaとGendaya村の村人の選択の方法はどう変化したか？Gendaya村は他の村との技術交流の良い事例となると思う。</p> <p>A：選択方法は基本的に変わらないが、第3サイクルではトライアル農家を30名ほど受け入れている。他の村との技術交流は良い考えだと思う。プロジェクトは成果を上げていると思うが、村人の問題は解決されていない。日本での研修では、村人が作物ごとに集荷して販売所へ運搬するのを見たが、ミニアでも小型の車両の導入に支援をお願いできないか？エジプト政府の仕事といわずに検討してほしい。女性活動では、ハトの飼育は成功している。またアヒルを新たに飼育するとの話もある。</p> <p>Q：ミニア県のスタッフは女性活動の小動物飼育を技術的に支援できるのか？</p> <p>A：女性の普及員もいるし、畜産を担当している普及員もいるので可能である。今月から4月の間で、定期的に家畜飼育の意識啓発のためのフォーラムを立ち上げる予定である。</p>

	<p>Q：プロジェクトの進捗はカイロのMALRに報告されているのか？</p> <p>A：1年目の年次報告は実施したが、2年目はいまだであるが、すぐに対応したい。農民の意識の変化には時間がかかる。プロジェクトの予算が厳しいし、普及員の数も減っている。</p>
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

面談録⑰

面談先	Manshet Semhan 村農民
日 時	2017年1月17日 11:20～
場 所	Dyre Muas 郡事務所
先 方	農民30名（女性9名）、普及関係者2名、農協職員1名（畑、山本、平山専門家）
わが方	仲田、久保田、相川、小河、東野
要 旨	<p>自己紹介の後、質疑応答。</p> <p>Q：プロジェクト活動で良かったのは？</p> <p>A：栽培方法を学べたこと、市場調査で作物の価格の変化を知ったことなどである。市場調査で栽培する作物を決めたという農民がいる一方、市場価格はミスマッチングであったと文句を言う農民も。農民の栽培する作物はキャベツとトマトなど。「市場調査をしても、契約栽培などを行わないと儲からない」「契約栽培の前に、契約書にすることが必要だ」「綿を作ったが、買い手が見つからなかった」など。技術研修は役に立ったが、2016年の肥料の値上げにより痛手を受けた。仲買人や業者は大量の作物の生産を要求する。</p> <p>Q：研修に参加したのは何名か？</p> <p>A：6名。営農計画作成時に農民同士で協議し、トマトを栽培すると決めた。トマト栽培の経験が以前からあり、収益性も高いことから決定した。サイズも、栽培にコストがかからず、需要が多いことから栽培する農家がいる。プロジェクトのことを、これまで知らなかったという農家もいる。このあたりの農家は、サトウキビの生産を行っている。夏作の園芸作物は水の消費が大きく、栽培時のコストもかかるので、導入の判断が難しい。サトウキビは土壌の劣化ももたらすので、技術的、コスト面の課題が解決できれば園芸作物も良いと考える。</p>

面談録⑱

面談先	Manshet Maghalka 村農民（サツマイモ契約栽培農家）、農協、普及員
日 時	2017年1月17日 14:10～
場 所	Mallawe 郡 Manshet Maghalka 村農協
先 方	農民7名、農協関係者5名（畑、山本、平山専門家）
わが方	仲田、久保田、相川、小河、東野
要 旨	<p>Q：契約栽培に係わる顛末を教えてください。</p> <p>A：業者の選定を行って、Agrifoodという会社と取引をすることとした。同社の副社長が村に来て、good words（好条件）を連発した。種子の無料配送、運送費の負担などを申し出てきた。また、条件に合えばすべて買い取るとの約束もした。実際は、苗も、運送費も当方が支払うこととなった。栽培に際して、技師を派遣して技術的な支援をするとの話であったが、2回来たものの、十分なサポートとはいえない。</p> <p>結果、会社の買い取り基準に満たないとして、収穫の20%程度しか買い取ってもらえなかった。栽培した品種は、この地域では需要がなく、残りの80%の販売に苦勞した。契約条件をきちんと書類で作成しなかったことが問題の背景である。次回は、きちんとした会社を選んで、契約内容も詳細に定めて、再度契約栽培を行いたい。</p> <p>肥料価格と人夫の労賃も上昇しているのは痛い。</p> <p>Q：女性の活動をどう思うか？</p> <p>A：経済的な便益を得られるので良い。例えば、マッシュルーム栽培は、利益も得られて良いと思う。女性の活動を支援するために、農協を情報交換の場として提供するなどはやぶさかでない。（この村は大変保守的だが、プロジェクト開始後、女性が農協を訪れるなど変化がみられるとのこと）</p>

面談録⑲

面談先	アシュート県農業事務所
日 時	2017年1月18日 9:00～
場 所	アシュート県農業事務所専門家執務室
先 方	C/P チーム [Ms. ESSA Sherin Hussein Ali（チームリーダー）他全8名] （畑専門家、平山専門家、山本専門家）
わが方	仲田、久保田、相川、小河、東野
要 旨	<p>Q：プロジェクト活動で効果があったものは何か？</p> <p>A：ToT と技術研修、デモ圃場による栽培実施訓練が良かった。農民による市場調査が良かった。伝統的な作物から園芸作物への作付け転換をした農民もいる。例えば、この県では、ジャガイモはあまり一般的でなかったが導入した農家もいる。新たな栽培方法を学んだ農民も多い。第1サイクルでは、</p>

	<p>農民のモチベーションを上げるのが難しかった。AbonoubやMoshaは伝統的な農民であり難しかった。農民の意識を変えるのは難しい。プロジェクトの予算が頼りの活動であった。農協の職員も意識を変えてもらい、農協にプロジェクト終了後も活動を支援してもらわないと困る。小規模農民が持つ農地は、面積が狭小であり、コムギやベルシウムは自家消費用であり、それを作付け転換して利益を出すという決断はなかなかできない。</p> <p>女性はグループ活動をしたがらない。農協職員に経済的なインセンティブがない。また、MALRの財政的な課題も阻害要因である。</p> <p>ビジネス・ダイアログでは、企業をアシュートに招くわけだが、交通費や宿泊費の支給が問題となる。</p> <p>第3サイクルではManflood村ではトライアル農家のシステムを導入した。</p> <p>契約栽培の業者は大規模な生産量を要求する。第1サイクルと第2サイクルではビジネス・ダイアログは成功とはいえないと思う。</p> <p>Q：農家の考え方、対応の違いの原因は何か？</p> <p>A：対応の違いは、大部分は個人的な性格、考え方の問題も大きい。農民には成功事例を目の前に示す必要がある。</p> <p>Q：プロジェクトの進捗を評価するためのデータの収集はどうなっているか？</p> <p>A：ベースライン調査でプロジェクト開始時のデータは取得しており、その後の変化のためのデータを取得している。デモ圃場の設定の基準は、プロジェクトへの参加の意欲などを見て判断している。マーケティング協議会は、農民と栽培作物の選択をしている。農協が基準に基づいて決めている。</p> <p>Q：プロジェクトによるインパクトの見えるものは何か？</p> <p>A：トラクターを買った農家、子どもの教育、モーターサイクルを購入した例などがある。Bany MoreやTetaliaでは、ウサギとハトが成功している。女性とは、電話でコミュニケーションを図るようにしている。</p>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

面談録⑩

面談先	Mosha村農民、普及員、農協
日時	2017年1月18日11:00～
場所	Assuit郡Mosha村農協
先方	農民14名参加（12名は農家だが農協の職員も兼ねている） （畑専門家、平山専門家、山本専門家）
わが方	仲田、久保田、相川、小河、東野
要旨	<p>Q：インパクトのあった活動は何か？</p> <p>A：市場調査、技術研修が良かった。また、小規模農家は土地が狭小で、仲買人とは対等に話をできない。デモ圃場も効果があった。研修には14名中、9名が参加した。トマトとキュウリとダイズの栽培。ダイズの耕作時期を調整した（ミニア県の収穫が終わってアシュート県の収穫が行えるようにした）結果、販売価格がkg当たり1ポンドから2～3ポンドに上昇した。それを見て、多くの農民（数百名と農民が主張）がその手法を取り入れているとのこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● トマト栽培に挑む農民もいる。 ● 市場調査は、続けており、電話で話している。村落で仲買人とのコンタクトもある。 <p>Q：グループを作って契約栽培のネゴをする意図はあるか？</p> <p>A：個人作業が良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● なかには、除草機を購入して、1,500ポンド節約できたという農家があった。 ● この村では女性活動は実施していない。マッシュルームの栽培研修をしたのみで、まだ、実際の活動は開始されていない。家畜の飼育訓練を行ってほしい。

面談録⑪

面談先	Awlad Elias村、普及員、農協
日時	2017年1月18日13:00～
場所	アシュート県農業事務所専門家執務室
先方	農民16名参加 （畑専門家、平山専門家、山本専門家）
わが方	仲田、久保田、相川、小河、東野
要旨	<p>Q：どのような作物を選んだか？</p> <p>A：ジャガイモ、ガーリック、タマネギ。</p> <p>Q：どのような変化があったか？</p> <p>A：新たな園芸作物の紹介が良かった。ジャガイモは一般的でなかった。</p> <p>Q：どのような活動が役に立ったか？</p> <p>A：デモファームは普及のために役立った。村の面積は2,440フェダンもあり、デモ圃場は1つでは足りない。女性の活動は、研修を行ったただけだが、重要であると認識している。</p>

	<p>A：技術研修は良いが、デモ圃場による実施訓練は不足。</p> <p>A：女性活動の意義は認めている。自力でやりたいが研修は必要。園芸作物はコストが高い。殺虫剤など信頼できる販売先がほしい。農協でやれないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大半が研修に参加した。普及員による研修とフォローアップと評価。 ● 作物の選択理由はポテト、ガーリック、オニオンで、生産性が高く、収益が見込める。土壌にも良い。農民は園芸作物の栽培経験があるが、自家消費程度の規模である。 ● 成功すれば、将来拡大したい。多くの農民が参加するだろう。 ● 第3サイクルでは、活動を開始してから5カ月である。 <p>Q：市場調査で何を学んだか？</p> <p>A：市場調査で学んだものは、価格と需要の高い作物、保存、輸送手段など市場調査で学んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今日参加している農民の8名中5名がマーケティング協議会メンバー。 <p>Q：課題は何か？</p> <p>A：ビジネス・ダイアログでは、市場の価格のピーク時期や価格の変動がわかったが、業者は、契約時の買い取り価格を提示してくれない。デモ圃場は多くの人が興味をもっているが、遠くて行けない。女性8名。女性活動は、トマトソースやジュースの研修。朝市で調査を行った。アヒル、ウサギ、ヤギ、ハトなどの調査を行った。</p> <p>研修は初めて参加した。売り方や産品を学んだ。市場調査のプロジェクトで初めて価格の状況について学んだ。家畜飼養の経験はあったが、知識や品種について学んだ。ローカル種を飼育していたが、適切な品種を探したい。</p> <p>家畜の販売は、男性の仕事であった。小動物の提供をお願いしたい。自分たちが学んだことは他の女性にもshareしたい。家畜の病気も課題だ。</p>
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

面談録②

面談先	MALR 農業サービスフォローアップ局
日時	2017年1月24日 10:00～
場所	MALR 農業サービスフォローアップ局長室
先方	先方：Dr.Abbas（サービスフォローアップ局長） Mr. OSAMA Saad El Lithy Shaaban（農協中央部研修部長）（畑専門家、平山専門家、山本専門家）
わが方	仲田、小河、東野
要旨	<ul style="list-style-type: none"> ● Dr. Abbasは昨日辞令を受け取り、本日から局長として勤務を開始した。そのため、就任を祝う訪問や電話の応答が頻繁に続き、また、業務の引き継ぎが行われているなかで、10時20分頃に面談が開始された（局長は、2012年の当プロジェクトの詳細計策定時の協議に参加しており、プロジェクトのコンセプトは理解している由）。 ● まず局長より調査団訪問に対する歓迎の意向とプロジェクト成功とプロジェクトの継続への希望が示された。 ● 次に仲田団長よりレビュー内容の概略の説明がなされた。 <ul style="list-style-type: none"> - 市場志向の園芸作物への転換は成功例もみられたが、まだ、限定的である。 - 栽培スケジュールを調整してキュウリを端境期に出荷を行い利益を得た農民がみられた。 - 展示圃場も農民が園芸作物栽培の実際を見ることができて効果的であった。 - ただし、まだ、農民の参加は十分といえない。その背景に、普及員の人員不足と活動予算の不足がある。 - 女性グループ活動についても、実施するなかで、女性だけでなく、周辺の男性の考え方が変わってきたとみられる。 - 評価の結果は、妥当性は高いが、有効性と効率性は中程度、インパクトの兆候がみられるほか、持続性はやや低いとした。 ● 局長より、レビューの内容について同意が得られた。局長からは、小規模農家は貧しいため、資金的なインセンティブがないと短期間での園芸作物への転換の拡大は難しいだろうとの見解が出された。 ● それに対し、団長より、本プロジェクトは、資金的な支援を行わずに目標の達成をめざす旨説明し、局長からも、プロジェクトの方針は承知しているとの回答がなされた。Osama農協研修部長より、現状の解決策を見いだしたいため、どの村で、どの農家が成功しており、その理由は何かということをも具体的に知りたいとの希望が表明された。また、エジプト側が負担する活動予算については、Dr. Dinaの協力も得て、プロジェクトの活動計画を策定し、手続きを進めるとの説明がなされた。 ● 仲田団長より、協力期間の後半で、成功している村落と農家を絞り込み、集中した支援を行うことで多くの成功事例を作り出していくとの提言の内容を説明した。また、上位目標について、短期間で県全体の小規模農家の収入を増やすことは、現実的には難しいだろうとの見込みを伝えた。女性活動については、技術的なガイダンスとフォローアップが不足していたため、その改善を行うこと、プロジェクトのモニタリングについては、カイロのC/Pの参加を求めたいことの説明を行った。 ● 局長よりプロジェクトの持続性の確保について強い希望が表明された（プロジェクトの延長という意味と思われる）ほか、Osama農協研修部長からは、カイロのC/Pの参加について、活動予算が確保さ

	<p>れた後になり、早期の対応は難しいとの懸念が示された。</p> <ul style="list-style-type: none">● これに対し、仲田团长より、JICA としても、カイロの C/P の現場視察を含めたプロジェクト活動への参加の重要性を認識しており、カイロの活動の支援を検討する意向があると伝えた。● その他、PDM の改訂（上位目標、プロジェクト目標の修正、女性活動に関する記述の追加）についての説明を行った。● その後、前局長（Ahmed Abou El-yazied、農業大臣室長に就任）も会議に加わり、プロジェクトへの謝意を述べた。
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

14. 質問票

**Mid-term Review on Improving Small-Scale Farmers' Market-Oriented Agriculture Project (ISMAP)
Questionnaire for Egyptian Counterparts of ASFS (CAAC), AES (CAEE) and
Agricultural Directorate of Minia and Assuit Governorates**

The number of respondents from MALR/Cairo: 4 (R1-R4)

PART I: Questions on Implementation Process

Q1: Please describe what activities you have implemented in ISMAP

R1: Attendance of the meeting of project introducing/business dialogue with exporters/the meeting of choosing crops/the training in Japan and Kenya.

R2: Attendance of workshops and meetings that have been held in Cairo and project's governorates to follow up the project activities during the 1st and 2nd cycles/the Steering Committee.

R3: Attending the first workshop in Foreign Agricultural Relations for 3 days, meetings that show the 1st cycle activities of the project in Assuit Agricultural Directorate., the meetings of steering committee from the first meeting to the forth.

R4: The business dialogue and the relation between farmers and exporters/The Steering committee/Public relation communication/Women activities/Attendance of a training in Japan.

Q2: How do you find (i) communication and (ii) information sharing between you and the Japanese experts?

(i) a. Very smooth (3) b. More or less smooth (1) c. Not smooth d. Uncertain

→Please describe reasons for your answer.

Very smooth:

- The ability of communication with the Japanese team all time as a general coordinator of the project
- Because of following up of the activities with the Japanese side who visits the Central Administration of Agricultural Cooperation
- There is cooperation and communication between the two sides because of the regular visits of the Japanese team experts to the Central Administration of Agricultural Cooperation and showing the activities constantly.

More or less smooth:

Because there is a general coordinator who is responsible for direct communications (More or less smooth)

(ii) a. Very smooth (2) b. More or less smooth (1) c. Not smooth d. Uncertain

→Please describe reasons for your answer.

Very smooth:

- Easy to communicate, meeting attendance and the response of Japanese team for information transfer.
- By meeting attendance – E-mail – Fax – phone communication with Japanese and Egyptians teams.

More or less smooth:

- The participation in the form of regular meetings. (More or less smooth)

Q3: Do you think the way of transferring skills/knowledge to you from the Japanese experts under ISMAP is appropriate (e.g. technical guidance from Japanese experts through various trainings, etc.)?

a. Yes.(3) b. Partly yes (1) c. No d. Uncertain

→Please describe reasons for your answer.

Yes:

- The participants gained new skills.(Yes)

- This is due to the effort of the team works in governorates and sharing the experiences among farmers and extension engineers. (Yes)
- In Egypt: the Japanese team is doing their best effort in sharing all activities with the Egyptian team.
- In Japan: I have received high level training on agriculture.

Partly yes:

- Because there is no regular visit to the training areas.

Q4: Do you think that the Project activities are in accordance with your field of expertise, capabilities, and interests?

- a. Yes (2) b. Partly yes (2) c. No d. Uncertain

→Please describe reasons for your answer.

Yes:

- Because of my work at the Central Administration for Agricultural Cooperation which aims to increase the income of small-scale farmers.
- Because I work at Central Administration of Agricultural Cooperation which aims to increase the income of small-scale farmers.

Partly yes:

- Because the field work is better.
- Because my work at Central Administration of Agricultural Cooperation makes far from the field activities so I depend on reports, meetings and workshops.

Q5: Do you think that your professional capabilities/skills have been enhanced through participation in the Project activities?

- a. Yes (4) b. Partly yes c. No d. Uncertain

→Please describe reasons for your answer.

Yes:

- I gained skills in projects management for the donors.
- Because of seeing the activities and participation in it like business dialogue and how to make a contract with companies.
- Although I haven't actually shared the activities, I followed the reports that came from Minia and Assuit governorates.
- Because I learned a lot of information and gained skills.

Q6: Do you think that your commitment to and participation in the Project activities were sufficient?

- a. Sufficient b. Not sufficient (4) c. Uncertain

→Please describe reasons for your answer.

Not sufficient:

- Because I haven't attended all the activities and there wasn't an actual follow up for all project cycles.
- Because the lack of budget.
- Because the lack of budget for transportation from Cairo to Minia and Assuit governorates.
- Because there wasn't regular visits to the training areas and following up the activities.

PART II: Questions for Five Evaluation Criteria

1.Relevance

Q1.1: Do you think that ISMAP is in association with the development needs of the target areas and societies in the two target governorates (Minia and Assuit)?

- a. Yes (3) b. Partly yes (1) c. No d. Uncertain

→ Please describe reasons for your answer.

Yes:

- The overall goal of the project is compatible with the strategy of MARL 2030.
- Because the project focuses on the extension flow and updating it. This is the most important objective of the project.
- As it is compatible with the development strategy 2030.
- Working on changing the thinking way of farmers from the traditional cultivation to the contract farming.

Partly yes:

- Because the development of the Cooperatives isn't from the project priorities, however improving the cooperatives abilities (marketing – administrative – technical) will help farmers' development (economically – socially – culturally).

2. Effectiveness

2.1 Degree of attainment of Project Purpose

Project Purpose: Agricultural incomes of the target small-scale farmers and surrounding small-scale farmers in the project are increased.

Q2.1: To which extent do you think Project Purpose has been attained as of December 2016 in accordance with the following indicators?

Indicator a. :The agricultural incomes of the target small-scale farmers in the Project are increased by 40% - 100% by target crop and village, and 6% - 22% by household and village (detail is attached herewith) (Information about the indicator is as shown in PDMI-(1), (2) and (3))

- a. Very much b. To some extent (2)
 c. Little d. Uncertain

→ Please explain the reasons for your answer.

To some extent:

- Inadequate follow up from farmers, and Insufficient number of extension engineers.
- It's hard to change the mind of farmers.
- Inadequate follow up from the cooperative engineers.
- Some farmers depend on conventional crops cultivation.
- Market prices are not stable.

2.2 Contributing and Inhibiting Factors

Q2.2: If you think that there are contributing and inhibiting factors that have affected the achievement of Project Purpose,

→ Please specify the factors and give your comments on them.

Contributing Factors:

- The willingness of participants to increase the income.
- Japanese team is providing all forms of technical support.
- The Egyptian and Japanese field teamwork.
- The actual participation in knowing markets.
- Cooperatives as a gathering place for farmers/Presenting technical support from Japanese team/Presence of wholesale and retail markets in the districts.
- The support of the Japanese side.
- The will of all participants to achieve the project purpose.

Inhibiting Factors:

- There is no budget
- Budget/Cultivation date/Women activities (budget) and the gathering places for women activities.
- Budget – inadequate extension engineers – the irregular participation of farmers as a result of being busy on cultivation.
- The budget

3. Efficiency**3.1. Achievements of the Output**

Q3.1. To which extent do you think the Output 1 has been attained as of January 2016 in accordance with the following indicators?

Output1: Market-oriented extension approach is established.

Indicator a.: The draft plan of extension flow based on the market-oriented approach is formulated.

- | | |
|-------------------------------------------|------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> a. Very much (3) | <input type="checkbox"/> b. To some extent (1) |
| <input type="checkbox"/> c. Little | <input type="checkbox"/> d. Uncertain |

→Please explain the reasons for your answer.

Very much:

- According to awareness increasing of new participants as opposed to the first participants.
- To increase the awareness of the target farmers.

Indicator b.: The average score of evaluation on formulation and revision process of the plan of extension flow is higher than 4 in the five-grade evaluation by the relevant stakeholders.

- | | |
|---------------------------------------|------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> a. Very much | <input type="checkbox"/> b. To some extent (2) |
| <input type="checkbox"/> c. Little | <input type="checkbox"/> d. Uncertain |

→Please explain the reasons for your answer.

Indicator c.: The extension flow based on the market-oriented approach, which is revised through implementing project activities, is approved by the Joint Steering Committee (JSC).

- | | |
|-------------------------------------------|--------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> a. Very much (4) | <input type="checkbox"/> b. To some extent |
| <input type="checkbox"/> c. Little | <input type="checkbox"/> d. Uncertain |

→Please explain the reasons for your answer.

Very much:

- Because this approach is very important in increasing the income of small-scale farmers.
- To achieve the actual increasing.

Output 2: Agricultural techniques for value-added products are examined and developed.**Indicator a.: Guidelines and manuals on the examined and developed agricultural techniques are made.**

- a. Very much (2) b. To some extent (2)
 c. Little d. Uncertain

→Please explain the reasons for your answer.

Very much:

- Intercropping was implemented based on IMAP.
- Because of the complete awareness of technical operations.

Indicator b.: More than 70% of the examined and developed agricultural techniques are included to the Training of Trainers for extension staff.

- a. Very much (3) b. To some extent (1)
 c. Little d. Uncertain

→Please explain the reasons for your answer.

Very much:

Achievement better results in compare with the previous results before the project.

Output3: Capacities for making and implementing action plans of the agricultural cooperatives are strengthened.**Indicator a.: Action plans for improving agricultural incomes of small-scale farmers are made by the target agricultural cooperatives.**

- a. Very much b. To some extent (3)
 c. Little (1) d. Uncertain

→Please explain the reasons for your answer.

To some extent:

- Farmers used to depend on conventional cultivation instead of committing in teamwork plan.(To some extent)
- To encourage farmers for the Market-Oriented approach instead of the traditional cultivation

Indicator b.: More than 70% of activities based on the action plans are implemented.

- a. Very much (1) b. To some extent (3)
 c. Little d. Uncertain

→Please explain the reasons for your answer.

To some extent:

- According to follow up work.
- According to following up.

Output4: Farming methods based on the market-oriented approach are deployed within the target agriculture cooperatives and in districts.**Indicator a.: Extension plans for deploying farming methods by the target agricultural cooperatives**

- a. Very much b. To some extent (3)
 c. Little (1) d. Uncertain

→Please explain the reasons for your answer.

To some extent:

- Because the idea of market-oriented approach is still new and it started in IMAP.

- To change the thinking way of farmers from grow and sell to grow to sell.

Indicator b.: Existence of new farming activities based on the market-oriented approach within the target agricultural cooperatives.

- a. Very much b. To some extent (2)
 c. Little (2) d. Uncertain

→Please explain the reasons for your answer.

To some extent:

- Market survey, baseline survey, business dialogue and women activities was implemented.
- Implementing market survey, business dialogue, baseline survey and Women activities.

Indicator c.: Extension plans for deploying farming methods by district agricultural office

- a. Very much b. To some extent
 c. Little (2) d. Uncertain

→Please explain the reasons for your answer.

Indicator d.: Existence of new farming activities based on the market-oriented approach in districts.

- a. Very much b. To some extent
 c. Little (1) d. Uncertain (1)

→Please explain the reasons for your answer.

3.2 Achievements of Input

Q3.2. How do you find quality, quantity and timing of the inputs (such as the expertise of personnel or items procured)? Please tick boxes as many as you can evaluate.

(1) Input by the Japanese Side

	(i) Quality			(ii) Quantity		
	a. Appropriate	b. Inappropriate	c. Uncertain	a. Appropriate	b. Inappropriate	c. Uncertain
(i) Equipment	4	0	0	1	0	0
(ii) C/P training in Japan	4	0	0	0	0	0
(iii) Dispatch of Japanese Experts	2	1	0	0	0	0

→If you answer is "b", please specify the issues to be improved.

(2) Input by the Egyptian Side

	(i) Quality			(ii) Quantity		
	a. Appropriate	b. Inappropriate	c. Uncertain	a. Appropriate	b. Necessary to improve	c. Uncertain

(i) Facilities arranged	3	1	0	0	0	0
(ii) Local cost expenditure (it was paid from the Egyptian side)	1	1	0	0	0	0
(iii) Assignment of Counterpart staffs	3	1	0	0	0	0

→If you answer is “b”, please specify the issues to be improved.

- No budget until now because of the procedures/Inadequate number of counterparts to follow up the project.
- (i)- Because of inadequate budget, there was difficulties in field follow up.
- (iii) Some counterparts had no efficient role in the project (Cairo and Assuit governorates)

4. Impacts

4.1 Positive and Negative Impacts

Q4.1. If you think any positive and negative impacts of the Project have happened already or will be expected in the future, please specify the impacts and give your comments on them.

Positive impacts:

1. Market-oriented approach

- The dissemination of Market-Oriented Approach in the target Cooperation.
- Changing the marketing approach of participants to “grow to sell”.
- Learning new skills for farmers like market survey.
- Setting farming plans according to the market needs.
- Learning the farming contract.

2. Technical aspect

- Implementing the implemented techniques in IMAP.
- The farmers learned new technical recommendation.
- Cultivation of untraditional crops.

3. Increase of income

- The increase of farmer’s income.
- Following technical recommendation for higher and better production which leads to income increasing.

4. Training in Japan

- The training in Japan.

5. Others

- The contribution of Japanese side with available possibilities.

Negative impacts:

1. Irregular participation of farmers:

- The irregular participation of farmers in the activities.
- Not achieving the target number of participants in the project.

2. Income of farmers

- The income of some farmers doesn’t increase as expected.
- There is no a clear relationship between farmers participation to the activities and increasing income.

3. Training in Japan

- The training in Japan was good but the learned practice haven’t been applied.
- Failure to apply the learned practices in Japan.

4. Others

- Provide the budget for the project before its starting (suggestion).

5. Sustainability

5.1 Policy and institutional aspects

Q5.1. To which extent do you think that policy and institutional supports from the Government of Egypt to sustain the Project activities and its effects would be continued during the cooperation period of the Project and beyond?

- a. Very much (3) b. To some extent
 c. Little d. Uncertain

→Please explain the reasons for your answer.

Very much:

- The Egyptian government is providing all kinds of support for the project.
- Egyptian government is contributing in that with the available possibilities.

5.2 Financial aspects

Q5.2. To which extent do you think that the Government of Egypt will be able to appropriate sufficient budget for sustaining the Project activities and their effects during and after the Project period?

- a. Very much b. To some extent (1)
 c. Little/No expectation d. Uncertain

→Please explain the reasons for your answer.

5.3 Organizational and technical aspects

Q5.3. Do you think the capacities of extension workers (extension engineers and extension workers) and agricultural cooperatives staffs of the target districts and villages have been developed through the training of the Project to such an extent as to implement the Project activities by themselves during the remaining Project period?

- a. Yes. (2) b. Partly yes (1) c. No d. Uncertain

→Please explain the reasons for your answer.

Yes:

- I think extension engineers can do this and farmers training.
- Because the extension engineers are able to move and disseminate the agricultural techniques.

6. If you have any comments/suggestions on the Project, please describe them.

- Provide the budget of the project before its beginning.
- Provide solution inadequate number of participants and attract participants by attractive elements to achieve the target number.
- Implementing the women activities that suit the customs in the project area.
- Budget preparing.
- Attendance all women activities with farmers and women.
- Cooperatives development and enhancing its abilities.
- Modern techniques distribution and increase the additional value.

**Mid-term Review on Improving Small-Scale Farmers' Market-Oriented Agriculture Project (ISMAP)
Questionnaire for Egyptian Counterparts of ASFS (CAAC), AES (CAEE) and
Agricultural Directorate of Minia and Assuit Governorates**

The number of respondents from Assuit Governorate is 9 (R1-R9)

PART I: Questions on Implementation Process

Q1: Please describe what activities you have implemented in ISMAP

R1; Attending the first explanatory meeting of the project in Cairo/Selection districts in all of project cycles, target villages in each district, Preparation for exporters and local trader meetings, Attending the market survey, helping farmers in doing market survey and farming action plan, Sharing in demo-farms implementation and field training, Attending and preparing the TOTs, implementing women activities

R2: I shared in the work for all the project activities
Exporters' business dialogue, Local business dialogue and TOT training

R4: Following up the demo-farms which was good because the farmers follow all the technical guidelines of the trainers.

R5: Participating in the establishment of JICA office in the directorate, selecting the cooperatives during the 3 phases and also participating in the project activities like "baseline survey, farming plans, TOT, demo-farms, business dialogues.

R6: TOTs/Demo-farms/Local and exporters business dialogues

R7: Attend all the project's activities, follow up the Demo-Farms and females activates

R8: 1_The explanatory meetings in the districts. 2- Visiting some villages to select the cooperative and the target farmers. 3- The baseline survey. 4- The business dialogues. 5- The implementation of demo-farms. 6- The trainings of trainers (TOT). 7- SWOT analysis.

R9: 1- Selecting the target cooperatives. 2- The business dialogues. 3- Market survey for farmers. 4-forming the marketing committee and selecting the target farmers. 5-preparing the farming plan. 6-Market survey for women. 7- Implementing the TOT. 8-implementing the demo-farms. 9- Implementing the women activities.

Q2: How do you find (i) communication and (ii) information sharing between you and the Japanese experts?

(i) a. Very smooth (4) b. More or less smooth (5) c. Not smooth d. Uncertain

→Please describe reasons for your answer.

a. Very smooth

- Because of the presence of the translators team.
- Because there is good communication between the Egyptian and Japanese teams and also because they offered all the possible information and support during the work.
- There is good translator team and good relationship between us and the Japanese side.
- Because of the existence of the translators who help in the communication between the Japanese and Egyptian teams

b. More or les smooth

- Because there is translation.
- Because of the presence of good translators team so the communication is easy.
- The easiness of communication because of the good translators' team.
- Not so easy because their language is differ from ours so it's a big difficult for us.

- It isn't difficult because we are working as a team to put the plans of the work and also we share the different ideas and opinions among us. It is not so smooth because we are communicating in English.

(ii) .a. Very smooth (6) b. More or less smooth (2) c. Not smooth d. Uncertain

→Please describe reasons for your answer.

Very Smooth:

- Easy Because of the presence of the translators team
- Because the team members share their different opinions and understand them well.
- They offer the possible information in a good and easy way during the regular meetings in the project office and also because there is a very good translators team.
- Cause we got agreement from all members before we take any decision or before we implement any activity
- All of the counterpart members attend the regular meetings and that help in sharing the information.

More or less smooth:

- Because there is regular meeting for the project members.
- Because of the periodic meetings between the Japanese team and the Egyptian team.
- Because of the periodical meetings which facilitate information sharing.

Q3: Do you think the way of transferring skills/knowledge to you from the Japanese experts under ISMAP is appropriate (e.g. technical guidance from Japanese experts through various trainings, etc.)?

a. Yes. (9) b. Partly yes c. No d. Uncertain

→Please describe reasons for your answer.

Yes

- It was good as the presence of the translators facilitate transmitting these skills and knowledge.
- Because there is clarity in transferring the information.
- The information transmitted by an easy and simple way.
- I have just attended the TOT because I have joined the team since the beginning of December 2016.
- The training in Japan has contributed a lot in gaining a lot of skills and knowledge which have contributed in achieving the project goals.
- Because it's my same specialty.
- Because they transfer their experience in easy way.
- There are easiness and clarity in the way of transferring the information and also the practical trainings. All of that have contributed in gaining knowledge and working skills.

Q4: Do you think that the Project activities are in accordance with your field of expertise, capabilities, and interests?

a. Yes (7) b. Partly yes (2) c. No d. Uncertain

→Please describe reasons for your answer.

Yes:

- Because the agriculture cooperatives is under my position.
- Communication done through cooperation cooperatives and this is related to his specialization.
- Because the project interest in agriculture field and that is my specialization.
- My bachelor degree and my job as the head of the projects department in the agricultural cooperation are in accordance with the project activities and also my interests in increasing the farmers' income.
- I care about the income of the farmers, and the project do the same.
- The project activities match with my specialization.

Partly yes:

- Because it's related to my department as the project works specially in vegetables but about market and women activities they are not related to my work.
- This is my field of study and specially the horticulture crops. But the women activities are not exactly related to my study.

Q5: Do you think that your professional capabilities/skills have been enhanced through participation in the Project activities?

a. Yes. (9) b. Partly yes c. No d. Uncertain

→ Please describe reasons for your answer.

Yes:

- I get some experience through the demo-farms also from direct contact with cooperatives and farmers.
- Because of the training and sharing the work in the Demo-farms.
- Because of attending the periodic trainings and meetings.)
- That was through the practical participation in the activities.
- Because working with the Japanese team and training in Japan have helped me to gain a lot of working skills.
- My skills enhanced through the demo-farms, TOTs and business dialogues.
- I learned that it's important to do market survey before cultivation, and also I learned how to improve the quality of the products.
- My experience has expanded in relative to dealing with cooperatives and also by the implementation of demo-farms.
- My skills were enhanced because of attending the TOT on different crops, implementing the demo-farms, implementing field trainings and the follow up of the demo-farms.

Q6: Do you think that your commitment to and participation in the Project activities were sufficient?

a. Sufficient (8) b. Not sufficient c. Uncertain

→ Please describe reasons for your answer.

Sufficient:

- Because I'm almost work only for the project activities.
- Because there is good coordination and distributing for the work.
- Because of attending almost of the meetings and useful activities.
- Because it has included all the project's plans "since I have joined the team".
- I always participate in our project activities since the beginning and coordinate with the Egyptian and Japanese teams. In addition to my work in the agricultural cooperation.
- Cause we distribute the work among the team.
- I always share in the most of the activities and prepare reports each week to explain what happened during that week to facilitate the transferring of the information among the team members.
- Because there is coordination in assigning the work among the team members.

PART II: Questions for Five Evaluation Criteria

1.Relevance

Q1.1: Do you think that ISMAP is in association with the development needs of the target areas and societies in the two target governorates (Minia and Assuit)?

a. Yes. (2) b. Partly yes (6) c. No d. Uncertain

→ Please describe reasons for your answer.

Yes:

- Because it works on raising the standard of living of the small-scale farmers.
- Cause the project care about small scale farmers and try to improve their situation.

Partly yes

- It's almost cover some of the development needs for some villages but generally the project activities were new for them as market orientation so it was difficult in the beginning to be implemented but through the time and through the project extension flow and holding explanatory meetings for farmers there was a good response also some villages need extra trainings.
- Because the project need to increase the number of the cooperatives.
- It needs to expand in more villages and cooperatives.
- The rates of poverty is very high in Upper Egypt so we need development projects and the ISMAP project help in developing these areas.
- But it needs to more spread and expansion.

- The project associates with the development needs of our target villages only not the around villages. In addition to that, there are some of our target villages which need more training programs and more demo-farms because they don't have enough experience in cultivating vegetables although most of their consumption is from the vegetables like El-Nawawra village.

No category:

- We Need to expand the project by including more villages and districts to deploy the goal of the project. (n.a.)

2. Effectiveness

2.1 Degree of attainment of Project Purpose

Project Purpose: Agricultural incomes of the target small-scale farmers and surrounding small-scale farmers in the project are increased.

Q2.1: To which extent do you think Project Purpose has been attained as of December 2016 in accordance with the following indicators?

Indicator a. :The agricultural incomes of the target small-scale farmers in the Project are increased by 40% - 100% by target crop and village, and 6% - 22% by household and village (detail is attached herewith) (Information about the indicator is as shown in PDM1-(1), (2) and (3))

- a. Very much (1) b. To some extent (7)
 c. Little d. Uncertain

→Please explain the reasons for your answer.

Very much:

- Cause the farmers implement the market survey before cultivation, and also they implement the team work advices.

To some extent:

- Farmers' income increased in some villages as some of them changed their cultivations from traditional crops to new crops according to the market needs which are profitable as Soya bean, sunflower and some vegetable crops as tomato and cucumber also farmers learned through our TOTs how to do intercropping as intercropping of cucumber on Maize.)
- Because they applied the project on few number of farmers.
- Because of the number of the target farmers is small so little number of them get benefits so it's preferred to increase the number of the target farmers.
- Because I haven't participated in making the baseline survey or the farming plan.
- The project has helped the farmers by providing trainings for different crops and cultivating them then the project has prepared the baseline surveys to compare the income before and after the project "we found that the farmers' income has increased".
- Because already the income of some farmers increased by increasing the productivity of the cultivated crops through the role of the extension and researchers of the research center so their income not increased only from marketing.
- The income of the farmers has increased because they have cultivated new crops like (Soybean in Moshia village) and that happened because of the role of the extension engineers and the researchers of the ARC and also because of the project's business dialogues which have provided the chance for the farmers to meet different local traders and exporters " and this is the goal of our project". But, in some cases, the income has increased because the amount of production has increased not because of the marketing (like what happened in the cultivation of Cucumber with the sunflower because the farmer has sold the harvest in the same market and the same prices). In my opinion we have not completely achieved the goal of the project because the cooperatives" officers haven't learned to work as a team and as a result the contract farming couldn't be made through the cooperatives. SWOT analysis will be so useful if we implement it in appropriate time as it will enhance the capacities of the cooperatives.

No Classification:

- We have applied the project on a few number of farmers. (n.a.)

2.2 Contributing and Inhibiting Factors

Q2.2: If you think that there are contributing and inhibiting factors that have affected the achievement of Project Purpose,

→Please specify the factors and give your comments on them.

Contributing Factors:

Relevance with the needs of farmers

- Offering all the farmers' needs for the demo-farms by the Japanese
- The desire of some farmers to change the cultivation of traditional crops into new crops has helped them to accept and implement the new guidelines of the trainers.

Cooperation of Japanese and Egyptian Side/ Districts and Cooperatives

- Cooperation of the districts and cooperatives engineers with the project team
- There is good cooperation between the Egyptian and the Japanese
- Cooperation of the extension department and the district officers to finalize the whole stages and the steps of the project
- The cooperation among the Egyptian team members and the cooperatives' engineers.
- The good cooperation between the Egyptian and the Japanese teams and also the good experience of the members.

Transportation means

- Offering transportation means for the project team to visit the project sites
- the easiness of transporting the farmers to attend the training
- The project offers the transportation

Flexibility of Japanese side

- The Japanese side is flexible in implementing the project activities
- The Japanese side is flexible with the Egyptian counterparts
- The Japanese team members are as flexible as they accept the different opinions of the Egyptian team and also they respect the traditions of the villagers.

Good Trainers/Trainings

- The trainers are professors in the university
- There are practical trainings.

Effort of the members

- All the members exert all of their efforts for the success of the project, the effective participation of the directorate's officers and engineers which contribute to the project success.

Inhibiting Factors: No Budget/Allowance/Incentives

- The Egyptian ministry doesn't offer the budget which affected the project activities negatively
- No incentive or allowance for the researchers who share in the TOTs
- No allowance for the Egyptian project team in the directory, districts and in the villages
- No budget for any incentive for the team work or any transportation allowance
- There is no special budget for the project
- There are no incentives for the officers who work for the project
- There is no budget from the ministry for the project.
- There is no budget from the ministry and that because of the difficult economic situation of the country.
- The Egyptian ministry doesn't assign a budget to cover the project activities also there are no allowances to the districts' counterparts
- The inability of the ministry to provide budget for the project has a negative effect on some activities of the project.

- The nonexistence of incentives have affected the exporters meeting because we couldn't travel to Cairo to visit the exporters because the ministry can't pay the costs of this visit.
- There is no budget from the ministry and therefore we couldn't provide transportation allowance for the cooperatives, districts and directorate officers.

3. Efficiency

3.1. Achievements of the Output

Q3.1. To which extent do you think the Output 1 has been attained as of January 2016 in accordance with the following indicators?

Output1: Market-oriented extension approach is established.

Indicator a.: The draft plan of extension flow based on the market-oriented approach is formulated.

- a. Very much (2) b. To some extent (6)
 c. Little d. Uncertain

→Please explain the reasons for your answer.

Very much:

- Implementing the extension flow is very good.
- Because the sequence of the extension flow.

To some extent:

- Doing demo-farms and field trainings and holding TOTs before them.
- Cause it's possible to make some modification in the plan.
- Because of the regular evaluation of the work during the 3 phases of the project and working on the development from one phase to another.
- The demo-farms were good/There are no contracts through the exporters business dialogue till now.
- We have completely finished the demo-farms, the field trainings and TOT. But the SWOT analysis and the business dialogue haven't finished yet.
- Because we have added some modifications to the draft of the extension flow like forming the marketing committee and its role in preparing the farming plan, choosing the crops and make contract farming. And also we have added the market survey for women and the trial fields beside the main demo-farms.

Indicator b.: The average score of evaluation on formulation and revision process of the plan of extension flow is higher than 4 in the five-grade evaluation by the relevant stakeholders.

- a. Very much (6) b. To some extent (2)
 c. Little d. Uncertain

→Please explain the reasons for your answer.

Very much

- As all project stages done very good.
- Cause we implemented it all.
- Formulation, discussion and revision the extension flow in each meeting.
- Because we have applied it completely and most of the farmers and officers have found that it was good.

To some extent

- There are some factors which inhibit the implementation of the engineers because of there is no incentives.

Indicator c.:The extension flow based on the market-oriented approach, which is revised through

implementing project activities, is approved by the Joint Steering Committee (JSC).

- a. Very much (4) b. To some extent (1)
 c. Little (1) d. Uncertain (1)

→Please explain the reasons for your answer.

Very much:

- Cause there is no objections.
- The current extension flow is appropriate to work with it.
- Because there is no objection on it.

To some extent:

- Assuit counterpart hasn't attended the Joint Steering Committee Meeting before, just the team leader and one of the members for 1 or 2 times. We attend just the regular meeting that is made in Assuit directorate. (To some extent)

Little:

- Because I didn't attend any of the joint steering committee meetings.

Uncertain:

- The project team don't attend the joint steering committee meetings in Cairo but the team leader only who attend.

Output 2: Agricultural techniques for value-added products are examined and developed.***Indicator a.: Guidelines and manuals on the examined and developed agricultural techniques are made.***

- a. Very much (1) b. To some extent (1)
 c. Little (6) d. Uncertain

→Please explain the reasons for your answer.

Very much

We distributed the training materials for the farmers while the training (Very much)

To some extent

- The guidelines *and manuals* have not prepared yet. (To some extent)

Little:

- As the manuals have not been offered till now.
- Cause there is no Guidelines and manuals until now.
- It doesn't happen till now.
- Because there are no manuals from the project side till now but only from the researchers whose introduced the trainings.
- The guidelines and the manuals have not been prepared yet, although, one of the Japanese team members has visited some extension centers and the extension department in Assuit directorate to discuss the main subjects of these manuals. But, we are distributing training materials that the trainers have prepared in each training day.
- Because the guidelines *and manuals* of the agricultural techniques haven't prepared yet.

Indicator b.: More than 70% of the examined and developed agricultural techniques are included to the Training of Trainers for extension staff.

- a. Very much (7) b. To some extent (1)
 c. Little d. Uncertain

→Please explain the reasons for your answer.

Very much:

- Yes as they changed their cultivations from traditional crops to new profitable crops as soya bean, learning intercropping and learning optimum use for pesticides and they knew the best times for adding fertilizers also the best time for cultivation.
- Because we implement the farming plan and also the Demo farms.
- Because all of the explained techniques in the TOTs already implemented completely in the demo-farms.
- Because the trainers were professors in the university and in the agricultural research center.
- It has been recommended the best fertilizers rates also cultivating new varieties which are survive in high temperature as tomato cultivation in Mosha village and intercropping.
- The TOT offered up to date information to the farmers.
- Like the intercropping and the recommended rates of the fertilizers.
- Because we have already implemented the farming plan and the trial fields that was beside the main demo-farms to expand the project.

To some extent:

- The trainees have been trained by professors from the university and the agricultural research center and the university to get the highest benefit from trainings.

Output3: Capacities for making and implementing action plans of the agricultural cooperatives are strengthened.

Indicator a.: Action plans for improving agricultural incomes of small-scale farmers are made by the target agricultural cooperatives.

- a. Very much (1) b. To some extent (6)
 c. Little (1) d. Uncertain (1)

→Please explain the reasons for your answer.

Very much:

- Cause they had good experience (Very much)

To some extent:

- Because the officers in the cooperatives do the activities according to the offered potentials.
- Through the regular meetings with the cooperatives' engineers, the cooperatives exchange the information with the farmers and also to show the current situations to prepare an annual agricultural plan.
- That is done through the project but away from the project if the farmer asked to do the farming action plan the cooperative will help him.
- Not enough budget.
- The cooperatives help the farmers if the farmers asked them. But, the cooperatives don't make any action plans because the government itself doesn't make the agriculture rotation.
- Because they don't have enough experience.

Little:

- Because of the low number of the officers in the cooperatives and there are no incentives to encourage them.

Uncertain:

- Some cooperatives answered the farmers but not in a coordinated plan to improve farmers' income

Indicator b.: More than 70% of activities based on the action plans are implemented.

- a. Very much (8) b. To some extent (1)
 c. Little d. Uncertain

→Please explain the reasons for your answer.

Very much:

- Because cooperatives already implemented that plan also because of the frequency follow up of the project team.
- We implement the demo – farms and the farming plan.

- Because it's implemented according to the periodical meetings and general plans.
- Because the implementation was made by the extension engineers.
- Where the cooperatives do their best to implement the project activities with the support of the extension and horticulture departments in addition to that the support and cooperation of the team member.
- We follow up this while the project.
- Because the cooperatives help the engineers to implement their roles to achieve all the project's goals.
- Because we have implemented the farming plan for the winter season according to the farming plan.

To some extent

That because the regular follow up for the implementation of the farming plan and also because the farmers want to work according to the training guidance.

Output4: Farming methods based on the market-oriented approach are deployed within the target agriculture cooperatives and in districts.

Indicator a.: Extension plans for deploying farming methods by the target agricultural cooperatives

- a. Very much (3) b. To some extent (6)
 c. Little d. Uncertain

→Please explain the reasons for your answer.

Very much:

- That happened through trainings, demo-farms and field trainings.
- Through TOT.
- The project implement field training and field schools.

To some extent:

- Yes, through TOTs which they get also the cooperatives engineers supported farmers by some extension advices for these demo-farms.
- Because no financial incentives.
- Because the trainings were made by the extension department in the directorate and also they have deployed the project to the villages.
- To some extent cooperatives are trying to spread the information which they get to all farmers but there are no extension plans by the cooperatives so the ministry should send these plans to them.
- The new Farming methods are deployed through visiting the fields and also through giving the farmers some guidelines in the cooperatives, but actually, all of that is the ordinary work of the cooperatives and not belong to the project.
- Because the cooperative's' engineers don't have enough experience and also they ministry have not offered any incentives to encourage them to implement the extension flow that is oriented towards the market.

Indicator b.: Existence of new farming activities based on the market-oriented approach within the target agricultural cooperatives.

- a. Very much (1) b. To some extent (5)
 c. Little (1) d. Uncertain (2)

→Please explain the reasons for your answer.

Very much:

- Through the project which did new extension plans also through the cooperative itself (Very much)

To some extent:

- We have contract farming for soybean and sugar beet as a ministry.
- The capacities of the cooperatives are weak.
- During meeting with farmers and persuading them that the new crops will increase their income and that will be through the trainings and the baseline surveys.
- Because no financial incentives.
- One of the new agricultural activities is the field record but some farmers haven't applied it yet.

Little:

- There are no agriculture activities based on market orientation till no because cooperatives don't responsible about marketing completely.

Uncertain:

- Because cooperatives depend in the new activities on projects as this project and some other projects.
- I don't think there are any agricultural activities in the cooperatives other than our project activities, unless a project has been funded like (PRIME project for marketing).

Indicator c.: Extension plans for deploying farming methods by district agricultural office

- a. Very much (3) b. To some extent (2)
 c. Little (2) d. Uncertain (1)

→Please explain the reasons for your answer.

Very much:

- Holding an extension programs on the level of the districts and villages (Very much)
- Districts spread the new agricultural techniques which they get from the agriculture directory also through the extension centers.
- Because the project team follow up with them.

To some extent:

- The central administration of extension put the plan not the district officers.
- The extension engineer follow all the extension plans and the technical guidelines of the district , most of these plans are represented in campaigns like (the intercropping campaigns , the oily crops campaigns and the traditional crops campaigns) or represented in Seminars and training programs. (To some extent)

Little:

- The capacities of the cooperatives are weak.
- Because of the shortage in the number of the engineers in the cooperatives and the districts and also because there is no incentives for them as that work is considered as additional work.

Uncertain:

- I don't know as I'm a horticulture engineer and not an extension engineer (Uncertain)

Indicator d.: Existence of new farming activities based on the market-oriented approach in districts.

- a. Very much (1) b. To some extent (3)
 c. Little (2) d. Uncertain (1)

→Please explain the reasons for your answer.

Very much:

- There are some new activities as contract farming in sugar beet and yellow maize crops.

To some extent:

- The new crops were cultivated after training the farmers and the officers on cultivating them. (To some extent)
- For example: cultivating black cumin crop in some areas for the 1st time and that happened after the TOT. Another example: cultivating potato crop in some areas. (To some extent)
- To some extent there are some agriculture plans and activities which based on the plan which they get from the central administer of the agricultural extension.(To some extent)

Little:

- Because no enough budget to apply.
- Because there isn't enough budget for applying these new activities.

Uncertain:

- The new activities have been only through projects and I don't know even there are any another projects in each village or no (Uncertain)

No Classification:

- Market – oriented approach is unknown for many farmers (n.a.)
- The same like the previous question even for the cooperative or the district, the engineer follow the plan of the central administration but that is away from our project. But in regard to our project, they will follow the project's plans also. (n.a.)

3.2 Achievements of Input

Q3.2. How do you find quality, quantity and timing of the inputs (such as the expertise of personnel or items procured)? Please tick boxes as many as you can evaluate.

(1) Input by the Japanese Side

	(i) Quality			(ii) Quantity		
	a. Appropriate	b. Inappropriate	c. Uncertain	a. Appropriate	b. Inappropriate	c. Uncertain
(i) Equipment	6	2	0	6	2	0
(ii) C/P training in Japan	7	0	0	4	3	0
(iii) Dispatch of Japanese Experts	8	0	0	6	2	0

→If you answer is "b", please specify the issues to be improved.

- I don't get any trainings in Japan till now
- Some of the cooperatives need the computers in their work not the copy machine or the camera like (Mosha cooperative). But the other cooperatives have mentioned that the copy machine and the camera copy machine or the camera was good for them.
- The training in Japan was good. but, you have mentioned in the beginning of the project that there will be a visit to " Kenya" but the visit was canceled, I think visiting Kenya will be more beneficial than Japan because the conditions of Kenya is similar to the conditions of Egypt compared with Egypt and Japan.
- Sending some experts in the most of times is a good idea but, I think sending agricultural experts will be more beneficial for the project.

(2) Input by the Egyptian Side

	(i) Quality			(ii) Quantity		
	a. Appropriate	b. Inappropriate	c. Uncertain	a. Appropriate	b. Necessary to improve	c. Uncertain
(i) Facilities arranged	7	0	0	7	0	0
(ii) Local cost expenditure	0	8	0	0	7	0
(iii) Assignment of Counterpart staffs	8	0	0	7	0	0

→If you answer is "b", please specify the issues to be improved.

- There are no allowance offered from the Egyptian side also the transportation means not offered but we depend completely on the Japanese side in the transportation issue
- I don't get any trainings in Japan till now
- Because there isn't enough budget.
- Because there isn't enough budget for these costs.
- There are no travelling allowances from the Egyptian side to the trainees
- Because there is no enough budget
- The Egyptian side haven't provided any allowances or transportation means for us so we have depended on the Japanese side to provide the transportation means for us.
- Because there isn't enough budget for these costs.

4. Impacts

4.1 Positive and Negative Impacts

Q4.1. If you think any positive and negative impacts of the Project have happened already or will be expected in the future, please specify the impacts and give your comments on them.

Positive impact:

Learning new agricultural techniques/Training/Demo-farm

- Implementing some demo-farm for new crops as oily crops (soya bean-sunflower-sesame)
- Training the farmers practically in their fields, cultivate the crops that the farmers have been trained on it, the farmers' income have increased as a result of the actual application of the technical guidelines of the project.
- Demo-farms have been succeeded for many farmers and cooperatives.
- The expansion of the demo-farms by making trial fields around the main demo-farms and also encouraging them to cultivate new crops.
- Learning new agriculture techniques as intercropping
- Farmers learned how to arrange his ideas in cultivation also how to choose the best time for cultivation and the best time for adding fertilizers and the optimum use of pesticides and how to add them
- Training of the Egyptian team in Japan and implementing the demo-farms increased their experience
- The training of the agriculture engineers, we cultivate new crops in some villages , we make the farming plan and demo farms
- Training the officers in the directorates, the extension engineers and farmers on new crops like the black cumin.
- The technical and the field trainings which contributes to recognize new agricultural techniques.

(1) Change of Farmers' mindset

- Changing the farmer's mind so he changed from cultivating traditional crops to horticulture and vegetables crops
- Making exporters and local traders business dialogue which gave farmers a chance to know the market needs. But I think these business dialogues are still not enough and need some modifications
- If the Japanese side support the exporters meeting continuously, that will leave an effective effect in the future.

(2) Offering some potentials by the project

- The cooperatives get benefits from the demo-farms
- Increasing the farmers' income through women activities
- Cooperatives get benefits as they get some modern machines as copy machines, cameras, and transmitted agriculture experience

(3) Cooperation between Japan and Egypt

- Good cooperation between the Japanese experts and the counterparts

(4) Marketing Committee

- The marketing committee will affect in a positive way if it is applied in a good way.
- Forming the marketing committee which its role is to select the farmers, select the crops and determine the trainings and making contract farming.

Negative impact:

No budget/allowances

- No allowance for counterparts of the directory, districts and cooperatives
- No budget from the ministry and no financial incentives for the workers
- Not offering transportation allowance for the cooperative and district officers.

- The ministry isn't providing budget for the implementation of the project.
- The officers couldn't follow up the demo-farms well because of the inability to provide budget for the project and also not offering transportation allowances for them.
- To deploy the project goals among the neighboring villages in the same district, the cooperatives should organize meetings between the target cooperatives and the other cooperatives. But, our budget is not enough for that.

Individual work/irregular participation of farmers

- Until now, the farmers work individually, we couldn't make them work in a team. For example (the demo-farms that are managed individually are more successful than the demo-farms that are managed by group).

Farmers don't get the maximum benefit ??

- Farmers don't get the maximum benefit from the business dialogues as there are no contracts.
- The project targets small number of farmers
- In the future, the project will work on making another type of the extension flow from the project's target farmers to the rest of the farmer in other villages, also work on the increase of the farmers' income and follow up the implementation of the extension flow by the engineers.
- The farmers couldn't benefit completely from the exporters dialogue because they couldn't make any contract farming.

Women's Activities

- We have exerted a lot of efforts and time on the women activities at the expense of the farmer's activities, and although of that it hasn't succeeded.
- Women activities not good as they took big time and effort but at the end they weren't adequate because women couldn't manage the group working.
- Women activities affected badly on the projects' activities and they didn't get the expected success.
- The women activities weren't so good because they haven't achieved its goal.

5. Sustainability

5.1 Policy and institutional aspects

Q5.1. To which extent do you think that policy and institutional supports from the Government of Egypt to sustain the Project activities and its effects would be continued during the cooperation period of the Project and beyond?

- a. Very much (5) b. To some extent (2)
 c. Little d. Uncertain (1)

→Please explain the reasons for your answer.

Very much:

- The governmental policy works to sustain the project activities.
- The government want to continue the project and implement all its plans to increase the families' income, specially, in Upper Egypt.
- The policy of the Egyptian government work through many projects that work on the increase of the farmers' income, deploying the market oriented agriculture approach and the Upper Egypt development.
- The government policy support the sustainability of the project but, on the other hand, the budget of the government has decreased so the budget of the ministry decreased also.
- The government policy support the project but the shortage only in not planning a budget (Very much)

To some extent:

- The Egyptian government doesn't implement the agreement between the Egyptian side and the Japanese side as they agreed from the beginning that the Japanese side will cover the costs of the project in the first year and the Egyptian side will cover the costs of the other four years but till now there is no budget in the Egyptian ministry for that.

- We have the policy but the budget is very limited.

No Classification:

- The policy is already exist but there is no actual cooperation.

5.2 Financial aspects

Q5.2. To which extent do you think that the Government of Egypt will be able to appropriate sufficient budget for sustaining the Project activities and their effects during and after the Project period?

- a. Very much b. To some extent (3)
 c. Little/No expectation (5) d. Uncertain (1)

→Please explain the reasons for your answer.

To some extent:

- Because they don't implement it from the beginning so I don't expect that they will offer the budget afterwards.
- Because the situation of the Egyptian economy now is not good.
- It's the responsibility of central administration of cooperation in Cairo as they said that if the financial potentials offered the project will be from the priority of the Egyptian government.

Little/No expectation:

- The nonexistence of the ministry's budget affect the officers' interest to follow up the project activities.
- There are no expectations because the economic situations as the ministry can't allocate budget for that.
- I don't expect that the Egyptian government will assign a budget.
- I don't expect that from the government because it couldn't provide budget for the previous phases "the main phases" so I think that it won't do that for the coming phase "follow-up phase".
- Because of the difficult economic conditions.

5.3 Organizational and technical aspects

Q5.3. Do you think the capacities of extension workers (extension engineers and extension workers) and agricultural cooperatives staffs of the target districts and villages have been developed through the training of the Project to such an extent as to implement the Project activities by themselves during the remaining Project period?

- a. Yes. (4) b. Partly yes (5) c. No d. Uncertain

→Please explain the reasons for your answer.

Yes:

The experience which they get from the project they will spread in the coming periods.

Because the engineers in the cooperatives will continue to expand the technical techniques which they get during the training and also from the demo-farms.

The information that the trainings provide is so easy to understand so that will have a positive effect on the officers' experience.

Because they got effective and good project activates and this have good effect for all levels from the engineers until the farmers.

Partly yes:

- They will still following up the demo-farms but they won't be able to make any meetings with the traders or the exporters alone.
- While the project, the capacity of the extension engineers increased but I expect they will not continue after the project.
- Because that relates to the officers' incentives and that wasn't available since the beginning of the project.

- Through the gained experience from the project as demo-farms also they have been learned new marketing techniques as visiting markets and business dialogues.
- The capacities of extension workers have been developed but they aren't following up the implementation of the project activities.

6. If you have any comments/suggestions on the Project, please describe them.

- Implementing more technical trainings in the fields specially for vegetables crops
- Choosing other villages other than the project target villages which not cultivated new crops and give them trainings for that new crops and try to implement some field training and demo-farms there.
- Expand the training period in Japan as it was not enough for the training.
- Activate the cooperation role specially in the agriculture cooperatives.

- The project should offer:
 - Financial incentives
 - Transportation
 - find a suitable way to make the females more involved
- Generalizing the Project to cover all the districts of the governorate to get maximum benefits in all villages (increasing the villages number) Making an incentive for whom are working in the project
- It is a very good project as its goals are to raise the experience of the extension engineers and raise the families' income. But beside all of that we should care about the incentives as it may affect the sustainability of the project.
- Thank you for the Japanese side for its interest in developing Upper Egypt.
- Implementing more demo-farms in the next project stages specially in the villages which the project don't targets
- Giving an opportunity to some district engineers to attend the training in Japan to spread the experience in the villages and cooperatives
- Increasing the cooperation opportunities between the project and NGOs which specialized in marketing
- No any financial incentives for the team work/ Good point: the selected farmers of the project their income increased
- We are almost finished the 1st 3 phases and we will start the following up phase, but I think this phase won't be beneficial because the following up will be theoretically, as the most of the demo-farms will be finished. So, I have some suggestions:-

1- Selecting some villages other than the previous villages to train them on new crops and make demo-farms there.

2- Make more trainings for the previous villages specially the villages that don't have enough experience like El-Nawawra village.

3- Give an opportunity for the target districts" engineers to travel to japan to benefit from the Japanese experience and deploying it in the all villages.

4- Give an opportunity for cooperation with the NGOs that specializes in marketing.

- The necessity of providing incentives for the directorate, districts and cooperatives officers.
- Providing suitable transportation means for following up the project activities.
- Put a suitable way for combining the women activities in the project.

**Mid-term Review on Improving Small-Scale Farmers' Market-Oriented Agriculture Project (ISMAP)
Questionnaire for Egyptian Counterparts of ASFS (CAAC), AES (CAEE) and
Agricultural Directorate of Minia and Assuit Governorates**

The Number of respondents from Minia Governorate: 5 (R1-R5)

PART I: Questions on Implementation Process

Q1: Please describe what activities you have implemented in ISMAP

R1: Market survey – Business dialogue with local companies and exporters – Farmers trainings – Discussions with farmers

R2: Explanatory meetings – Practical trainings on field – Women's trainings – Farmers trainings – Market Survey – Business Dialogue – Demonstration farms establishment

R3: Target Village cooperatives selection – Explanatory meetings to the farmer – Conduct baseline survey to the target farmer – Conduct market survey with farmers – Conduct business dialogue with traders and exporters – Establish demo farms for the target crops – Target women related activities – Arrange the technical training to the farmers.

R4: Participation in all the project's activities – Business dialogue – Market survey – demo farms – gender activities.

R5: Market survey - Business dialogue – TOT training – Women activities

Q2: How do you find (i) communication and (ii) information sharing between you and the Japanese experts?

a. Very smooth (3) b. More or less smooth (2) c. Not smooth d. Uncertain

→Please describe reasons for your answer.

Very smooth:

- Because of holding the regular meetings.
- JICA team assistant and JICA team members are present all the time.
- Because there are translators with the Japanese team.

More or less smooth:

- Communication is smooth because of holding regular meetings. There is an interpreter who is always here all the time.
- Smooth communication through the weekly meetings held by the team members who all share in monitoring and visiting the targeted villages.

(ii) a. Very smooth (2) b. More or less smooth (3) c. Not smooth d. Uncertain

→Please describe reasons for your answer.

Very smooth:

- Information sharing between the team is very smooth.
- Regular meetings and information sharing are done.

More or less smooth:

- Sharing information is smooth. It is considered as a monitoring for implemented activities.
- Exchanging information and experience with the Japanese team.
- Because we easily got the information through the translators, and if we needed to inquire any information we ask the translators to convey our point.

Q3: Do you think the way of transferring skills/knowledge to you from the Japanese experts under ISMAP is appropriate (e.g. technical guidance from Japanese experts through various trainings, etc.)?

- a. Yes (4) b. Partly yes c. No d. Uncertain (1)

→Please describe reasons for your answer.

Yes:

- Through my participation in implementation of the activities.
- Experience is gained through planning for the project's implementation.
- Through the workshops which are very useful to our Egyptian team, engineers, farmers and females. The Japanese team provided us the technical trainings which were useful for us and for the farmers who learnt agricultural techniques.

Q4: Do you think that the Project activities are in accordance with your field of expertise, capabilities, and interests?

- a. Yes. (5) b. Partly yes c. No d. Uncertain

→Please describe reasons for your answer.

Yes:

- Because I work in marketing section.
- Because I work in the marketing department, specially marketing agriculture products.
- I am an extension engineer and project activities are closely related to my work.
- Because I'm an agricultural engineer; my specialty is in agricultural projects.
- Because the project activities serve the rural development, especially the small- scale farmers.

Q5: Do you think that your professional capabilities/skills have been enhanced through participation in the Project activities?

- a. Yes. (4) b. Partly yes (1) c. No d. Uncertain

→Please describe reasons for your answer.

Yes:

- The project provided technical trainings, and through participating in planning.
- I also get closer to the farmers, and captured their obstacles through project activities.
- Through the participation in the implementation of ISMAP project.
- We participated from the beginning of the project, starting with attending the meeting of the protocol cooperation and all the ISMAP project stages – We participated also in the first stage of IMAP and attended all the meetings held for discussion and implementation.

Partly yes:

- I have joined many other projects and my capabilities enhance through participation.

Q6: Do you think that your commitment to and participation in the Project activities were sufficient?

- a. Sufficient (5) b. Not sufficient c. Uncertain

→Please describe reasons for your answer.

Sufficient:

- I have joined in several activities.
- I join all the activities.
- I have participated in project activities since the beginning.
- I managed to monitor all the activities in all the targeted villages.
- I'm the one who is in charge of the Egyptian team in Minia, so I manage the preparations for the projects' activities, and the necessary preparation in the directorate, districts, the university, some companies and hotels, the Agricultural research centers, and the Veterinary side.

PART II: Questions for Five Evaluation Criteria

1.Relevance

Q1.1: Do you think that ISMAP is in association with the development needs of the target areas and societies in the two target governorates (Minia and Assuit)?

- a. Yes. b. Partly yes (4) c. No (1) d. Uncertain

→ *Please describe reasons for your answer.*

Partly yes:

- The budget is limited. Project should cover more areas.
- There were many development projects in Minya in the past years, and the project aims at improving the livelihood of small scale farmers (.).
- The aim of the project is to change the traditional way of thinking of the small-scale farmers to improve and increase their income.
- Because the project serves a small category which is the "small scale farmers" – The technical trainings enabled the farmers to raise their income and save the much of the farming inputs expenditure, as the production cost is very costly compared to the small-scale farmers' income.

No:

- The project budget is limited, and it cannot cover all the villages of the governorate.

2. Effectiveness**2.1 Degree of attainment of Project Purpose**

Project Purpose: Agricultural incomes of the target small-scale farmers and surrounding small-scale farmers in the project are increased.

Q2.1: To which extent do you think Project Purpose has been attained as of December 2016 in accordance with the following indicators?

Indicator a. :The agricultural incomes of the target small-scale farmers in the Project are increased by 40% - 100% by target crop and village, and 6% - 22% by household and village (detail is attached herewith) (Information about the indicator is as shown in PDMI-(1), (2) and (3))

- a. Very much (1) b. To some extent (2)
 c. Little d. Uncertain (2)

→*Please explain the reasons for your answer.*

Very much:

- The farmers' income has already raised after the project through their high production rate of harvest by analyzing the results of the demo farms, and comparing their recent production rate with the previous rate.

To some extent:

- Farmers' income increased through participating in the project activities.
- Because the project duration in each village is short, so the project's concept can't be disseminated widely all over the village.

Uncertain:

- The project cannot evaluate itself. The project does its best to support farmers and women (Uncertain)

2.2 Contributing and Inhibiting Factors

Q2.2: If you think that there are contributing and inhibiting factors that have affected the achievement of Project Purpose,

→*Please specify the factors and give your comments on them.*

Contributing Factors:

- Provide technical trainings – Conduct business dialogue and market survey
- Farmers are in need for the technical and financial assistance
- The Japanese budget – The TOT – The business dialogue.
- The market survey was a new step for the farmers – TOT – Providing computers and printers to the districts and the agricultural cooperatives – providing a modern photo copy machine – providing cameras for the Egyptian team – the Japanese team is distinguished with accomplishing doing tasks quickly – The agricultural unit, either in the directorate or in the cooperatives – the Egyptian team – The university and the agricultural research centers for providing the effective technical support.

Inhibiting Factors:

1. Limited budget
 - The Limited budget
 - Project budget is limited and cannot achieve the desired goal.
 - The budget is so limited for implementing the projects' activities that affects the number of the demo farms and the females' activities, and the result that few number of farmers benefited from the project in each village. The main reason is that the ministry didn't provide a budget for the project.
2. Farmers' mindset
 - The project targets a category of farmers which have little ambition
3. Lack of transportation means/farm inputs/trainings to farmers/females
 - Not often visiting the villages due to the lack of transportation – The time of visiting the farmers was at the same time of their farming time – lack of incentives to the farmers as seeds – fertilizers and inputs – No practical trainings in the field in a wide scale for the farmers – No practical trainings for the rural females.

3. Efficiency

3.1. Achievements of the Output

Q3.1. To which extent do you think the Output 1 has been attained as of January 2016 in accordance with the following indicators?

Output1: Market-oriented extension approach is established.

Indicator a.: The draft plan of extension flow based on the market-oriented approach is formulated.

- a. Very much (2) b. To some extent (3)
 c. Little d. Uncertain

→Please explain the reasons for your answer.

Very much:

Extension flow was formulated and reviewed after reflecting lessons.

Discussion were done to formulate the draft plan.

To some extent:

Extension flow was formulated and is reviewed.

Because all the steps of the extension flow have been done except the business dialogue of the exporters.

Indicator b.: The average score of evaluation on formulation and revision process of the plan of extension flow is higher than 4 in the five-grade evaluation by the relevant stakeholders.

- a. Very much (11) b. To some extent (2)
 c. Little d. Uncertain (1)

→Please explain the reasons for your answer.

Very much:

- Extension flow was arranged in a good and efficient way.

- Formulation and evaluation of extension flow are done successfully.

Indicator c.:The extension flow based on the market-oriented approach, which is revised through implementing project activities, is approved by the Joint Steering Committee (JSC).

- a. Very much (5) b. To some extent
 c. Little d. Uncertain

→Please explain the reasons for your answer.

Very much:

Extension flow was revised and approved by JSC members.
 Extension flow was formulated and agreed on all the steps. JSC members approved it.
 Extension flow was revised and approved by project team.
 Because it is considered the best way for increasing the small- scale farmers' income.
 All the activities have been already accomplished according to the extension flow which was discussed.

Output 2: Agricultural techniques for value-added products are examined and developed.

Indicator a.: Guidelines and manuals on the examined and developed agricultural techniques are made.

- a. Very much b. To some extent (1)
 c. Little (1) d. Uncertain (3)

→Please explain the reasons for your answer.

To some extent:

- The extension engineers and farmers got benefited from such manuals, as the farmers witnessed high yield rate during the project period and after finishing it.

Little:

- Guidelines and manuals are not enough and do not cover all topics.

Uncertain:

- All the extension manuals, which are useful to farmers, existed in the extension department in Minia.
- No guidelines were done .

Indicator b.: More than 70% of the examined and developed agricultural techniques are included to the Training of Trainers for extension staff.

- a. Very much (1) b. To some extent (2)
 c. Little d. Uncertain (2)

→Please explain the reasons for your answer.

Very much:

- The training, which preceded farming, was very useful for the extension engineers and farmers who implement the proper agricultural techniques in their recent farming. Some members of the Egyptian team, extension engineers and farmers attended that training which was very useful.

To some extent:

- It is included in the TOT.
- The new techniques weren't implemented to all the crops because such techniques are implemented according to the land variety (sandy – salinity...) and the irrigation amount.

Uncertain:

Output3: Capacities for making and implementing action plans of the agricultural cooperatives are strengthened.

Indicator a.: Action plans for improving agricultural incomes of small-scale farmers are made by the target agricultural cooperatives.

- a. Very much (2) b. To some extent
 c. Little (1) d. Uncertain (2)

→Please explain the reasons for your answer.

Very much:

- According to the cooperative's capacities in facing the difficult circumstances.

- The cooperatives' heads made such plans with the help of board members. The Japanese team was keen to know the strength and weakness points.

Little:

Village cooperative has insufficient number of Staff.

Indicator b.: More than 70% of activities based on the action plans are implemented.

- a. Very much (2) b. To some extent (1)
 c. Little d. Uncertain (2)

→Please explain the reasons for your answer.

Very much:

- They are already implemented as farmers made the action plan before planting and they learnt how to make it.

To some extent:

- Demonstration farms were established based on the farming plan.

Output4: Farming methods based on the market-oriented approach are deployed within the target agriculture cooperatives and in districts.

Indicator a.: Extension plans for deploying farming methods by the target agricultural cooperatives

- a. Very much (1) b. To some extent (2)
 c. Little d. Uncertain (2)

→Please explain the reasons for your answer.

Very much:

- As possible as the cooperative can make. (Very much)

To some extent:

- Extension banners were distributed to the cooperatives, and also some extension manuals were provided from the ministry of agriculture "from the ARC".

Indicator b.: Existence of new farming activities based on the market-oriented approach within the target agricultural cooperatives.

- a. Very much (1) b. To some extent (2)
 c. Little d. Uncertain (2)

→Please explain the reasons for your answer.

To some extent:

- Conducting market surveys to the target farmers.
- As they are not implemented before in these cooperatives except by other NGO.

Indicator c.: Extension plans for deploying farming methods by district agricultural office

- a. Very much (2) b. To some extent
 c. Little d. Uncertain (3)

→Please explain the reasons for your answer.

Very much:

- There are extension manuals, in the district office, which are distributed to the farmers.

Indicator d.: Existence of new farming activities based on the market-oriented approach in districts.

- a. Very much (1) b. To some extent

- c. Little d. Uncertain (3)

→Please explain the reasons for your answer.

Very much:

- Because they are already implemented through the project in the selected villages (for the 9 districts) over the three stages.

3.2 Achievements of Input

Q3.2. How do you find quality, quantity and timing of the inputs (such as the expertise of personnel or items procured)? Please tick boxes as many as you can evaluate.

(1) Input by the Japanese Side

	(i) Quality			(ii) Quantity		
	a. Appropriate	b. Inappropriate	c. Uncertain	a. Appropriate	b. Inappropriate	c. Uncertain
(i) Equipment	4	0	1	3	1	1
(ii) C/P training in Japan	5	0	0	3	2	0
(iii) Dispatch of Japanese Experts	3	1	1	2	2	1

→If you answer is "b", please specify the issues to be improved.

- The training time was insufficient.

(2) Input by the Egyptian Side

	(i) Quality			(ii) Quantity		
	a. Appropriate	b. Inappropriate	c. Uncertain	a. Appropriate	b. Necessary to improve	c. Uncertain
(i) Facilities arranged	5	0	0	3	0	0
(ii) Local cost expenditure	1	2	2	0	3	2
(iii) Assignment of Counterpart staffs	5	0	0	3	1	0

→If you answer is "b", please specify the issues to be improved.

- No budget by the ministry
- There is no budget allocated by the ministry

4. Impacts

4.1 Positive and Negative Impacts

Q4.1. If you think any positive and negative impacts of the Project have happened already or will be expected in the future, please specify the impacts and give your comments on them.

Positive:

- Good communication:
 - The good communication between the Japanese and the Egyptian team.
 - The cooperation and harmony between the Egyptian team and the Japanese team have great effects on the project.
- Demo farms:
 - The implementation of the demo farms and using the modern techniques in planting.
 - Selecting the marketing committee – selecting the demo farms and the trial farms to raise the competition between the farmers and spread the new techniques among large number of farmers.
 - Sharing the costs of the inputs lead the farmers to take care of the farms, either the demo or the trial farms to achieve high production rate.
- Market survey:
 - Market Survey helped the farmers so much, as they can check the market needs

4. Business dialogue:
 - Try to link the small- scale farmers and the exporting companies through holding meetings.
5. Women's activity
 - Implementing activities for target women to teach them how to sell their products and consequently, their income will increase.
6. Others:
 - The Japanese team is keen to implement a project in Upper Egypt where the poverty rate is very high and the agricultural labors exist in high number, especially the small-scale farmers.

Negative:

1. Limited budget:
 - Project budget is limited – implementation period of extension flow in each target village is short
2. Insufficient attendance of farmers:

Not all the targeted farmers attend all the project's meetings.
3. Trainings:
 - Few trainings, outside or inside Egypt, are provided for the Egyptian team to gain experience about the modern techniques and equipment.
4. Time to spend on the Project by CPs/Egyptian implementers:
 - The Egyptian team members have other work to do, so their time is not totally free for the project that cause many difficulties for spreading the project concept.
- Business dialogue:
 - The business dialogue of exporters hasn't been held, that made the farmers miss the chance for the contract farming.
5. Others:
 - The project's duration is not enough for teaching the farmers about marketing.

5. Sustainability

5.1 Policy and institutional aspects

Q5.1. To which extent do you think that policy and institutional supports from the Government of Egypt to sustain the Project activities and its effects would be continued during the cooperation period of the Project and beyond?

- | | |
|-------------------------------------------|------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> a. Very much (2) | <input type="checkbox"/> b. To some extent (1) |
| <input type="checkbox"/> c. Little | <input type="checkbox"/> d. Uncertain (2) |

→Please explain the reasons for your answer.

Very much:

- The project period is not enough for spreading its agricultural economical concepts for increasing the small-scale farmers' income.
- The government tries to improve the income of the small-scale farmers and their families.

To some extent:

- Because of the current economic conditions.

Uncertain:

- Ministry of Agriculture has not allocated any budget for the project.

5.2 Financial aspects

Q5.2. To which extent do you think that the Government of Egypt will be able to appropriate sufficient budget for sustaining the Project activities and their effects during and after the Project period?

- | | |
|-------------------------------------------------------|--------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> a. Very much (1) | <input type="checkbox"/> b. To some extent |
| <input type="checkbox"/> c. Little/No expectation (3) | <input type="checkbox"/> d. Uncertain (1) |

→Please explain the reasons for your answer.

Very much:

- The government provided agricultural engineers (The Egyptian team) for the volunteering work for

the sake of the project.

Little:

- Egypt is facing difficult economic condition.
- Because the budget was not provided by the ministry of agriculture for this project.

5.3 Organizational and technical aspects

Q5.3. Do you think the capacities of extension workers (extension engineers and extension workers) and agricultural cooperatives staffs of the target districts and villages have been developed through the training of the Project to such an extent as to implement the Project activities by themselves during the remaining Project period?

- a. Yes. (2) b. Partly yes (1) c. No d. Uncertain

→Please explain the reasons for your answer.

Yes:

- The attendance of the extension engineers with the farmers during the time of planting and monitoring these demo farms.

Partly yes:

- The project provided trainings and information about agribusiness stakeholders.

6. If you have any comments/suggestions on the Project, please describe them.

- We wish further cooperation in various fields.
- We thank the Japanese people for the provided expertise. We thank for your cooperation.
- No comment
- Extending the project's duration.
- Providing training, either in Egypt or outside Egypt, for the engineers to increase their experience for serving the project.
- Providing the technique of the greenhouses.
- The project is very useful as many farmers get benefited, but choosing only one cooperative from each district wasn't enough for spreading the project's concepts and the extension flow of the project.
- Thank you to the Japanese people for their distinguished efforts to the Egyptian people.

